

横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事

図 面 リ ス ト			
図 番	図 面 名 称	図 番	図 面 名 称
A-01	表紙、図面リスト	A-36	配管類改修立面図 1号館西側：③断面
A-02	建築改修工事 特記仕様書その1	A-37	配管類改修平面図 1号館西側：X0通り
A-03	建築改修工事 特記仕様書その2	A-38	配管類改修立面図 1号館東側：①断面
A-04	建築改修工事 特記仕様書その3	A-39	配管類改修立面図 1号館東側：③断面
A-05	建築改修工事 特記仕様書その4	A-40	配管類改修平面図 1号館東側：X3通り
A-06	工事内容、案内図、安全対策、一般事項、足場設置基準	A-41	配管類改修立面図 1号館北側：①断面
A-07	配置図	A-42	配管類改修立面図 1号館北側：③断面
A-08	改修内容一覧表、補修数量集計	A-43	配管類改修平面図 1号館北側：Y6通り他
A-09	外壁改修仕様、防水改修仕様	A-44	配管類改修立面図 1号館屋階：PH他
A-10	1号館1階・2号館1階 平面図	A-45	補修立面図 1号館西側：①断面
A-11	1号館中2階・2号館2階 平面図	A-46	補修立面図 1号館西側：②断面
A-12	1号館2階・2号館3階 平面図	A-47	補修立面図 1号館西側：③断面
A-13	1号館3階・2号館4階 平面図	A-48	補修立面図 1号館西側：④断面
A-14	1号館4階・2号館屋階 平面図	A-49	補修立面図 1号館南側：①断面
A-15	1号館5階・2号館PH階 平面図	A-50	補修立面図 1号館南側：②断面
A-16	1号館PH階・2号館PH屋階 平面図	A-51	補修立面図 1号館南側：③断面
A-17	1号館PH屋階 平面図	A-52	補修立面図 1号館南側：④断面
A-18	改修立面図 1号館西側・南側：①断面	A-53	補修立面図 1号館東側：①断面
A-19	改修立面図 1号館西側・南側：②断面	A-54	補修立面図 1号館東側：②断面
A-20	改修立面図 1号館西側・南側：③断面	A-55	補修立面図 1号館東側：③断面
A-21	改修立面図 1号館西側・南側：④断面	A-56	補修立面図 1号館東側：④断面
A-22	改修立面図 1号館東側・北側：①断面	A-57	補修立面図 1号館北側：①断面
A-23	改修立面図 1号館東側・北側：②断面	A-58	補修立面図 1号館北側：②断面
A-24	改修立面図 1号館東側・北側：③断面	A-59	補修立面図 1号館北側：③断面
A-25	改修立面図 1号館東側・北側：④断面	A-60	補修立面図 1号館北側：④断面
A-26	改修立面図 1号館屋階PH他	A-61	補修平面図 1号館：屋階・PH階
A-27	改修詳細図その1	A-62	外壁の改修工法 詳細図
A-28	改修詳細図その2	A-63	仮設計画図その1（参考図）
A-29	1号館1階・2号館1階 天井伏図	A-64	仮設計画図その2（参考図）
A-30	1号館中2階・2号館2階 天井伏図	A-65	仮設計画図その3（参考図）
A-31	1号館2階・2号館3階 天井伏図	A-66	仮設計画図その4（参考図）
A-32	1号館3階・2号館4階 天井伏図		
A-33	1号館4階・2号館屋階 天井伏図		
A-34	1号館5階・屋階 天井伏図		
A-35	配管類改修立面図 1号館西側：①断面		

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	表紙、図面リスト	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-01
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

②

仮設工事

1 騒音・粉じん等の対策

②足場その他

③既存部分の養生

4 仮設間仕切

5 監督員事務所

6 監督員事務所の設備、備品

⑦工事標示板

⑧工事用水

⑨工事用電力

⑩仮囲い

⑪搬出入車両の駐車場所、資機材の置場所

⑫その他

騒音・粉じん等の対策
・防音パネル
・防音シート
防音パネル等の取付け足場等の範囲等
※図面による

内部足場 種別
外部足場 ※脚立、足場板等
○外部足場 ○設置する
(枠組み足場については、特則仕様書による)
○防護シートによる養生 ○行う
材料、撤去材等の運搬方法
・A種 ・B種 ・C種 ○D種 ・E種

既存部分の養生 ※ビニルシート等
既存家具等の養生 ※ビニルシート等
固定された備品、机・ロッカー等の移動 ・行う(図面による)
外部開口部の養生 ・行う(図面による)

仮設間仕切等の種別
種別 下地 材質 充填材 塗装
・A種 ・木下地 ・せっこうボード (※9.5) 厚さ mm ※無し
※B種 ※軽量鉄骨 ※合板 (※9.0)
・C種 ・単管下地 防災シート
仮設扉 ※木製扉 ※合板張り
・鋼製扉 ※片面フラッシュ程度

・設ける
・既存建物内の一部を使用する
・構内に新設する
監督員事務所を設ける場合の規模
・10m程度 ・20m程度 ・30m程度 ・m程度

備品の設置
備品の種類()
備品()

※工事現場の適切な場所に「特則仕様書」1.24の標示板を設ける。
(900mm×1800mm、白地にゴシック黒文字)

構内既存の施設
※利用できる ○有償 ・無償)
・利用できない

構内既存の施設
※利用できる(・有償 ○無償)
・利用できない

○位置・仕様については参考図を参照のこと。

※工事現場内
○位置・仕様については参考図を参照のこと。

○仮設トイレ
・設置する ○施設利用可

7 脱気装置

8 アスファルト防水

・設ける [3.3.3][3.4.3][3.5.3][3.6.3]

種類	材質	設置数量
平面部脱気型	・ポリスチレン ・ABS樹脂 ・ステンレス ・铸铁 ・	※製造所の指定による ・1 個/ 80㎡ ・ 個/ ㎡
立上がり部脱気型	・合成ゴム ・塩化ビニル樹脂 ・ステンレス ・鋼銅	※製造所の指定による ・1 個/立上り長さ10m ・ 個/ ㎡

防水保証期間
(引渡しの日から
・屋根 年間 ・外壁 年間 ・その他 年間)

施工箇所	工法	種別
	・PIB	※B-2 ・B-1 ・B-3
	・PIBI	※BI-2 ・BI-1 ・BI-3
	・P2AI	※AI-2 ・AI-1 ・AI-3
	・P2A	※A-2 ・A-1 ・A-3
	・M4C	※C-2 ・C-1 ・C-3
	・M3D	※D-2 ・D-1 ・D-3
	・M3D	※D-2 ・D-4
	・M3D	※D-2 ・D-1
	・M4D	
	・PIE	※E-2 ・E-1

アスファルトの種類 [3.2.2(7)]による
押え金物
※アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度

断熱材 [3.3.2]

工法	種類	厚さ(mm)
PIBI P2AI T1BI	※JIS A952I(建築用断熱材)に基づく押出法 ポリスチレンフォーム断熱材3種 bA(スキン層付き)	・
PODI M3DI M4DI	※JIS A952Iに基づく発泡プラスチック断熱材 (硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号若しくは 2号の場合、透湿係数を除く規格に準ずるもの)	・

絶縁用シート [3.3.2]

工法	種類	厚さ(mm)
P1B、P2A	※ポリエチレンフィルム	・0.15mm以上
P1BI、P2AI T1BI	※フラットヤーンクロス(70g/㎡)	・

PIE、P2Eの保護層 ・設ける
屋根露出防水絶縁断熱工法の断熱材張りじまい位置
※図面による [3.3.4(4)(g)]
平場の保護コンクリートの施工 [3.3.5]
こて仕上げの場合 厚さ ※80mm以上
仕上材がある場合 厚さ ※60mm以上
屋上排水溝 ※図面による

立上り部の保護の方法 [3.3.5]
・乾式保護材 製造所の仕様による
・れんが押さえ
・コンクリート押さえ
・モルタル押え(屋内)

防水保証期間
(引渡しの日から
・屋根 年間 ・外壁 年間 ・その他 年間)

屋根露出防水絶縁断熱工法に用いる断熱材 [3.4.2]

材質	厚さ(mm)
※JIS A 952IのA種硬質ウレタンフォーム保温材の保温板 2種1号又は2号で透湿係数を除く規定に適合するもの	・

防水層の種類 (JIS A6013)による [表3.1.1][3.4.1][3.4.2][3.4.3]

施工箇所	防水改修工法の種類	材質	厚さ(mm)
	・M4AS	・AS-T1	下層用 改質アスファルトシート (非露出複層防水用R種) ※2.5 上層用 改質アスファルトシート (露出複層防水用R種) ※3.0
		・AS-T2	改質アスファルトシート (露出単層防水用R種) ※4.0
		・AS-J2	粘着層付改質アスファルトシート (露出単層防水用R種) ※3.0

10 合成高分子系ルーフィングシート防水

⑪塗膜防水

・M3AS
・POAS

・AS-T3

下層用 部分粘着層付改質アスファルトシート
(非露出複層防水用R種) ※1.5
上層用 改質アスファルトシート
(露出複層防水用R種) ※3.0

・AS-T4

改質アスファルトシート
(露出単層防水用R種) ※4.0

・AS-J1

下層用 部分粘着層付改質アスファルトシート
(非露出複層防水用R種) ※1.5
上層用 粘着層付改質アスファルトシート
(露出複層防水用R種) ※2.0

・AS-J3

粘着層付改質アスファルトシート
(露出単層防水用R種) ※3.0

・M3ASI
・M4ASI
・POASI

・ASI-T1

下層用 部分粘着層付改質アスファルトシート
(非露出複層防水用R種) ※1.5
上層用 改質アスファルトシート
(露出複層防水用R種) ※3.0

・ASI-J1

下層用 部分粘着層付改質アスファルトシート
(非露出複層防水用R種) ※1.5
上層用 粘着層付改質アスファルトシート
(露出複層防水用R種) ※2.0

防水保証期間
(引渡しの日から
・屋根 年間 ・外壁 年間 ・その他 年間)

ルーフィングシートの種類及び厚さ [3.5.2][3.5.3]
(JIS A6008)による [表3.5.1、表3.5.2]

施工箇所	工法	種別	仕上塗料	使用分類
	・POS ・POS1 ・S4S ・S4S1	・S-F1 ・S-M1 ・S1-F1 ・S1-M1	・	※非歩行 ・軽歩行
		・S-F2 ・S-M2 ・S1-F2 ・S1-M2		
	・S3S ・S3S1	・S-F1 ・S1-F1 ・S-F2 ・S1-F2	・	※非歩行 ・軽歩行
	・M4S ・M4S1	・S-M1 ・S-M2 ・S1-M1 ・S1-M2	・	※非歩行 ・軽歩行

絶縁用シート、可塑剤移行防止用シート
※発泡ポリエチレンシート

既存防水層下地がPCコンクリート部材及びALCパネルの場合 (S-F1・S-F2)
目地処理 ・行う(工法)
増張り ・行う(工法)
種別S-F1及びS1-F1の場合のPCコンクリート部材 [3.5.4]

入隅部増張り
機械式固定工法によるルーフィングシートの風圧力に対応した工法 [3.5.4(f)(2)]

保護層の施工(屋内保護密着工法)
・床塗り工法 ※[3.3.5(d)(1)~(3)]による
・下地材塗り ※[6.15.6(c)(1)]に準ずる
・保護コンクリートの厚さ mm
・立上り部の保護材塗り厚 ※7mm以下 mm

防水保証期間
(引渡しの日から
・屋根 年間 ・外壁 年間 ・その他 年間)

ウレタンゴム系塗膜防水 [表3.1.1][3.6.3][表3.6.1~表3.6.2]
及びゴムアスファルト系塗膜防水

施工箇所	工法	種別	その他
	・POX	・X-1 ・X-1H	仕上塗料塗り
	・L4X	・X-2 ・X-2H	
	・PIY ・P2Y	※Y-2	保護層 ※適用する ・適用しない

・歩行用 ・非歩行用
※非破壊膜厚管理工法 膜厚測定結果報告書(図面)を提出
X-1:全面測定 メーカー非対応の場合は監督員と協議のこと
X-2:1か所以上/①1m~③3m程度 施工数量に応じて監督職員と協議のこと
※ルート屋根の場合:線測定15m/100m2程度
※JIS A 6021 外壁用塗膜防水の適用は図面による

⑫シーリング

⑬とい

14 アルミニウム製笠木

15 その他

シーリング改修工法 [3.1.4][表3.1.2][3.7.4~3.7.7]

・シーリング充填工法
・シーリング再充填工法
・拡幅シーリング再充填工法
・ブリッジ工法

シーリング材の目地寸法 [3.7.3]

箇所	幅(mm)	深さ(mm)
コンクリート打継目地、ひび割れ誘発目地	○20以上	○10以上
[5.13.3]以外のガラス回り	○5以上	○5以上
上記以外	○10以上 ○図示	○10以上 ○図示

ブリッジ工法 ポンドブレード張り ・適用する [3.7.7]
エッジング材張り ・適用する
接着性試験 ※簡易接着性試験 [3.7.8][図3.7.1]
・引張接着性試験

といその他の材質 ※図面による [3.8.2][表3.8.1]
防露材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [3.8.2]
清掃口
銅管製との防露 ・行う(工法 ※「改修標仕」表3.8.4による)
たてどい受金物の取付け ※図面による [3.8.3]
・「改修標仕」表3.8.2による
ルーフトレン ・ろく屋根用 (・縦型 ・横型) [3.8.3]

種類	製品幅(mm)	板厚(mm)	表面処理の種類	固定間隔	備考
押出し ・250形 ・300形 ・350形	・250 ・300 ・350	※2.0 ・1.6 ・1.8	※AB-1種 ・AB-2種	固定方法 および間隔 は、品質計画 で定めたもの	隅角部および 突出部等 の役物は、本体 製造所の仕様 による
折り曲げ形	・	※2.0	・		

笠木の地下補修 [3.9.3]
・行う(工法 ※図面による)
笠木の取付方法 [3.9.3]
※「改修標仕」3.9.3(b)による ・図面による

①施工数量調査

②ひび割れ部改修工法

③欠損部改修工法

4 その他

調査範囲 ※躯体コンクリート面 ・図面による [1.5.2]

調査内容
ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。
コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
調査報告書の部数 ※2部

※樹脂注入工法 [4.1.4][4.2.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)	備考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2~1.0	・200~300		
・手動式エポキシ樹脂注入工法 ・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.2~1.0	・250~300		

注入材料 [4.2.4]
※建築補修用注入エポキシ樹脂(JIS A6024)
・低粘度形 ・中粘度形
・確認方法 ※コアの抜き取り ()
(抜取り部の補修方法:)
(抜取り個数:)
・Uカットシール材充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.6]

充填材料	品質・規格等	備考
・シーリング用材料	※1成分形または2成分形 ポリウレタン系 シーリング材	ポリマーセメント モルタルの充填 ※行う ・行わない
・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024	

ポリマーセメントモルタルの品質・規格等 実績等の資料を監督職員に提出する [4.1.4][4.2.4][4.2.7]
・シール工法

シール材料	品質・規格等
・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂	・JIS A 6024

※充填工法 [4.1.4][4.2.4][4.2.8]

充填材料	品質・規格等
○エポキシ樹脂モルタル	○JIS A 6024
○ポリマーセメントモルタル	

・

備考

工 事 名 横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ)
1号館外壁その他改修工事

図面名称 建築改修工事 特記仕様書その2 図面番号

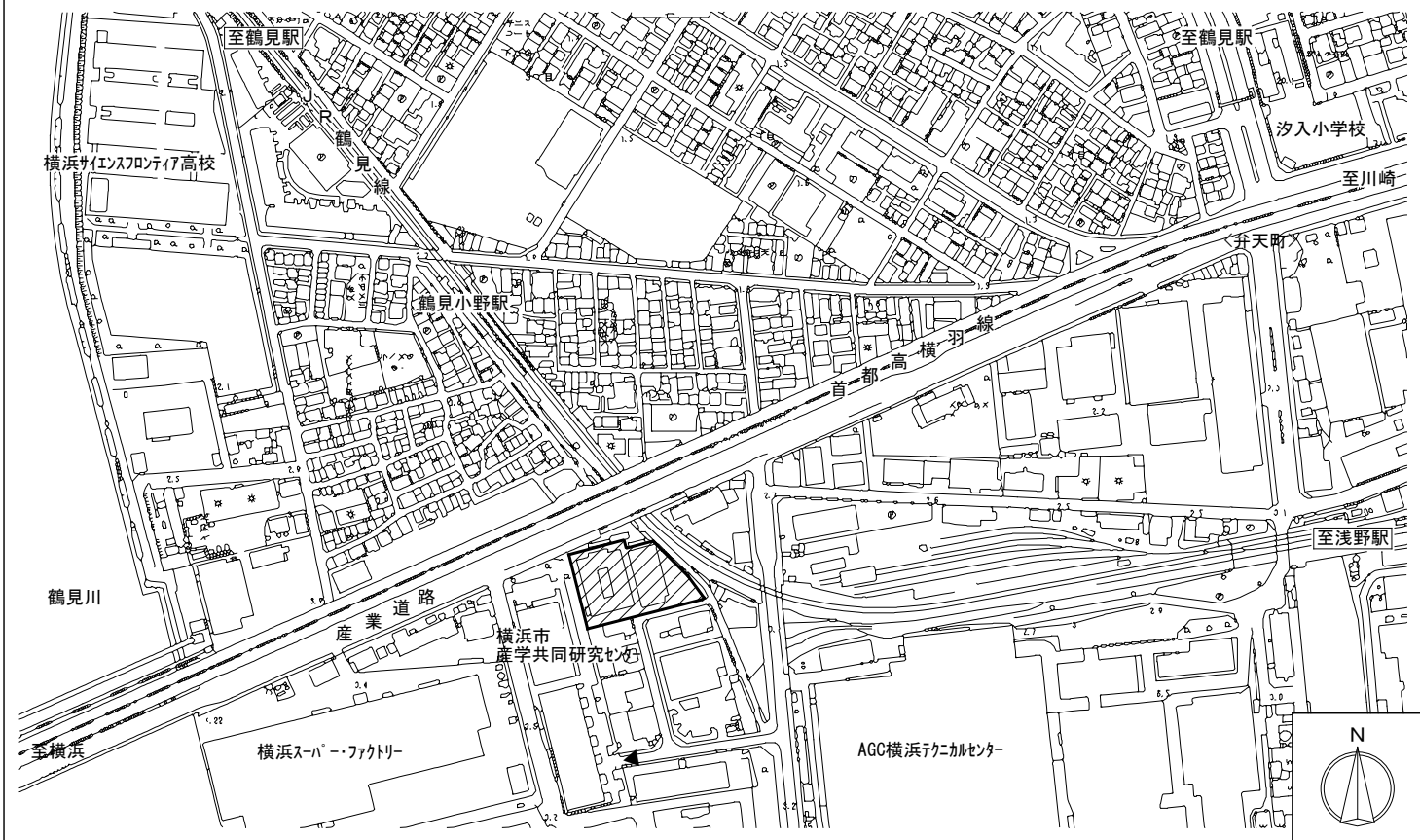
作成年月 令和6年6月

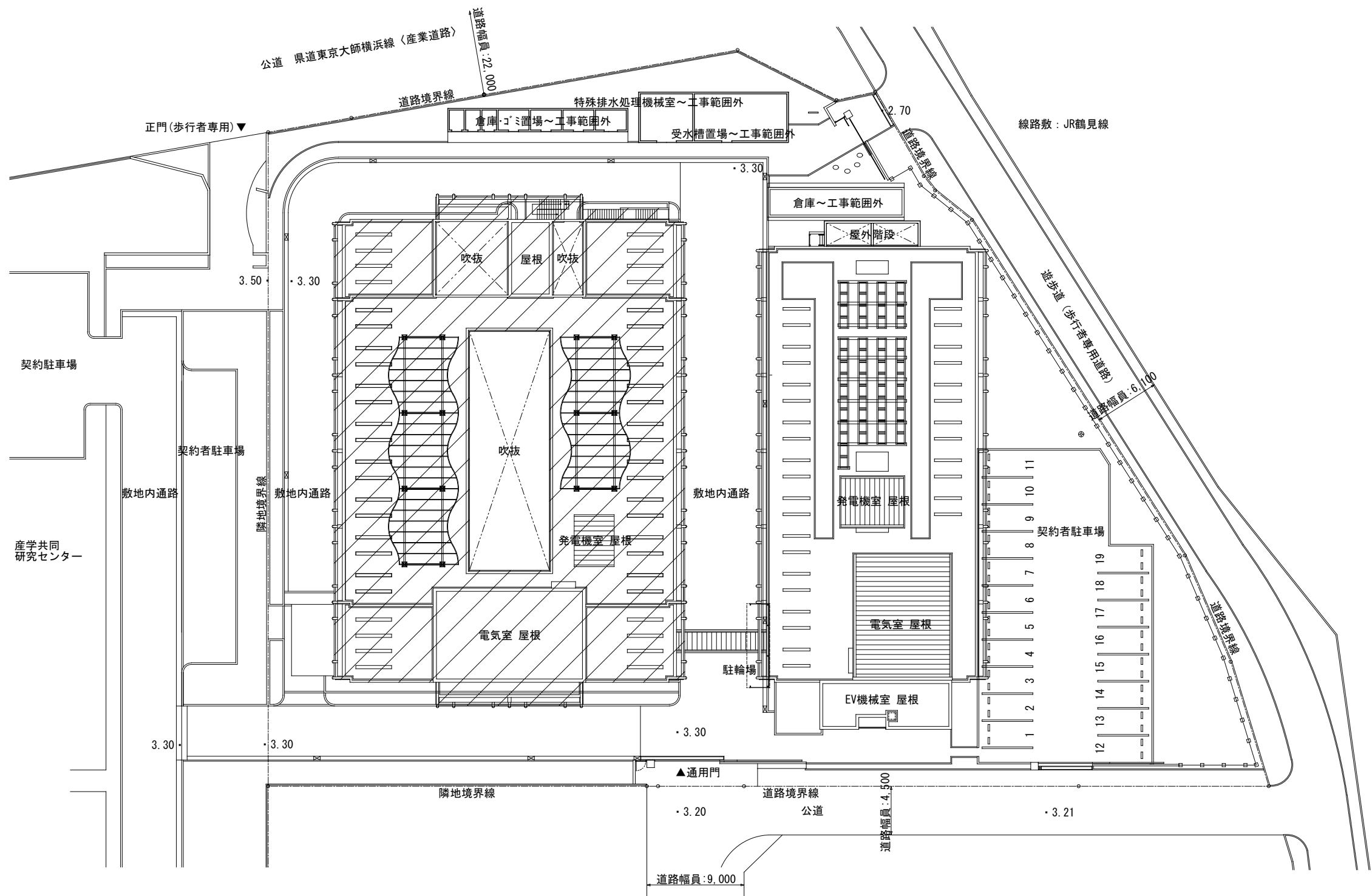
公益財団法人 横浜企業経営支援財団 A-03

[illegible]

⑦ 塗装 改修 工事	①材料	※屋内の壁、天井仕上げは次の箇所を除き防火材料とする。 (箇所：) 材質 ・ 水性系 「横浜市公共建築物シックハウス対策ガイドライン」に 基づくものとする。 ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	②下地調整 ・素地ごしらえ	既存塗膜の除去範囲 (塗替えてRB種の場合) ※劣化部分除去 下地調整・素地ごしらえ	③錆止め塗料塗り	錆止め塗料塗りの種別	④塗装	⑤その他	⑥環境配慮改修工事	⑦断熱・防露改修工事	⑧屋上緑化	⑨透水性アスファルト舗装	⑩その他	⑪契約不適合の点検及び契約不適合の修補	⑫保証書	⑬塗膜防水仕上げ塗料	⑭契約不適合の点検及び契約不適合の修補は「公益財団法人横浜市建築保全公社請負工事における契約不適合の点検及び修補の確認実施要領」による
	①材料	※屋内の壁、天井仕上げは次の箇所を除き防火材料とする。 (箇所：) 材質 ・ 水性系 「横浜市公共建築物シックハウス対策ガイドライン」に 基づくものとする。 ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	②下地調整 ・素地ごしらえ	既存塗膜の除去範囲 (塗替えてRB種の場合) ※劣化部分除去 下地調整・素地ごしらえ	③錆止め塗料塗り	錆止め塗料塗りの種別	④塗装	⑤その他	⑥環境配慮改修工事	⑦断熱・防露改修工事	⑧屋上緑化	⑨透水性アスファルト舗装	⑩その他	⑪契約不適合の点検及び契約不適合の修補	⑫保証書	⑬塗膜防水仕上げ塗料	⑭契約不適合の点検及び契約不適合の修補は「公益財団法人横浜市建築保全公社請負工事における契約不適合の点検及び修補の確認実施要領」による
	①材料	※屋内の壁、天井仕上げは次の箇所を除き防火材料とする。 (箇所：) 材質 ・ 水性系 「横浜市公共建築物シックハウス対策ガイドライン」に 基づくものとする。 ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	②下地調整 ・素地ごしらえ	既存塗膜の除去範囲 (塗替えてRB種の場合) ※劣化部分除去 下地調整・素地ごしらえ	③錆止め塗料塗り	錆止め塗料塗りの種別	④塗装	⑤その他	⑥環境配慮改修工事	⑦断熱・防露改修工事	⑧屋上緑化	⑨透水性アスファルト舗装	⑩その他	⑪契約不適合の点検及び契約不適合の修補	⑫保証書	⑬塗膜防水仕上げ塗料	⑭契約不適合の点検及び契約不適合の修補は「公益財団法人横浜市建築保全公社請負工事における契約不適合の点検及び修補の確認実施要領」による
	①材料	※屋内の壁、天井仕上げは次の箇所を除き防火材料とする。 (箇所：) 材質 ・ 水性系 「横浜市公共建築物シックハウス対策ガイドライン」に 基づくものとする。 ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	②下地調整 ・素地ごしらえ	既存塗膜の除去範囲 (塗替えてRB種の場合) ※劣化部分除去 下地調整・素地ごしらえ	③錆止め塗料塗り	錆止め塗料塗りの種別	④塗装	⑤その他	⑥環境配慮改修工事	⑦断熱・防露改修工事	⑧屋上緑化	⑨透水性アスファルト舗装	⑩その他	⑪契約不適合の点検及び契約不適合の修補	⑫保証書	⑬塗膜防水仕上げ塗料	⑭契約不適合の点検及び契約不適合の修補は「公益財団法人横浜市建築保全公社請負工事における契約不適合の点検及び修補の確認実施要領」による
	①材料	※屋内の壁、天井仕上げは次の箇所を除き防火材料とする。 (箇所：) 材質 ・ 水性系 「横浜市公共建築物シックハウス対策ガイドライン」に 基づくものとする。 ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	②下地調整 ・素地ごしらえ	既存塗膜の除去範囲 (塗替えてRB種の場合) ※劣化部分除去 下地調整・素地ごしらえ	③錆止め塗料塗り	錆止め塗料塗りの種別	④塗装	⑤その他	⑥環境配慮改修工事	⑦断熱・防露改修工事	⑧屋上緑化	⑨透水性アスファルト舗装	⑩その他	⑪契約不適合の点検及び契約不適合の修補	⑫保証書	⑬塗膜防水仕上げ塗料	⑭契約不適合の点検及び契約不適合の修補は「公益財団法人横浜市建築保全公社請負工事における契約不適合の点検及び修補の確認実施要領」による

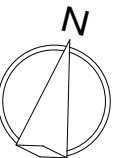
工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
図面名称	建築改修工事 特記仕様書その4	図面番号
作成年月	令和6年6月	A-05
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

■工事内容 1. 1号館(PCa造+RC造:ｽﾌﾟﾗﾝｸﾞ・妻面外壁・一部の梁)の外壁その他改修工事を行う 2. 2号館(RC造+S造:ﾏﾘｵﾝ)の外壁その他改修工事を行う 3. 渡り廊下(S造)の外壁その他改修工事を行う		■案内図  この地図の著作権は横浜市が保有します		工事場所：横浜市鶴見区小野町7 5 番 1（住居表示） ■安全対策 1. 工事資材の搬入出は施設側の版入出等と事前に調整すること。 2. 敷地内での工事車両安全速度は「5km/h」以下とすること。 3. 外部足場の昇降口や資材置き場の出入口は常に施錠し、第三者の工事エリアへの進入を防ぐこと。 工事場所は必ず区画し、作業は必ず工事区画内で行い、工事箇所には工事関係者以外の人が安易に入り込めないようにする。 4. 工事区域周囲や資材置場の仮囲いの出入口は、作業中においても常に施錠し、工事関係者以外の第三者の工事区域内の侵入を防ぐこと。 5. 仮囲い等の仮設物の設営後は常に点検を行い、不備が認められた際には速やかに是正処置を講ずること。 6. 火気使用時（ﾌｴｰｸ溶接等）には床・壁共防災ｼｰﾄの養生を行い消火器を設置する。 また、火気使用30分後に、作業場所の安全を確認すること。 7. 急な暴風雨、豪雨等にも迅速に対応出来るよう、予め体制を整備しておくこと。 8. 外部仮囲い等は強固に固定し、また、施設利用者が触れても危険が無いよう設置すること。 9. 震度4以上の地震発生時や暴風・大雨警報などの「悪天候」が予想される時は、事前に点検し対策を実施して災害防止に備えるとともに事後点検結果を報告すること。 10. 搬出入に伴う工事車両の運用、荷揚げ等、やむを得ず一時的に工事エリア外での作業を行う際には、ｶｰｺﾝｼﾞｭﾝｸﾞ等にて区画を行うと共に、工事施工区域とは別に監視員を配置し、第三者の安全を確保すること。 11. 関係法令、各種規準を遵守し、第三者の安全確保対策を充分に行うこと。	
■一般事項-1（共通） 1. 工事着手に先立ち本図を参考とし、監督員・施設管理者ほかの関係機関と綿密な協議を行い、施設運営に支障のない工事計画を行い、「安全管理施工計画書」を作成し、監督員に提出し確認を得たのちに着手すること。 2. 全ての各種工事の施工に先立っては、施工計画書・施工図・製作図等の工事関係必要書類を作成し、監督員に提出し確認を得たのちに着手すること。 3. 既存部分の解体作業ほか工事に伴う騒音・振動・粉塵・臭気の発生等の環境汚染の抑止に努め、諸官庁への必要な手続きは、適時延滞なく行うこと。 4. 工事区域、及び周囲の作業通路ほか工事関連箇所全ての既存部分の養生を行い、完成検査（引渡し）前に清掃（ｸﾘｰﾆﾝｸﾞ）を行うこと。 5. コンクリートの壁及び床のはつりやｺﾞﾂﾞ抜きを行う場合は、事前に施設で保管している図面等を参照し、現場調査を入念に行うこと。 また、作業前にｲﾝﾄﾞｴﾝ調査等を行うなど、埋設物を破損させない準備を行うこと。 6. 土間解体及び、掘削等の作業には以下に注意すること。 ・範囲内の地中埋設物を損傷させないよう、解体掘削は慎重に行い急激な作業を行わないこと。 ・状況に応じ重機を使わず、手はつり、手堀で作業を行うこと。 7. 自動火災報知機感知器が誤発報しないよう、以下による適切な対応を行うこと。 また、工事範囲内の感知器への対応は以下とすること。 ・感知器には専用ｶﾞｰ等で養生を行う。作業時間帯以外は取り外すこと。 ・室内温度差等により感知器が作動しないよう、投光器等の熱源は感知器から距離を置き、熱の影響を受けないよう考慮すること。 ・万一自動火災報知機感知器が発報した際、工事によるものか否かを確認する方法や発報を停止する措置（施設側対応）に関して、事前に施設管理者と協議を行っておくこと。 8. 材料の搬入に使用する廊下、階段には養生（ﾍﾞｰﾅｰ板）を行うこと。 9. 図中以外に必要なと思われる箇所には養生を行い、資材置場・工事箇所は仮囲いを設けること。		■一般事項-2（壁面改修） 1. 工事に先立ち、施工計画、施工仕様、安全対策等を記載した「施工要領書」を提出し監督員の承認を得ること。 2. 既存外壁塗膜の付着力試験を各面100㎡ごと及びその端数につき1㎡以上、かつ各面3㎡以上行ない0.7N/mm2以上あることを確認する。 下回った場合は監督員と協議のうえ、当該面の下地洗浄に超高压洗浄・ｶﾞﾝﾀﾞｰ掛けなど工期を考慮した適正な工法を選択し、脆弱塗膜を除去すること。 3. 外壁ﾓﾙﾀﾙの浮き処理に使用するｱﾝｶｰﾍﾞﾝの長さは、試し孔をあけ決定すること。 試験体は各面100㎡ごと及びその端数につき1㎡以上、かつ各面3㎡以上行い、ﾓﾙﾀﾙ部を穿孔してその最大厚みを確認し、その厚さに30mmを加えた長さをﾍﾞﾝの長さとすること。 4. 監督員下検査時に膜厚計を用意すること。測定位置は上階部・中階部・下階部とする。 （膜厚基準として1mm以上を目安とする。） 5. 雑金物周囲にはｼｰﾘﾝｸﾞ打ち（3方）を行う。 6. 原則として0.2mm未満のｸﾗｯｸ補修は、下地調整材・防水形複層塗材Eによる処理とする。 ただし、漏水等があり補修方法が前記では不十分と判断される部分は、監督員と協議のうえ工法を変更する。 7. 足場掛け後、改修範囲の外壁調査を実施し、調査報告書を作成し監督員と協議すること。 作業は施工範囲、数量を計画し確定したうえで着手すること。 ※施工面が多い場合は、一定の範囲を調査後、上記を行うこととする。 設計数量に変更が生じた場合、原則設計変更をおこなう。 8. 施工完了後、施工報告書を提出すること。		■足場設置基準 外部足場 1. 外部足場の外側には防災Ⅰ類ﾈｯﾄ状養生ｼｰﾄをGLまで設置し、下記の養生枠を設置すること。 ■ GL+H1,800までは金網式養生枠を設置する。 □ GL+H2,000までは塗装した仮囲鉄板を足元の隙間がないよう設置する。 □ GL+H3,000までは塗装した仮囲鉄板を足元の隙間がないよう設置する。 2. 外部足場は設置場所を汚さないようｼｰﾄ養生を行った上に設置する。 また、足場の外へ現場のゴミなどが出ないように処理すること。 3. 足場の出隅は緩衝材等で養生を行うこと。 4. 足場の外部に金物等の突起物が出る場合は緩衝材や既製の養生材で養生を行うこと。 5. 枠組足場・くさび緊結式足場は手すり先行据置方式とすること。 6. 手すり、下桟、幅木は四方に設置する。 7. 層間ﾈｯﾄは専用金具を使用し、2層毎に設置する。 8. 足場柱の柱脚部は、短・長辺方向に根がらみを設置する。 9. 壁つなぎ用後施工ｱﾝｶｰはｺﾝｸﾘｰﾄ躯体に直に打ち込むこと。 そのため、事前に躯体ｺﾝｸﾘｰﾄまでの仕上材厚（ﾓﾙﾀﾙやﾀｲﾙ）を測定しておくこと。 10. 壁つなぎの設置 垂直方向：根がらみ上から始めて2ｽﾊﾟﾝ毎及び最上部は全縦地に取り付ける。 水平方向：外壁角から近い建地から2ｽﾊﾟﾝ毎に設置する。 鉄骨造：鉄骨から直接に壁つなぎをとり、ALC版等の外壁部材からとらないこと。 11. 足場組立等作業主任者の掲示、最大荷重の表示を行う。 12. 壁つなぎ穿孔作業は石綿作業主任者が常駐のうえ「石綿作業主任者」又は「石綿作業従事者特別教育修了者」が行い、集塵機及びHEPAﾌｨﾙﾀ付きﾄﾞﾘﾙを使用し、既存外壁塗材の飛散を防止すること。 13. ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄ外周（外部足場設置部を除く）には全てｽﾀﾝｼｮﾝを設置する。 移動式足場（ﾛｰﾘﾝｸﾞﾀｲﾌﾟ） 1. 組立高は制限高さ（7.7m×〔足場の短辺幅+ﾌﾞﾗｯｸﾄ出寸法〕－5m）かつ5段以下。 2. 使用中はｷｬｽﾀｰのﾌﾞﾚｰｷを4か所確実に効かせる。 3. 手すりは90cm以上とし中桟を設置する。 4. はしごでの昇降には安全ﾌﾞﾛｯｸを使用すること。 5. 作業床でははしごや脚立は使用しない。 6. 作業者を乗せたままでは移動は絶対行わない。また、作業者は安全帯を確実に使用する。 7. 最大積載量の表示を行う。	
備考		工事名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ）1号館外壁その他改修工事	
		図面名称		工事内容、案内図、安全対策、一般事項、足場設置基準 図面番号	
		作成年月		令和6年6月	
				公益財団法人 横浜企業経営支援財団 A-06	



配置図 1/300

凡例  今回工事範囲
・〇.〇〇 地盤面の高さ(標高)



備考 1. 標高+3.300(=1FL-0.15)を基準GLとする	工事名 横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	配置図
	図面番号	A-07
	作成年月	令和6年6月
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

【主な既存仕上げ】 外壁・梁型・上げ裏：浸透性吸水防止材フッ素樹脂ｸﾞﾗﾌ(石綿含有の有無：有り) PH：防水型複層塗材E(石綿含有の有無：有り)

備考	工事名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	改修内容一覧表、補修数量集計	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-08
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

■ 外壁改修塗装仕様

① 低汚染型水性珩素樹脂珩7-塗料 塗替え			
(1号館の外壁垂直面・外壁水平面)			
工程・材料	工 法	所要量(※1)	備 考
下地処理A	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa	
下地処理B	下地処理Aとデッヅラシ、剥離剤等を併用して既存塗膜を完全に除去		
下地調整(状況に応じて)	下地処理によって、ピンホール・ヅヤンカ等が現れた場合は樹脂モルタル等をすり込み平滑に仕上げる		
下塗り 水性珩素樹脂塗料用下塗り材	全面にローラー塗り	0.12～0.18kg/m2	躯体の吸水防止
中塗り 水性珩素樹脂系エマルジョン塗料	全面にローラー塗り	0.10～0.15kg/m2	
色斑調整 水性珩素樹脂系エマルジョン塗料	周囲の色に合わせてパッティングし、躯体面のムラを消す	0.01～0.02kg/m2	
上塗り 上塗り用珩素樹脂系エマルジョン塗料	全面にローラー塗り	0.08～0.12kg/m2	カラー珩7-仕上げ

下地処理Bは、下地処理Aで劣化した既存塗膜が除去できない場合の仕様とする

② 低汚染型水性珩素樹脂珩7-塗料 塗替え			
(2号館の外壁垂直面・外壁水平面)			
工程・材料	工 法	所要量(※1)	備 考
下地処理	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa	
下地調整(状況に応じて)	下地処理によって、ピンホール・ヅヤンカ等が現れた場合は樹脂モルタル等をすり込み平滑に仕上げる		
下塗り 水性珩素樹脂系エマルジョン塗料	全面にローラー塗り	0.10～0.15kg/m2	
上塗り 上塗り用珩素樹脂系エマルジョン塗料	全面にローラー塗り	0.08～0.12kg/m2	カラー珩7-仕上げ

③ 防水形複層塗材E 塗替え (JIS A 6909)			
(PH等の外壁垂直面・ALCパネル面・押出し成形珩メント板面)			
工程・材料	工 法	所要量	備 考
下地処理	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa	
下地調整塗材(C-1珩リマ-珩メント系)(※1)	全面にローラー塗り	0.8kg/m2以上	
下塗り 防水形複層塗材用下塗材(JIS A 5663)	全面にローラー塗り	0.1kg/m2以上	
増塗り	出隅・入隅・目地部・開口部回り等に、はけ又はローラー塗りに より、端部に段差のないように塗り分ける	0.9kg/m2以上	
主材基層塗り	2回に色分けをし、全面にローラー塗り	1.7kg/m2以上	
主材模様塗り(パヴァ-ット天端等の平場はフラット)	全面にローラー塗り	0.9kg/m2以上	
仕上塗料塗り 超低汚染型珩水性弾性珩素樹脂塗装	2回に色分けをし、全面にローラー塗り	0.25kg/m2以上	

(※1)下地補修等で不陸が著しく生じる部分は下地調整塗材(C-2珩リマ-珩メント系)を使用すること

④ 低汚染型珩水性弾性珩素樹脂塗装 塗替え			
(外幅木・ALCパネル面)			
工程・材料	工 法	所要量	備 考
下地処理	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa	
下地調整塗材(C-1珩リマ-珩メント系)(※1)	全面にローラー塗り	0.8kg/m2以上	
下塗り 防水形複層塗材用下塗材(JIS A 5663)	全面にローラー塗り	0.1kg/m2以上	
仕上塗料塗り 超低汚染型珩水性弾性珩素樹脂塗装	2回に色分けをし、全面にローラー塗り	0.3kg/m2以上	

(※1)下地補修等で不陸が著しく生じる部分は下地調整塗材(C-2珩リマ-珩メント系)を使用すること

備 考		工 事 名 横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	図面名称 外壁改修仕様、防水改修仕様	図面番号 A-09
1. 使用材料はいずれも「F☆☆☆☆」とすること。				
2. 水洗い工法の加圧力は試験施工を行ったうえで決定すること。				
3. 1号棟の外壁は原則①仕様とするが、面によって既存塗膜の劣化状況が異なるため、設計上は①と②を50%づつで形状してある。施工に際しては塗膜状況を確認のうえ、仕様を決定すること。				
		作成年月	令和6年6月	
		公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

■ 防水改修仕様

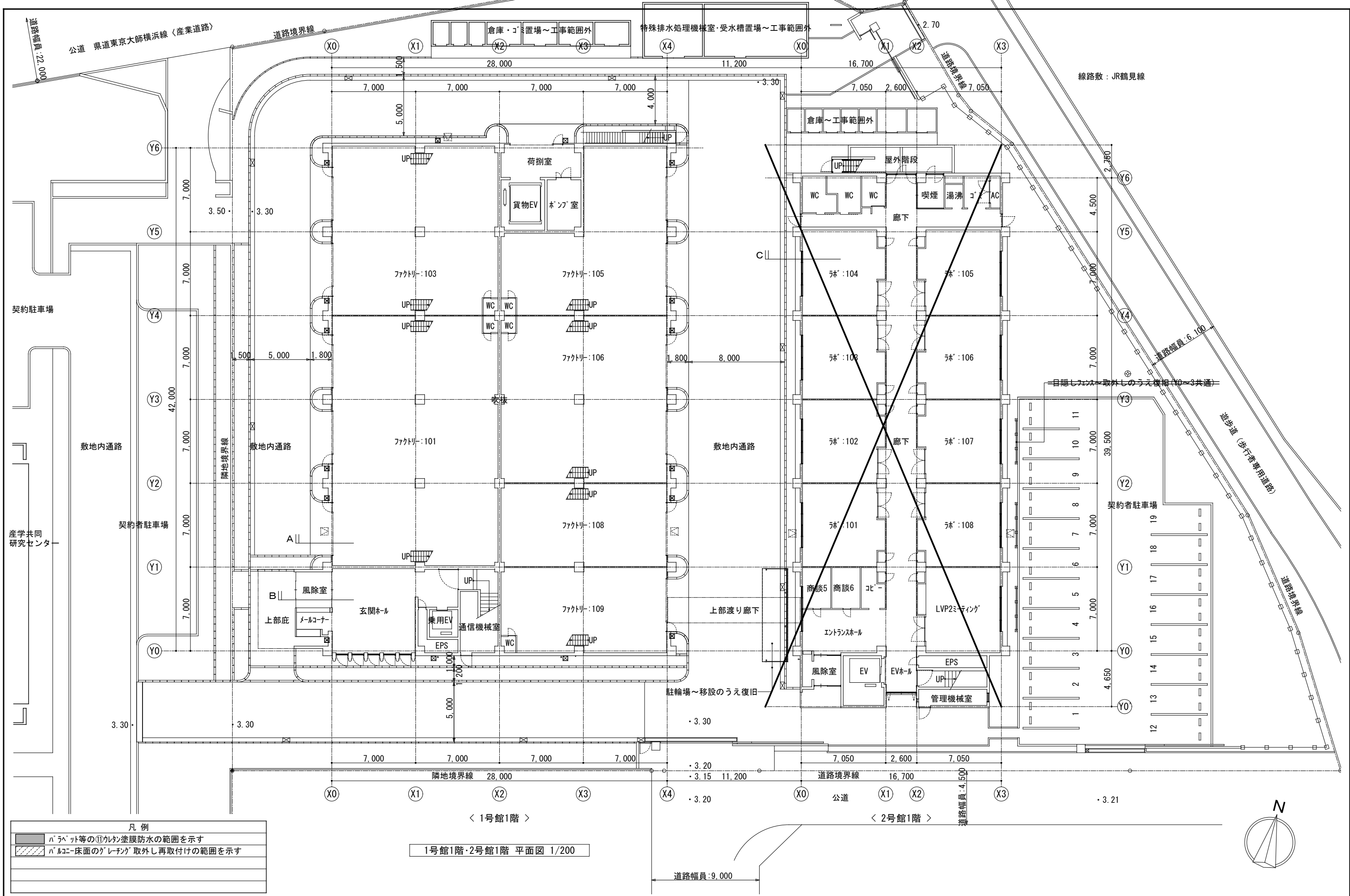
⑪・⑫ 高物性1成分珩珩珩珩珩珩防水(TXフリー・メッシュ無し・密着工法)					
工程	工程・材料	工 法		所要量	備 考
1	既存撤去	1号館⑪以外:スクレーパー・剥離剤・研磨等によって既存の塗膜防水を撤去する			
2	下地処理	高圧水洗工法にて、汚れ・付着物・下地に適さない劣化した下地面の異物等を除去		加圧力30～50MPa	
3	下地調整塗材(C-2珩リマ-珩メント系)	全面に珩塗り			
⑪ パヴァ-ット等狭小部位・点在部位: X-2工法(膜厚2mm以上)			⑫ 壁面: X-2工法(膜厚2mm以上)		
工程	材料・工法	所要量	工程	材料・工法	所要量
4	プライマー塗り	0.2 kg/m2以上	4	プライマー塗り	0.2 kg/m2以上
5	珩珩珩防水材塗り	1.0 kg/m2以上	5	珩珩珩防水材塗り	1.0 kg/m2以上
6	珩珩珩防水材塗り	1.0 kg/m2以上	6	珩珩珩防水材塗り	1.0 kg/m2以上
7	仕上塗料塗り(珩素樹脂系トップコート)	0.2 kg/m2以上	7	仕上塗料塗り(珩素樹脂系トップコート)	0.2 kg/m2以上

表中の珩珩珩珩珩系塗膜防水材の材料所要量は硬化物密度が1.0Mg/m3である材料の場合を示しており、硬化物密度がこれ以外の場合にあつては所要塗膜厚を確保するように使用量を換算すること
また1工程あたりの使用量は硬化物密度が1.0Mg/m3である材料の場合、平場は2.0kg/m2、立上りは1.2kg/m2を上限として変更することができる

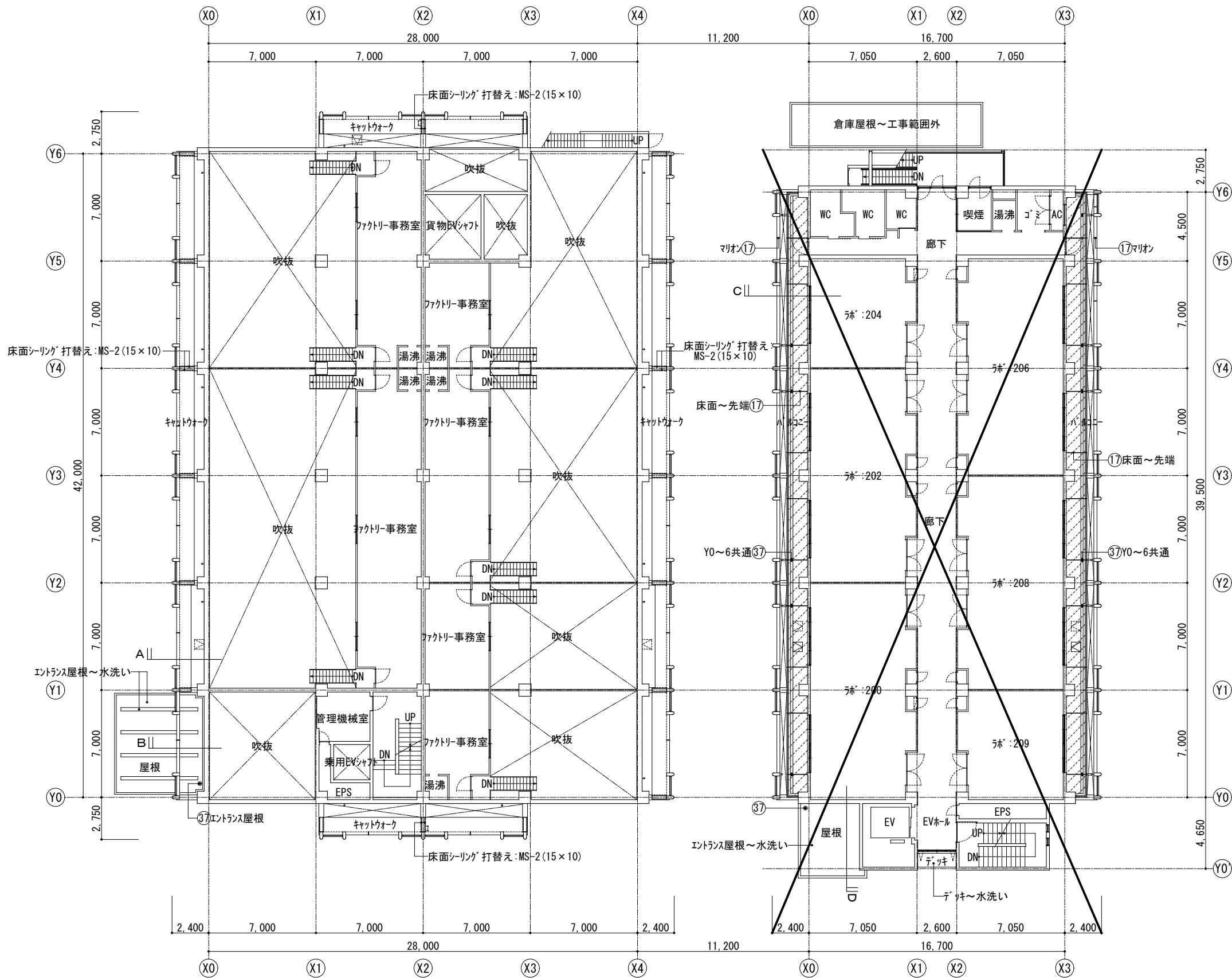
⑬ 塩ビ系シート防水(密着工法)				
工程	材料・工法	工 法	所要量	備 考
1	既存防水層撤去	既存シート防水を撤去する		
2	下地補修(状況に応じて)	平場・立上り面のひび割れ部・浮き部・欠損部の補修を行う		
3	素地ごしらえ	平場・立上り面を機械研磨(サンダー掛け等)する		
4	下地処理	高圧水洗工法にて、汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存面の異物等を除去	加圧力30～50MPa	
5	下地調整塗材(C-2珩リマ-珩メント系)	全面に珩塗り		
6	仮防水	仮防水材を塗布する		
7	プライマー塗布			
8	接着材塗布		0.4 kg/m2以上	
9	塩ビ系シート防水	t2 塩化ビニル樹脂系珩珩珩シート張付け		
10	押え金物取付け	珩珩製		

⑮ 外装薄塗材E 塗替え				
透水性(庇・パネル等広い面積の上裏)				
工程・材料	工 法	所要量	備 考	
下地処理	「高圧水洗機による水洗い工法」にて 汚れ・付着物・下地に適さない劣化した既存塗膜を除去	加圧力30～50MPa		
下地調整塗材(C-1珩リマ-珩メント系)(※1)	全面にローラー塗り	0.8kg/m2以上		
下塗り	全面にローラー塗り	0.1kg/m2以上		
主材塗り	2回に色分けをし、全面にローラー塗り	1.5kg/m2以上		

(※1)下地補修等で不陸が著しく生じる部分は下地調整塗材(C-2珩リマ-珩メント系)を使用すること



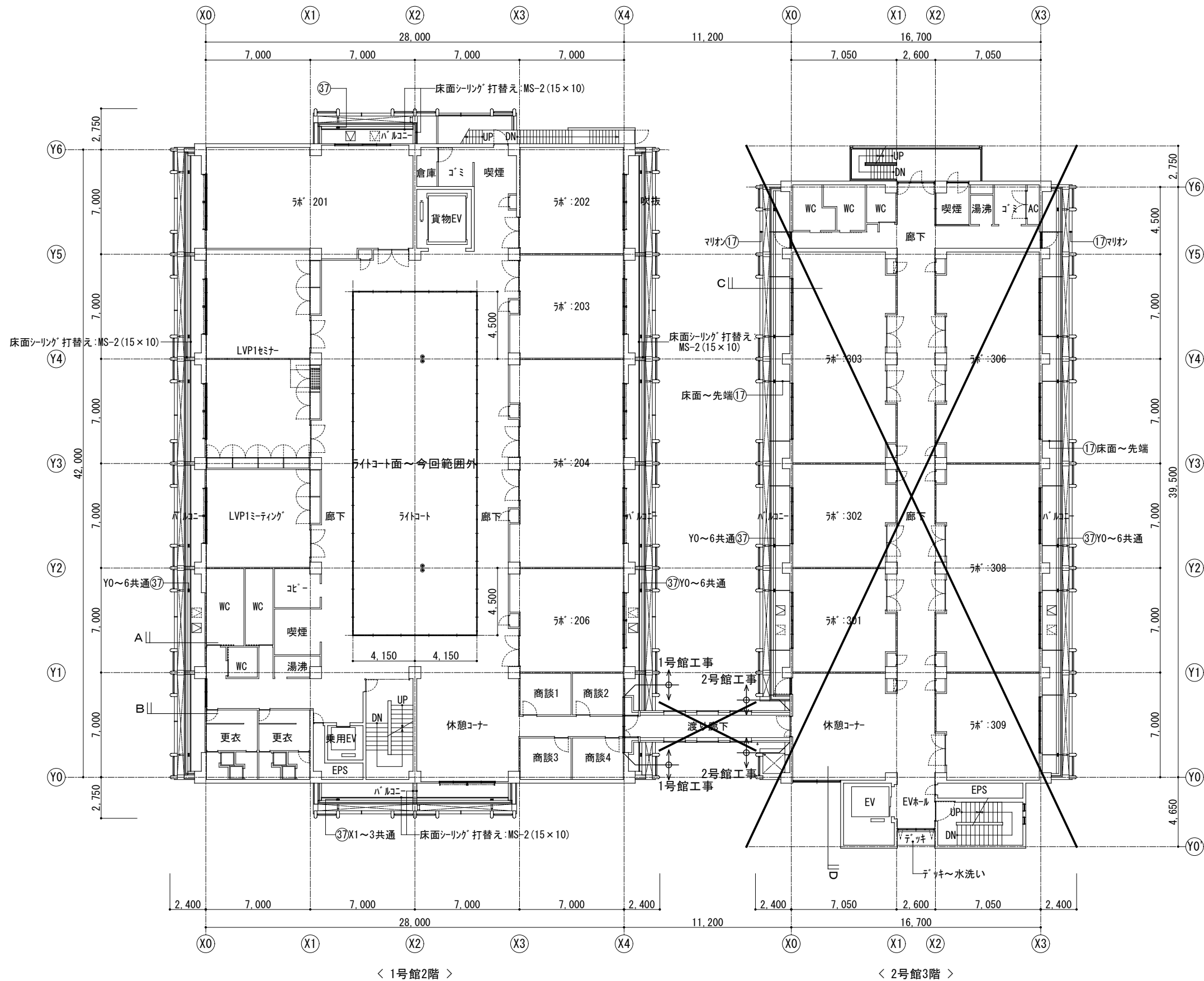
備 考	工 事 名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称		1号館1階・2号館1階 平面図	図面番号
	作成年月		令和6年6月	A-10
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



凡 例	
	バルベットの⑪ウレタン塗膜防水の範囲を示す
	バルコニー床面のグレーチング 取外し再取付けの範囲を示す

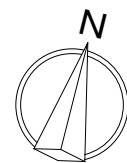
1号館中2階・2号館2階 平面図 1/200

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館中2階・2号館2階 平面図	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-11
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

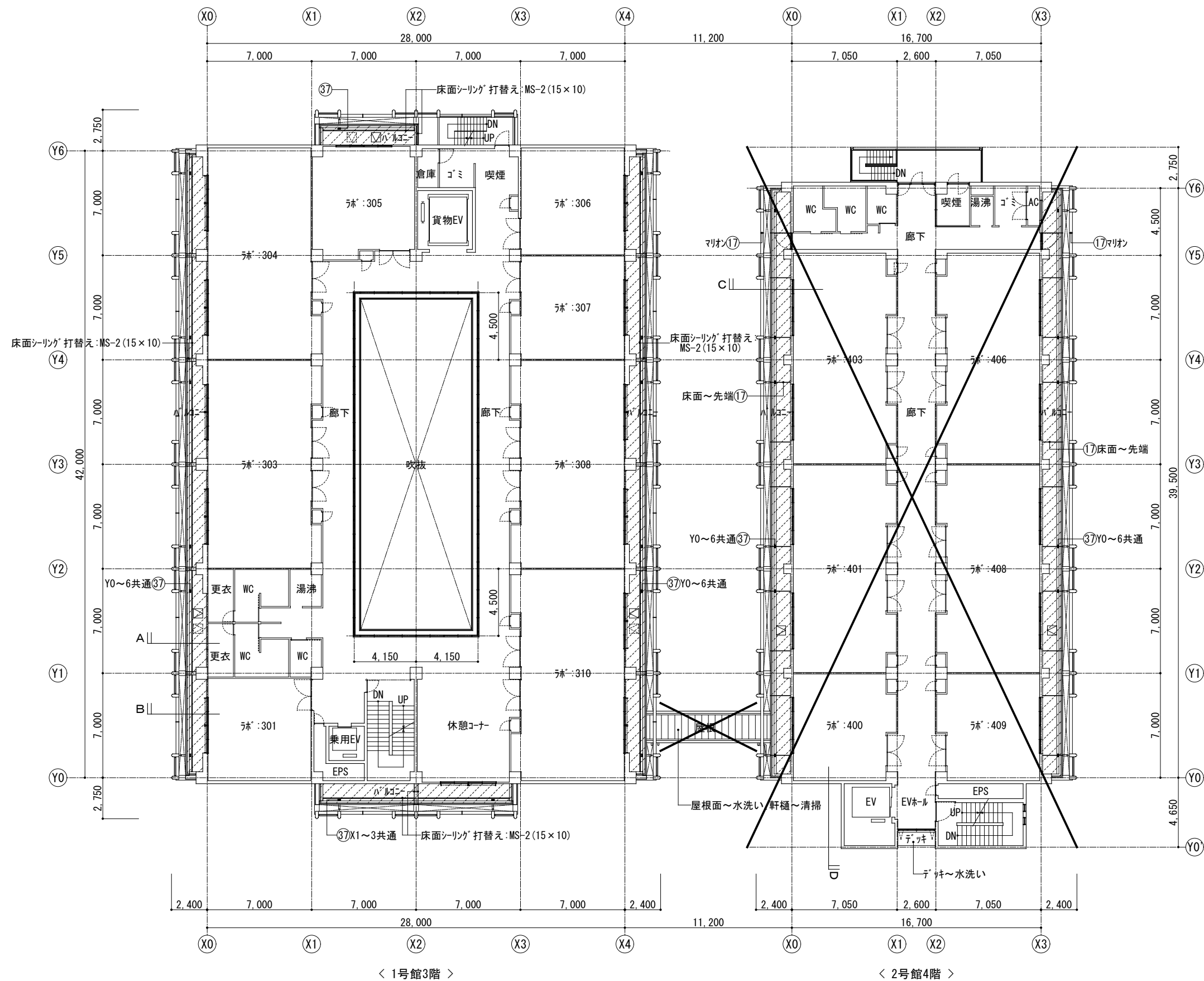


凡 例	
	バルコニー等の①カレン塗膜防水の範囲を示す
	バルコニー床面のグレーチング 取外し再取付けの範囲を示す

1号館2階・2号館3階 平面図 1/200



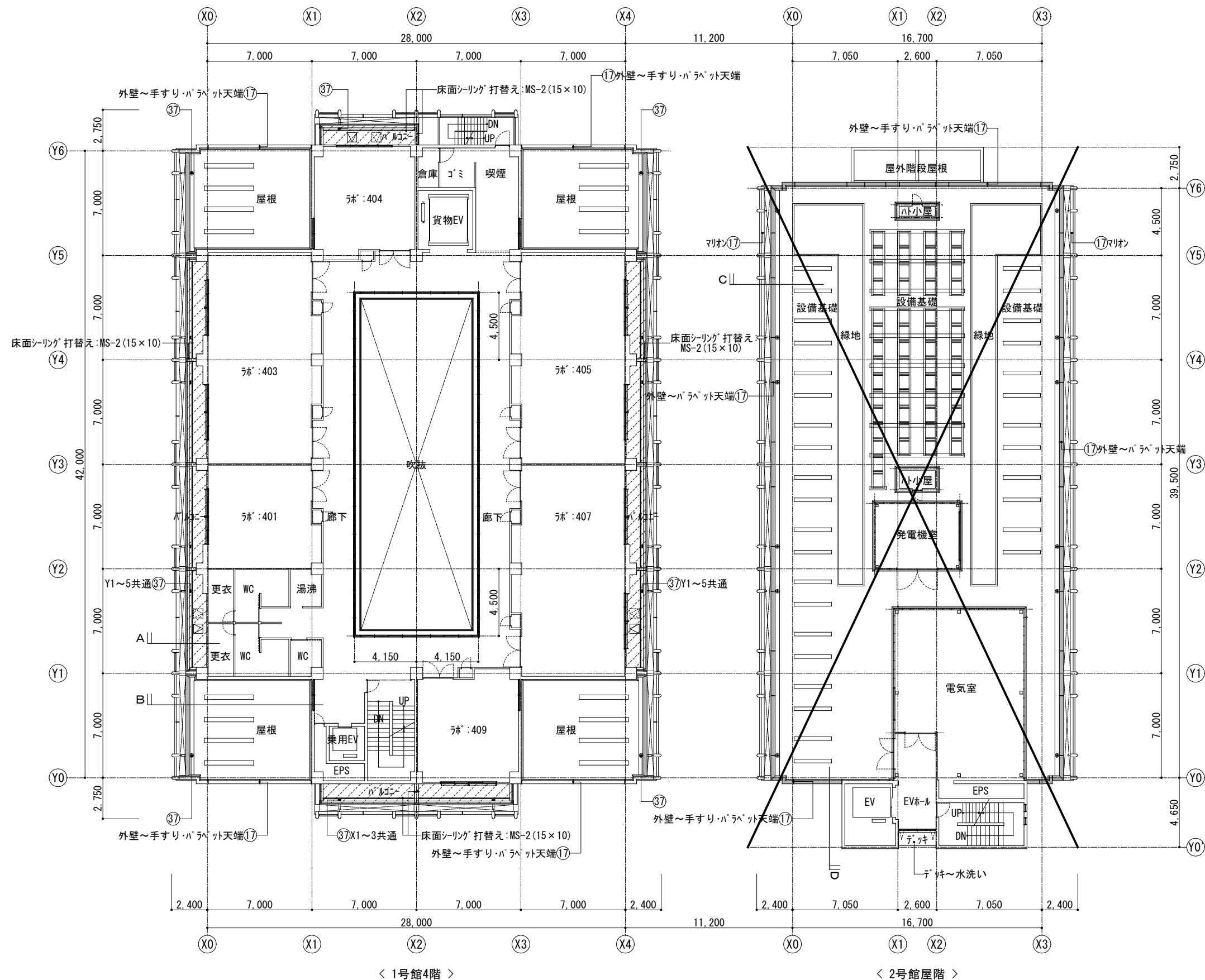
備 考	工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館2階・2号館3階 平面図	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-12
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



凡 例	
	バルベツト等の⑪ウレタン塗膜防水の範囲を示す
	バルコニー床面のグレーチング 取外し再取付けの範囲を示す

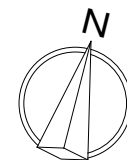
1号館3階・2号館4階 平面図 1/200

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館3階・2号館4階 平面図	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-13
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

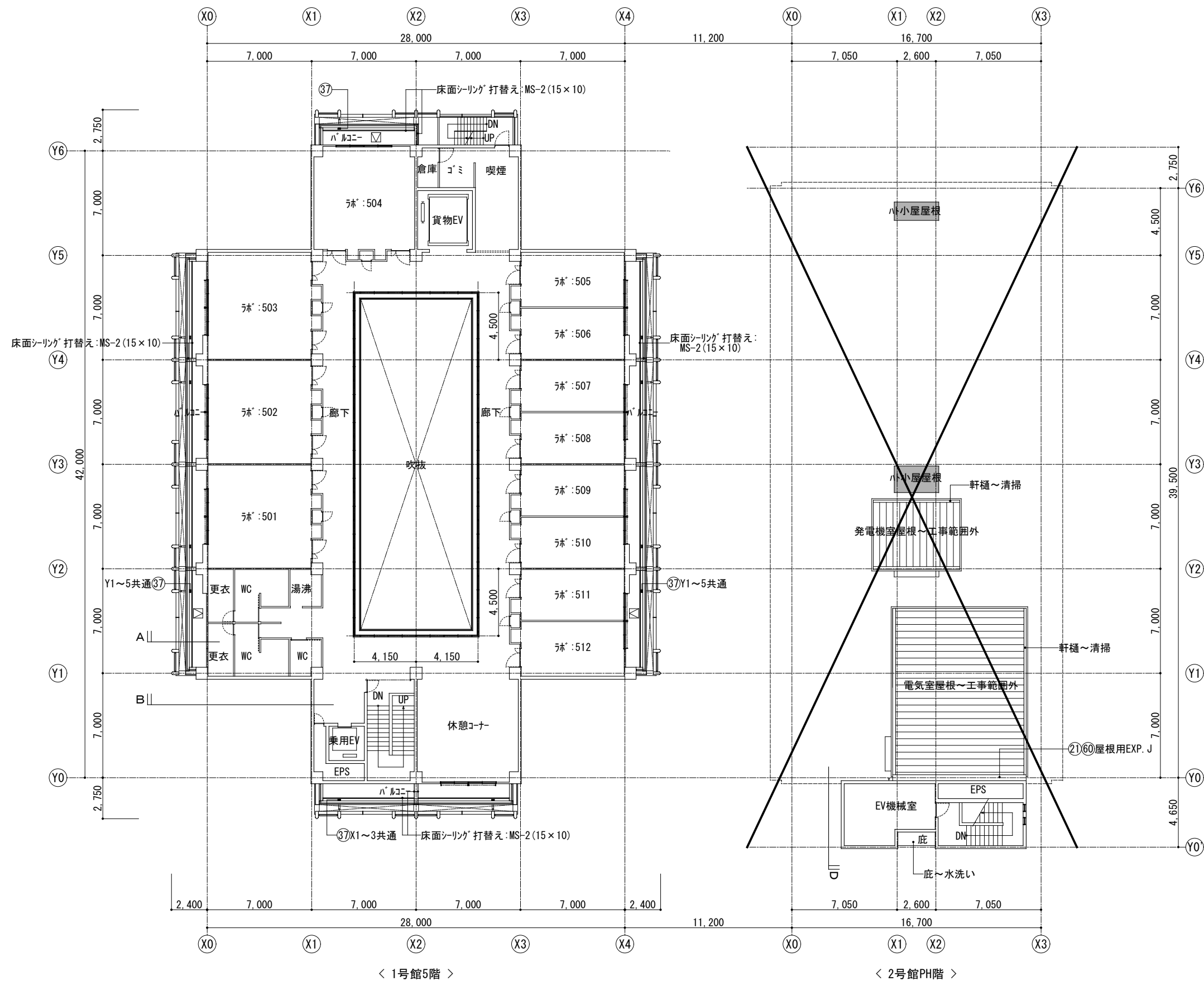


凡 例	
	バ ー ー 等の①ウレタン塗膜防水の範囲を示す
	バ ー ー 床面のグレーチング 取外し再取付けの範囲を示す

1号館4階・2号館屋階 平面図 1/200

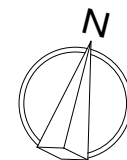


備 考	工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館4階・2号館屋階 平面図	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-14
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

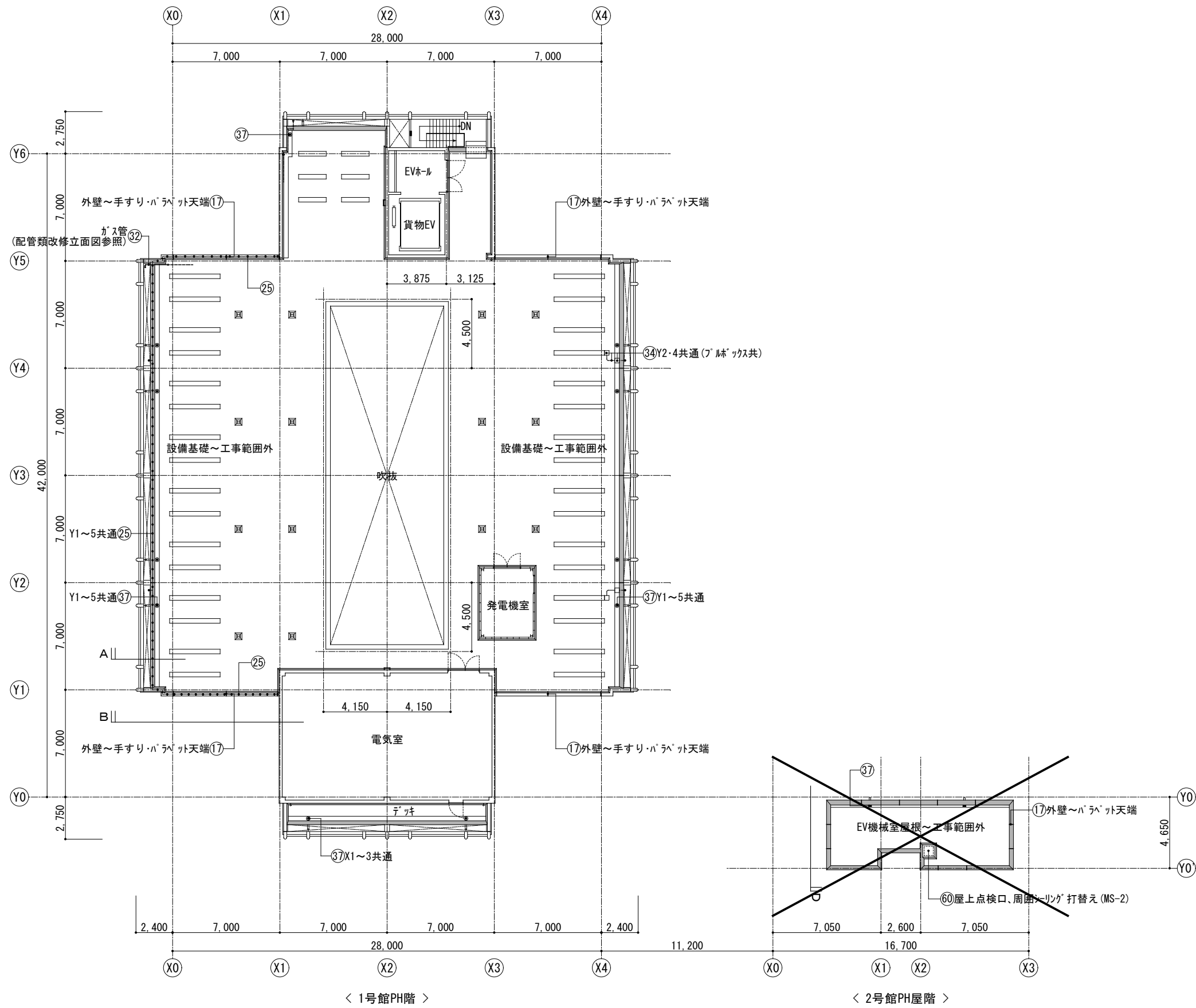


凡 例	
	バレーット等の①ウレタン塗膜防水の範囲を示す
	バルコニー床面のグレーチング取外し再取付けの範囲を示す

1号館5階・2号館PH階 平面図 1/200



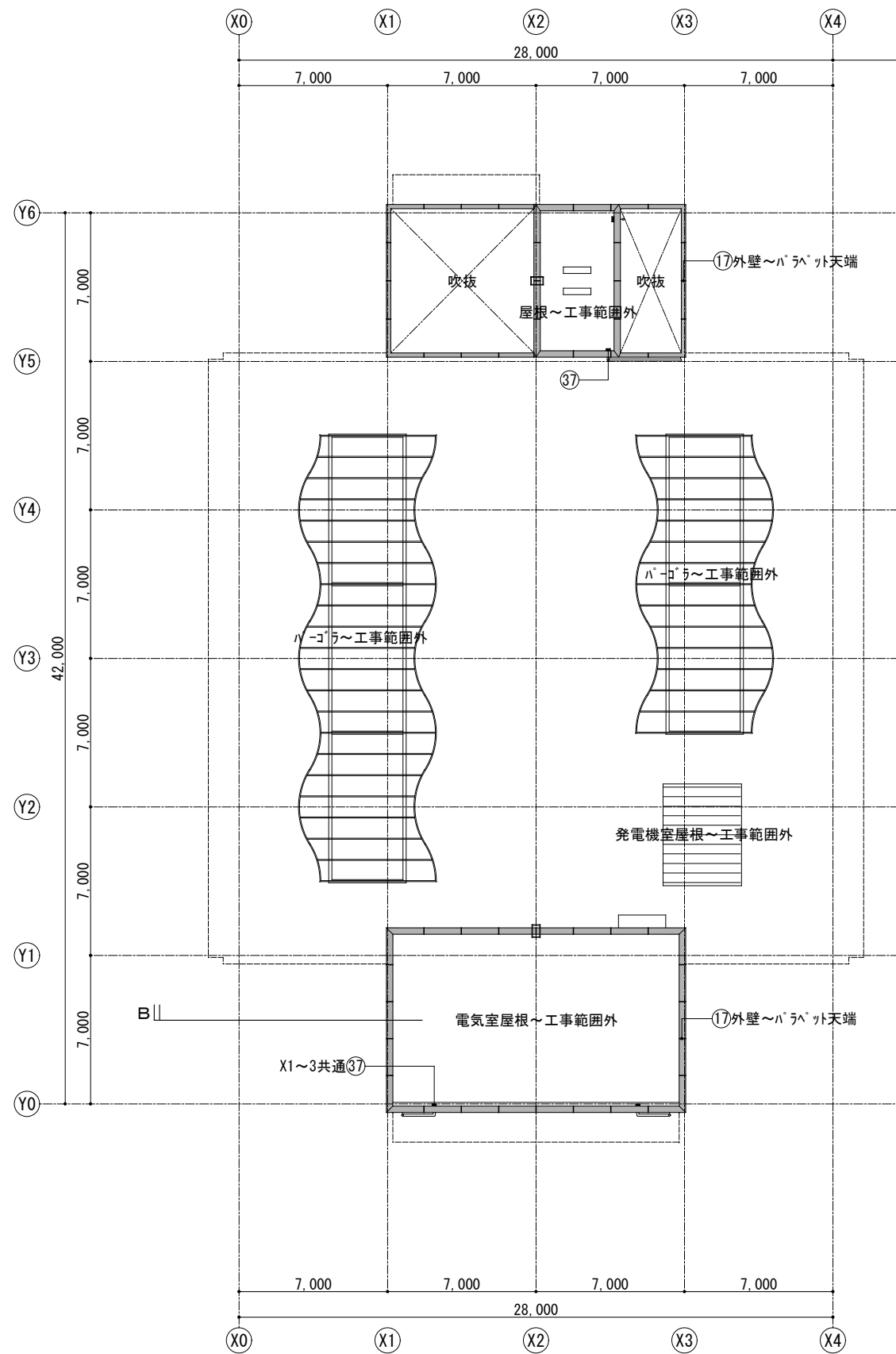
備 考	工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館5階・2号館PH階 平面図	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-15
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



凡 例	
	バ`ラベ`ット等の⑪ウレタン塗膜防水の範囲を示す
	バ`ルコニー床面の`グレーチング`取外し再取付けの範囲を示す

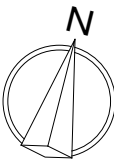
1号館PH階・2号館PH屋階 平面図 1/200

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館PH階・2号館PH屋階 平面図	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-16
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

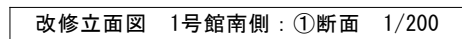
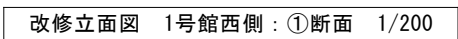


1号館PH屋階 平面図 1/200

凡 例	
	バルコニー等の⑪ウレタン塗膜防水の範囲を示す
	バルコニー床面の「グレーチング」取外し再取付けの範囲を示す

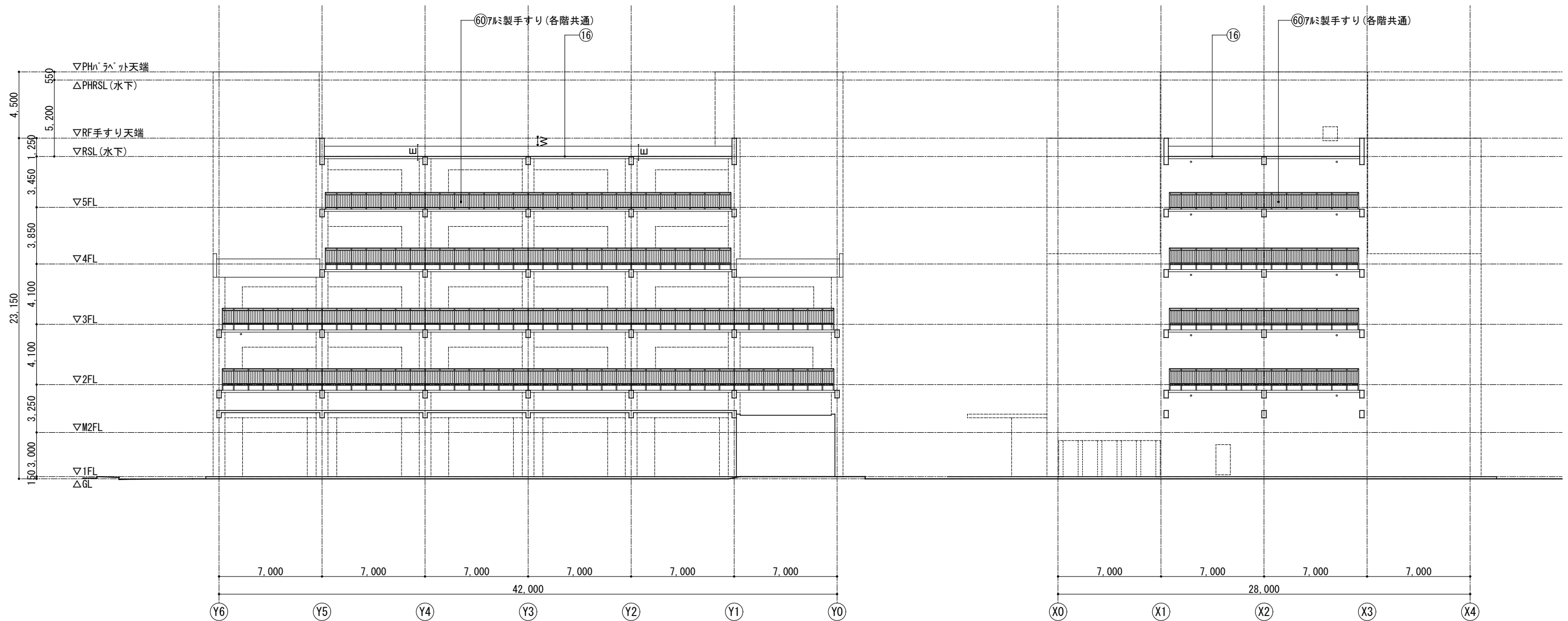


備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館PH屋階 平面図	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-17
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



④断面
②断面
③断面
①断面
＜ 立面キープラン ＞

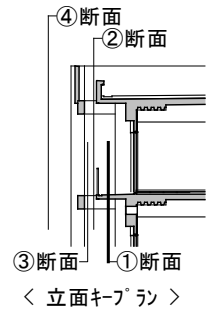
備 考	工 事 名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事
	図面名称	改修立面図 1号館西側・南側：①断面	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-18
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



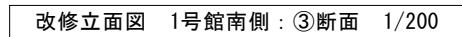
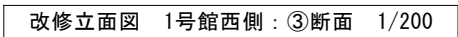
改修立面図 1号館西側：②断面 1/200

改修立面図 1号館南側：②断面 1/200

共通事項(特記なき限り下記による)			凡 例	
1号館：壁・柱・幅木・梁型	①	マリオン・バルコニー含む、一部②	■	バルコニー等の①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
2号館：壁・柱・幅木・梁型	②	マリオン・バルコニー含む	■	外壁等の①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
梁型・手すり・マリオン・バルコニー手すり脚元等天端	④③		■	外壁等の③防水型複層塗材Eの範囲を示す
バルコニー等金属製手すり	⑥⑦		■	渡り廊下の7mm製スチール製の範囲を示す
縦樋(ステンシル製支持金物共)	⑤⑤	呼び樋(1号館75φ、2号館50φ)共		
既存7mm製建具	⑭⑮⑯⑰			
既存ステンシル製建具	⑭⑮⑯⑰			



備 考	工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	改修立面図 1号館西側・南側：②断面	図面番号
	作成年月	令和6年6月	
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		A-19

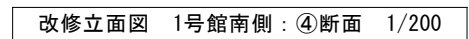


④断面 ②断面

③断面 ①断面

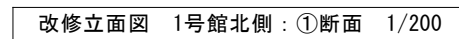
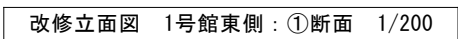
＜ 立面キーパン ＞

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	改修立面図 1号館西側・南側：③断面	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-20
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



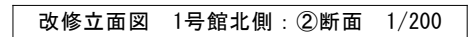
④断面
②断面
③断面
①断面
＜ 立面キプラン ＞

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事		
	図面名称	改修立面図	1号館西側・南側：④断面	図面番号
	作成年月	令和6年6月		A-21
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



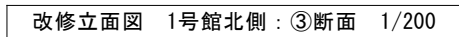
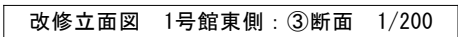
④断面
②断面
③断面
①断面
＜ 立面キープラン ＞

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	改修立面図 1号館東側・北側：①断面	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-22
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



④断面
②断面
③断面
①断面
＜ 立面キップラン ＞

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事		
	図面名称	改修立面図	1号館東側・北側：②断面	図面番号
	作成年月	令和6年6月		A-23
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

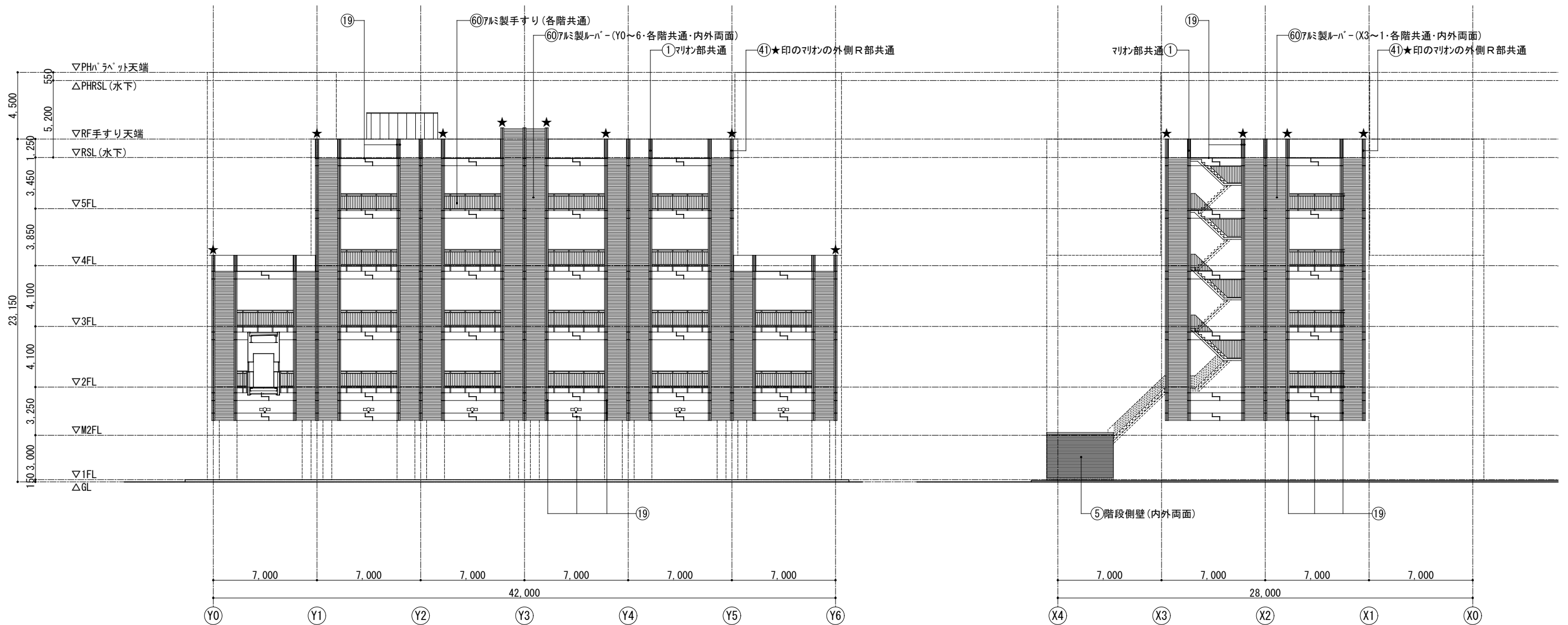


④断面 ②断面

③断面 ①断面

＜ 立面キーパン ＞

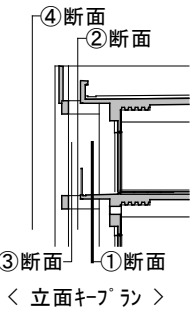
備 考	工 事 名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称		改修立面図 1号館東側・北側：③断面	
	図面番号		A-24	
	作成年月			令和6年6月
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



改修立面図 1号館東側: ④断面 1/200

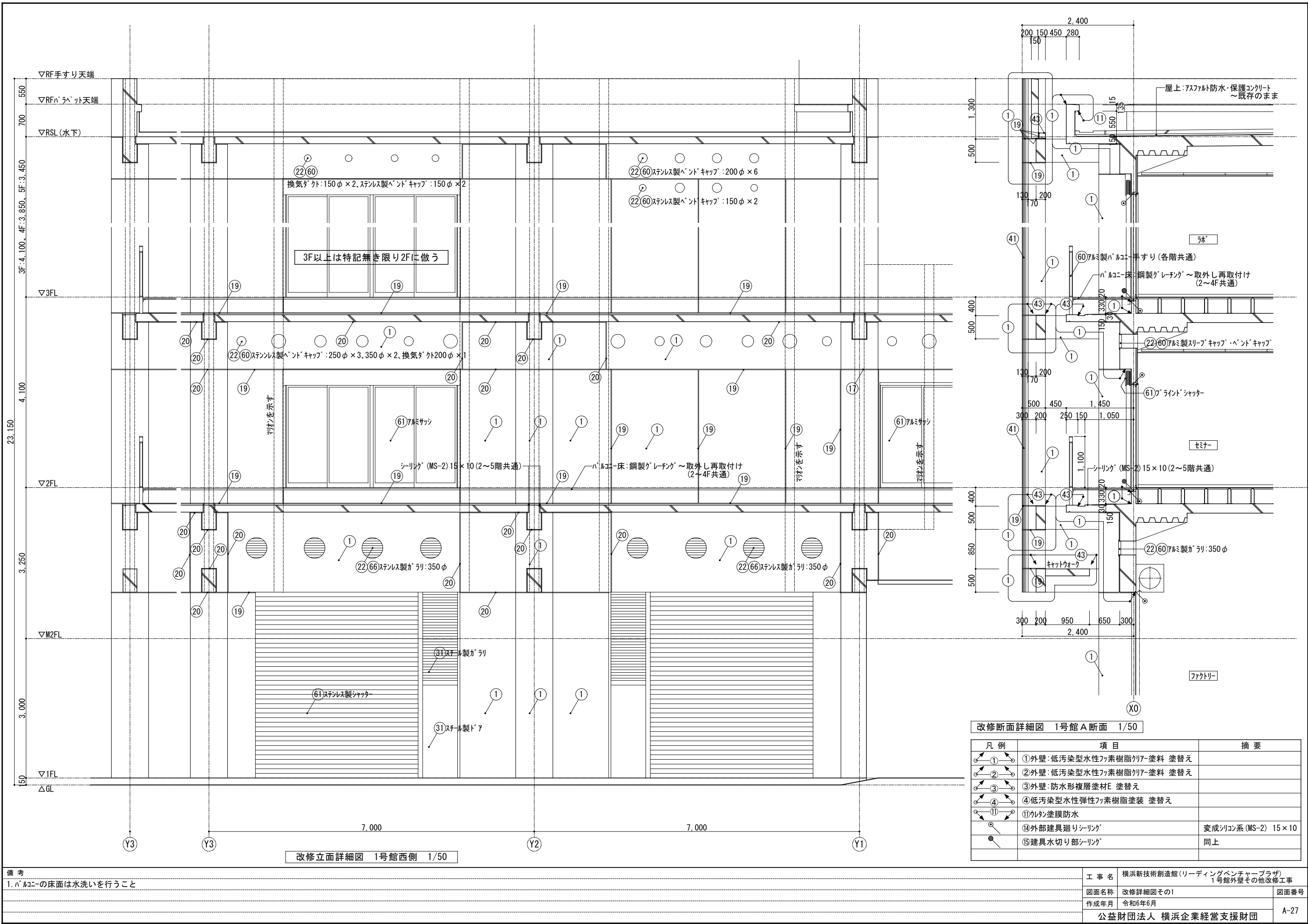
改修立面図 1号館北側: ④断面 1/200

共通事項(特記なき限り下記による)		凡 例	
1号館: 壁・柱・幅木・梁型	①	マリオン・バルコニー含む、一部②	① parapet等の①①ケレン塗膜防水の範囲を示す
2号館: 壁・柱・幅木・梁型	②	マリオン・バルコニー含む	② 外壁等の①②ケレン塗膜防水の範囲を示す
梁型・手すり・マリオン・バルコニー手すり脚元等天端	④③		③ 外壁等の③防水型複層塗材Eの範囲を示す
バルコニー等金属製手すり	⑥①		④ 渡り廊下の7mm製スパンデルの範囲を示す
縦樋(ステンシル製支持金物共)	⑤⑤	呼び樋(1号館75φ、2号館50φ)共	
既存7mm製建具	⑭⑮⑯⑰		
既存ステンシル製建具	⑭⑮⑯⑰		



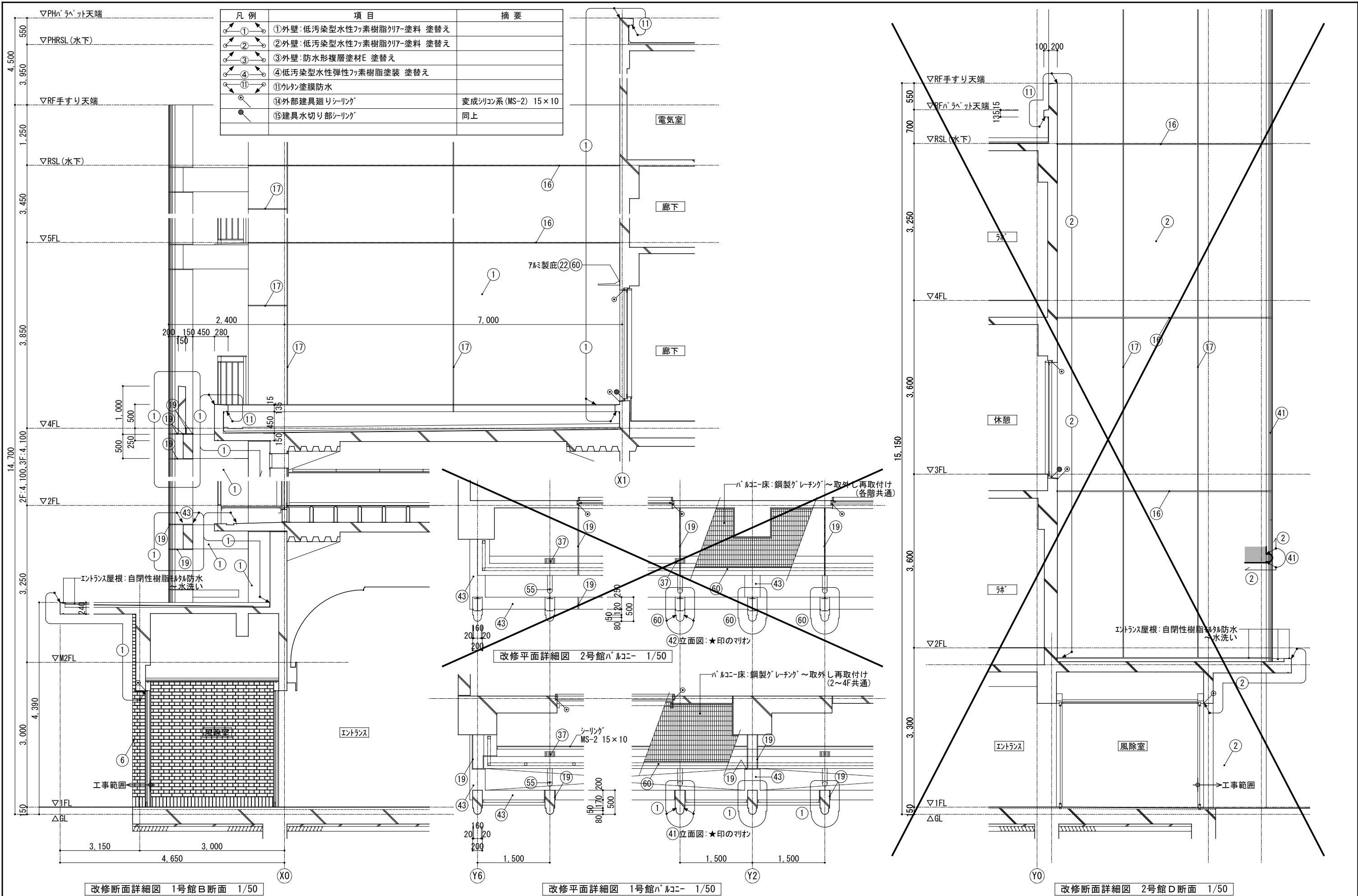
備 考	工 事 名		横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称		改修立面図 1号館東側・北側: ④断面	図面番号
	作成年月		令和6年6月	A-25
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	改修立面図 1号館屋階PH他	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-26
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

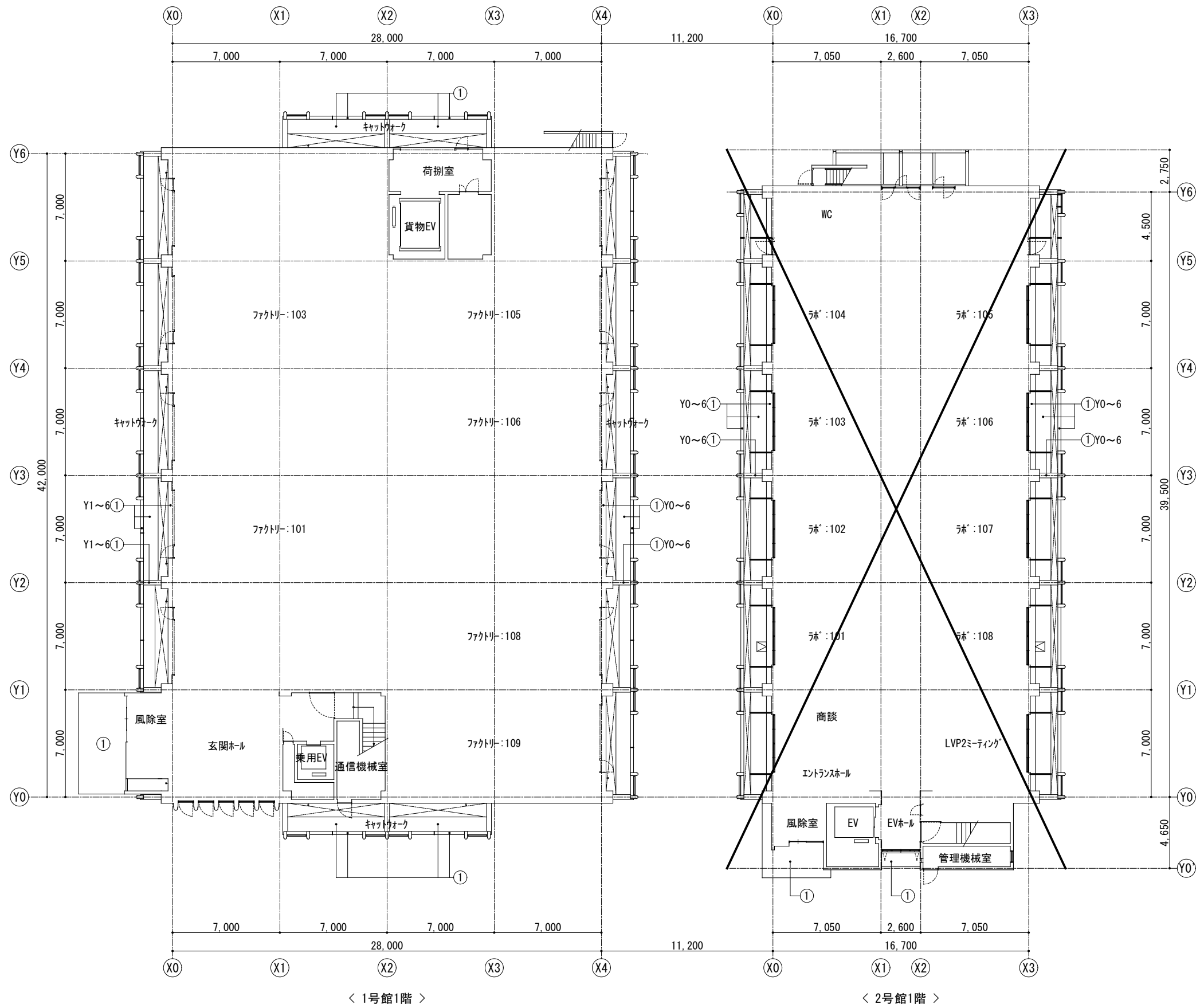


備考
1. バルコニーの床面は水洗いを行うこと

工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
図面名称	改修詳細図その1	図面番号
作成年月	令和6年6月	A-27
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

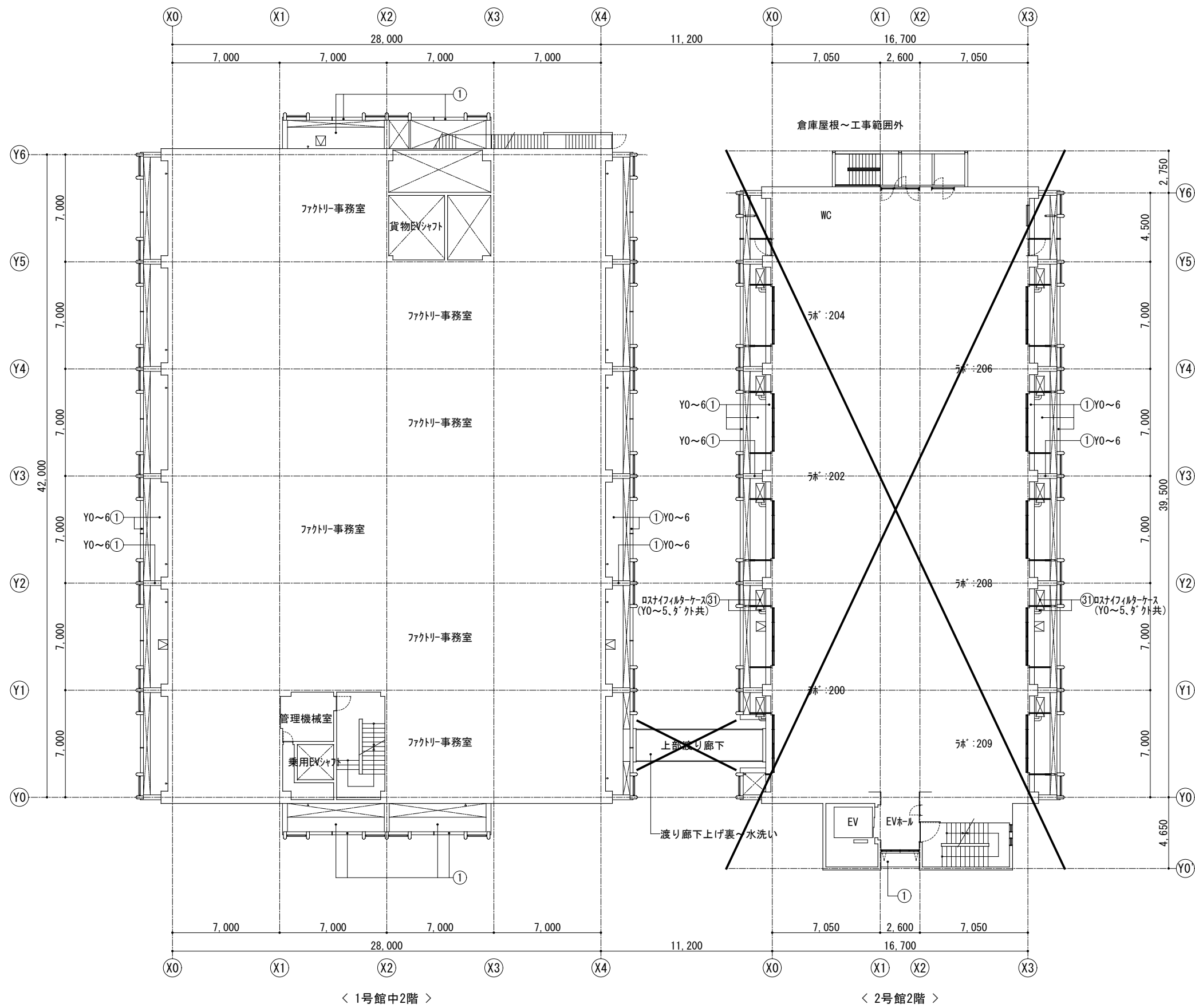


備 考		工 事 名		横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
1.バルコニーの床面は水洗いを行うこと		図面名称		改修詳細図その2	
2.2号棟の⑪は既存防水の撤去を行うこと		作成年月		令和6年6月	
		図面番号		A-28	
		公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



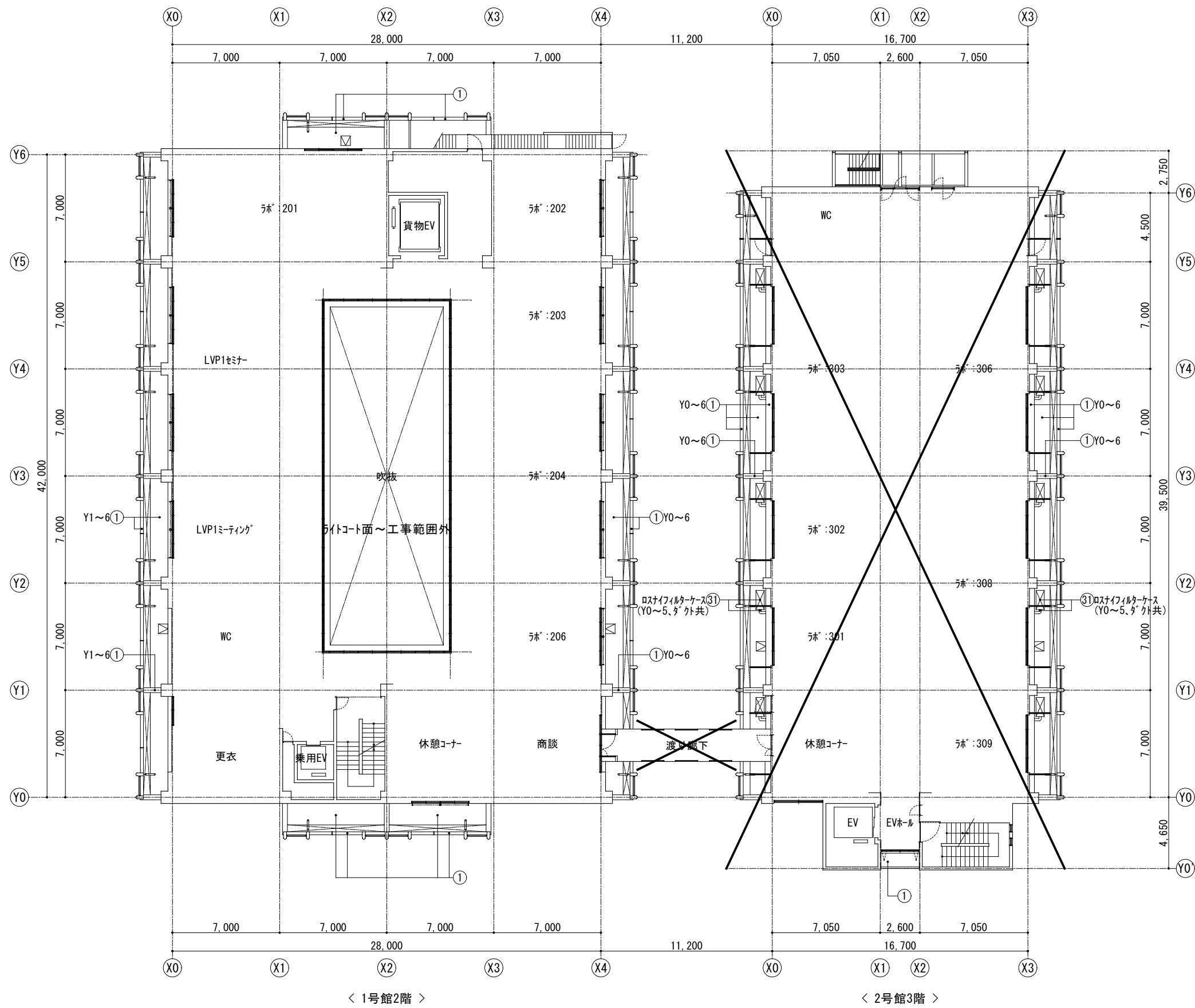
1号館1階・2号館1階 天井伏図 1/200

備 考	工 事 名			横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事
	図面名称			1号館1階・2号館1階 天井伏図
	作成年月			令和6年6月
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			図面番号 A-29



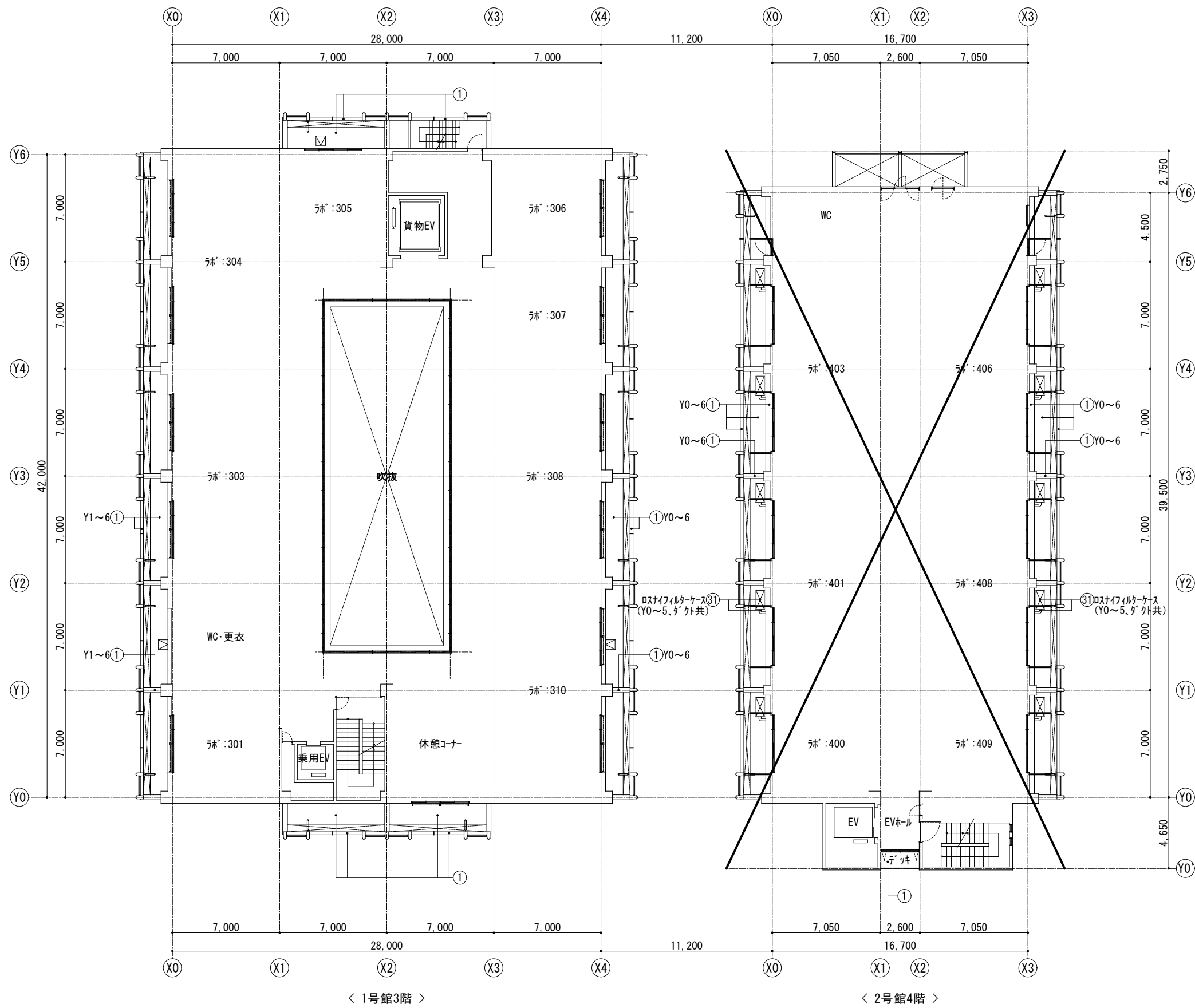
1号館中1階・2号館2階 天井伏図 1/200

備 考	工 事 名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事
	図面名称		1号館中2階・2号館2階 天井伏図
	作成年月		令和6年6月
	図面番号		A-30
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



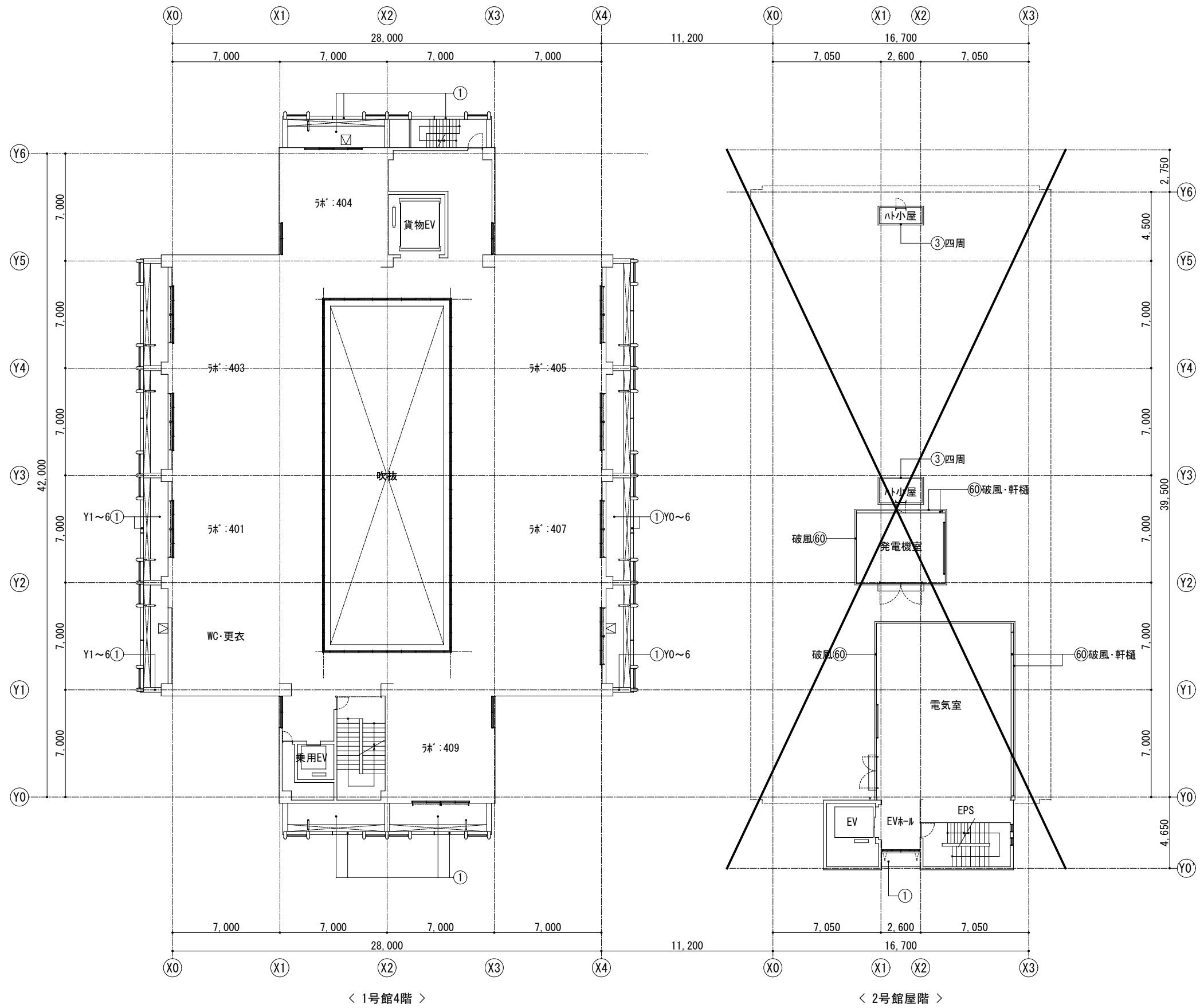
1号館2階・2号館3階 天井伏図 1/200

備 考	工 事 名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称		1号館2階・2号館3階 天井伏図	図面番号
	作成年月		令和6年6月	A-31
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



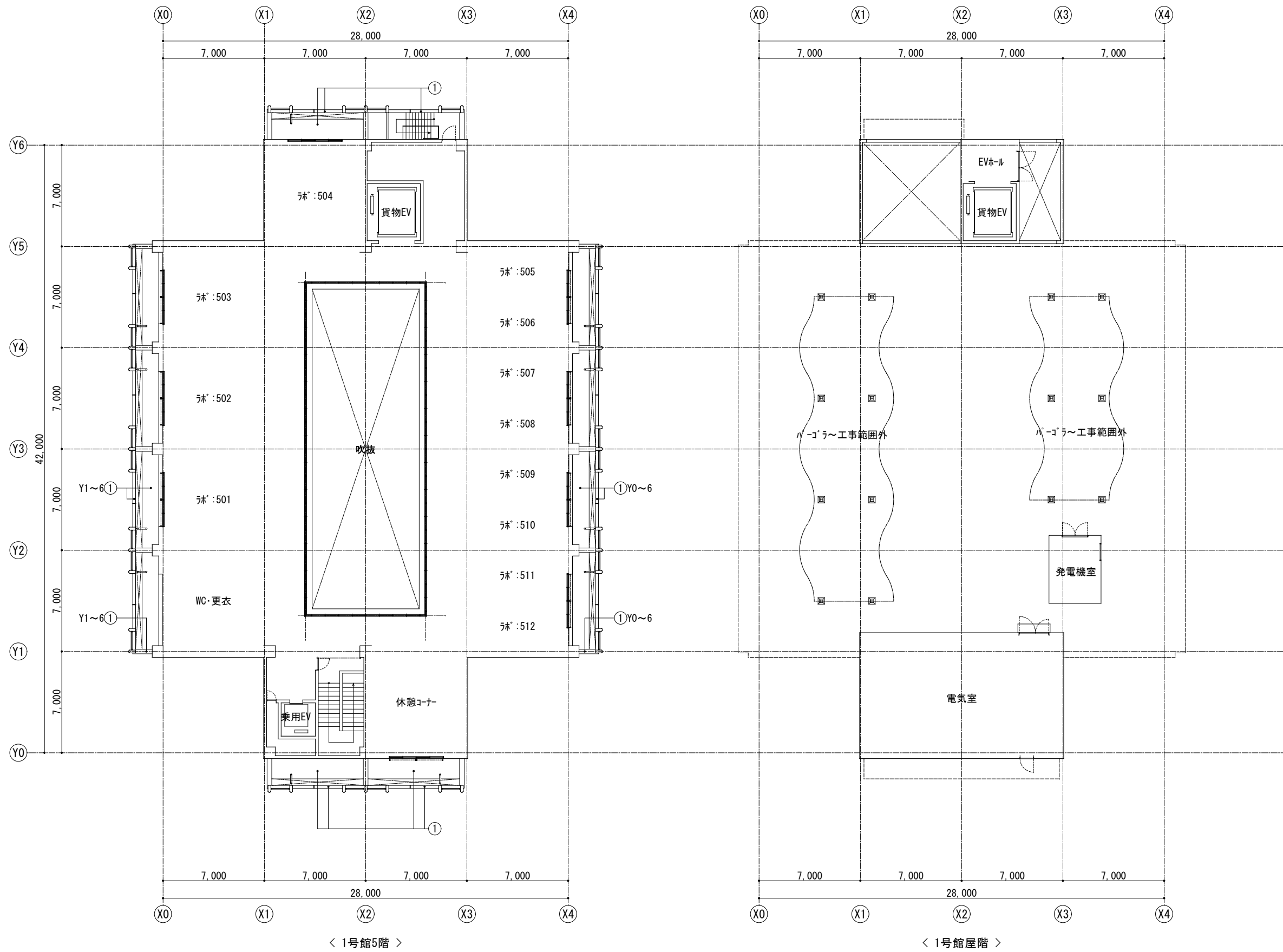
1号館3階・2号館4階 天井伏図 1/200

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	1号館3階・2号館4階 天井伏図	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-32
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



1号館4階・2号館屋階 天井伏図 1/200

備 考	工 事 名		横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称		1号館4階・2号館屋階 天井伏図	図面番号
	作成年月		令和6年6月	A-33
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

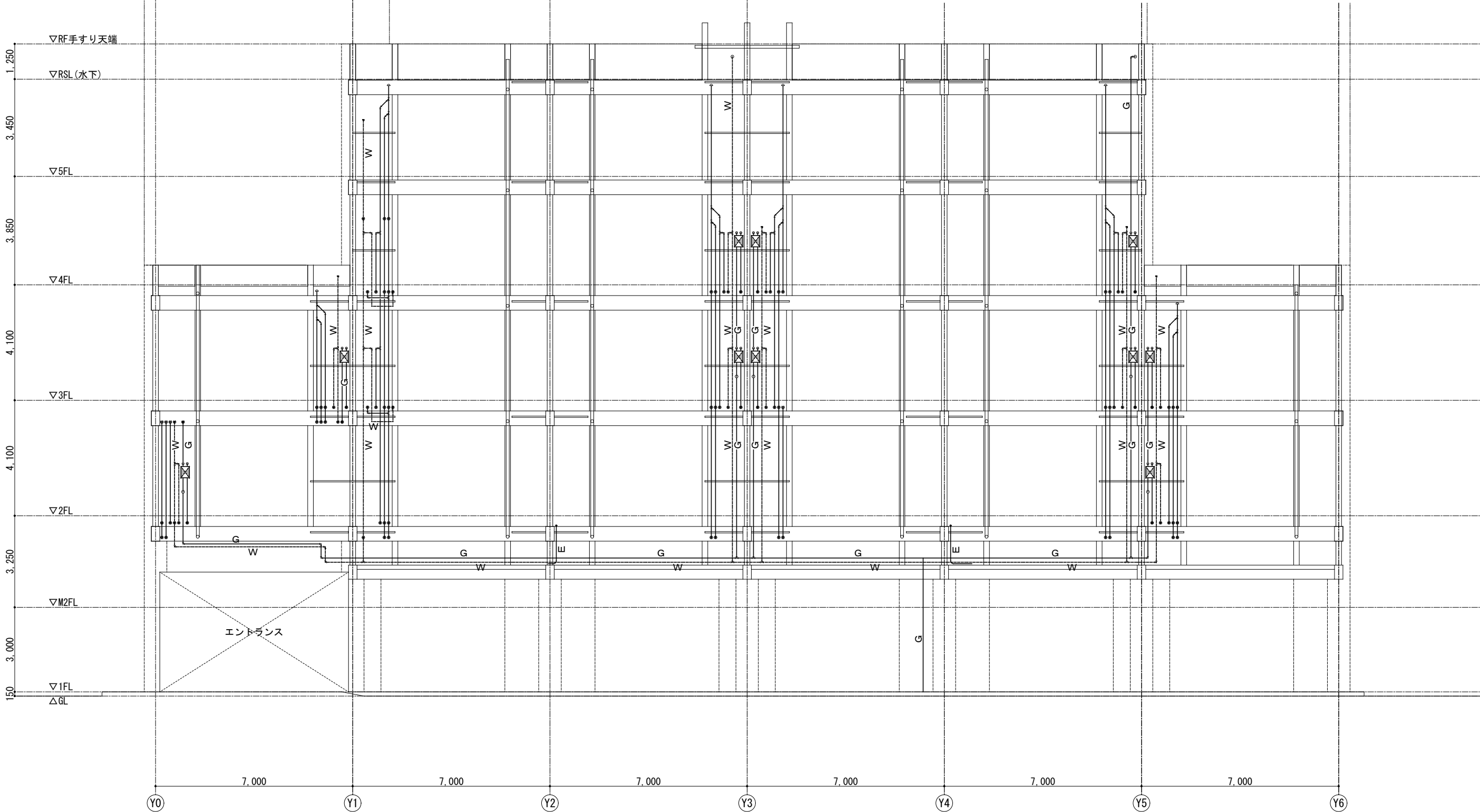


1号館5階・屋階 天井伏図 1/200

備 考	工 事 名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事
	図面名称	1号館5階・屋階 天井伏図	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-34
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
	排水管	銅管	既存SOPをDPに塗替え		壁付き照明器具		水洗い
	ガス管	樹脂被覆銅管	DP塗装		床置き照明器具		水洗い
	給水・給湯管ラッキング	ステンレス	水洗い		防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
	消火管	銅管	既存SOPをDPに塗替え		空調室外機		水洗い
	換気パイプダクト	ステンレス	水洗い		給湯器		水洗い
	ドレン管	樹脂管	DP塗装		縦樋	カラーVP100φ	撤去・新設(呼び樋共)
	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
	電気配管、ケーブルボックス	亜鉛メッキ、樹脂	DP塗装				



配管類改修立面図 1号館西側：③断面 1/100

備 考 1. DP塗装はフッ素樹脂系とする	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事		
	図面名称	配管類改修立面図 1号館西側：③断面		図面番号
	作成年月	令和6年6月		A-36
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

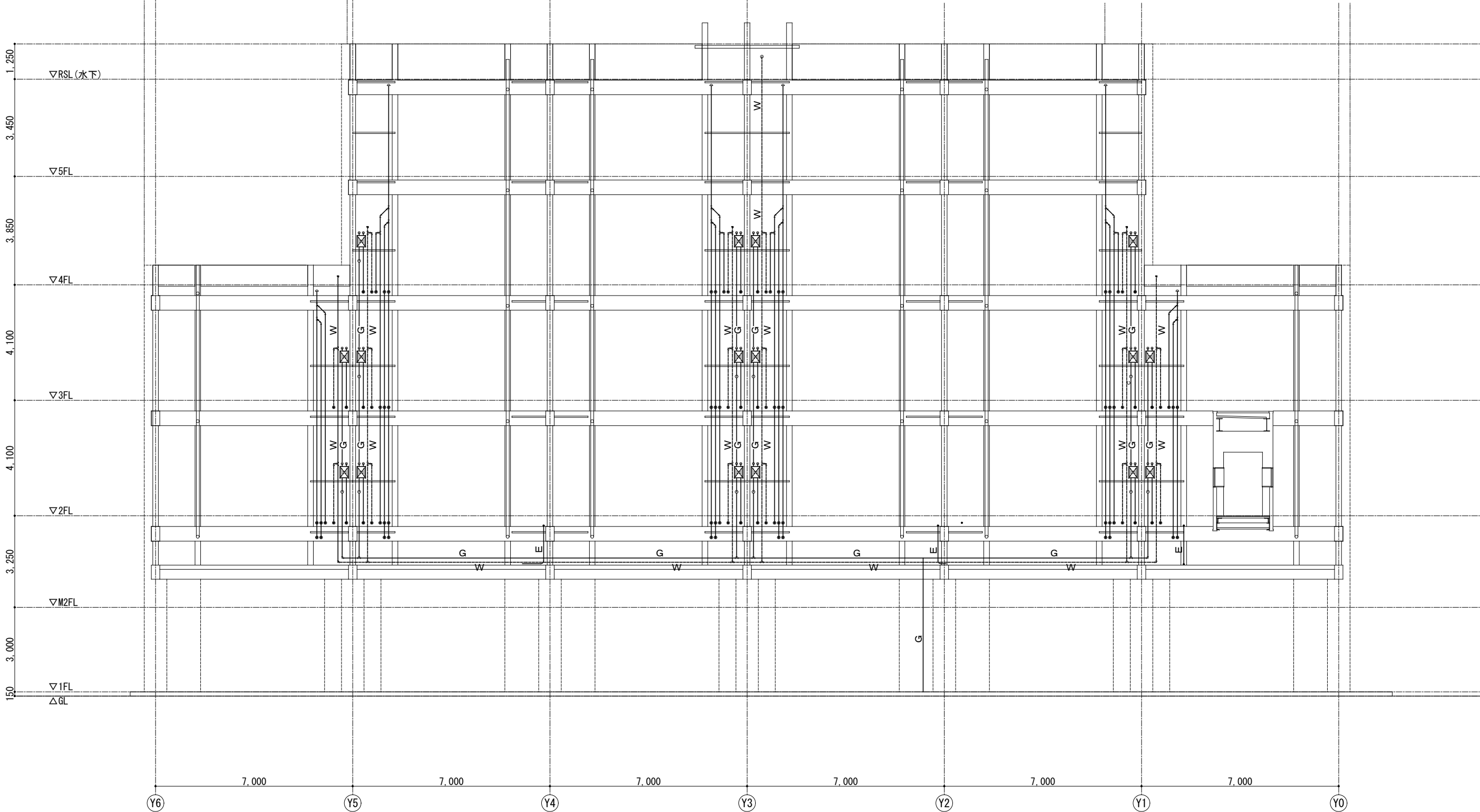
凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
	排水管	銅管	既存SOPをDPに塗替え		壁付き照明器具		水洗い
	ガス管	樹脂被覆銅管	DP塗装		床置き照明器具		水洗い
	給水・給湯管ラッキング	ステンレス	水洗い		防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
	消火管	銅管	既存SOPをDPに塗替え		空調室外機		水洗い
	換気パイプダクト	ステンレス	水洗い		給湯器		水洗い
	ドレン管	樹脂管	DP塗装		縦樋	カラーVP100φ	撤去・新設(呼び樋共)
	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
	電気配管、フルボックス	亜鉛メッキ、樹脂	DP塗装				



配管類改修立面図 1号館東側：①断面 1/100

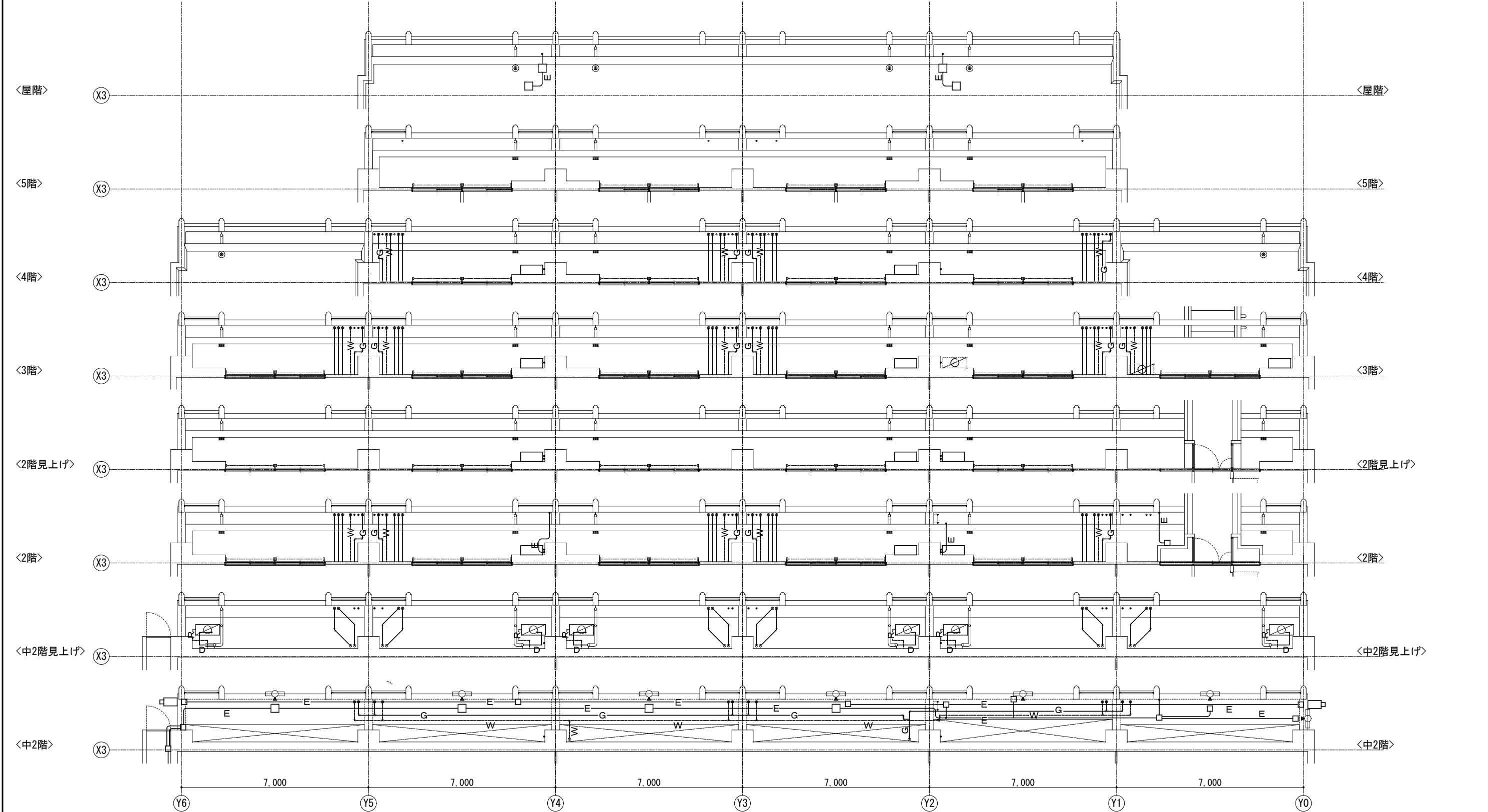
備 考 1. DP塗装はフッ素樹脂系とする	工 事 名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事
	図面名称	配管類改修立面図 1号館東側：①断面	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-38
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
	排水管	銅管	既存SOPをDPに塗替え		壁付き照明器具		水洗い
	ガス管	樹脂被覆銅管	DP塗装		床置き照明器具		水洗い
	給水・給湯管ラッキング	ステンレス	水洗い		防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
	消火管	銅管	既存SOPをDPに塗替え		空調室外機		水洗い
	換気パイプ架台	ステンレス	水洗い		給湯器		水洗い
	ドレン管	樹脂管	DP塗装		縦樋	ガラ-VP100 φ	撤去・新設(呼び樋共)
	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
	電気配管、ブロッカス	垂鉛メッキ、樹脂	DP塗装				



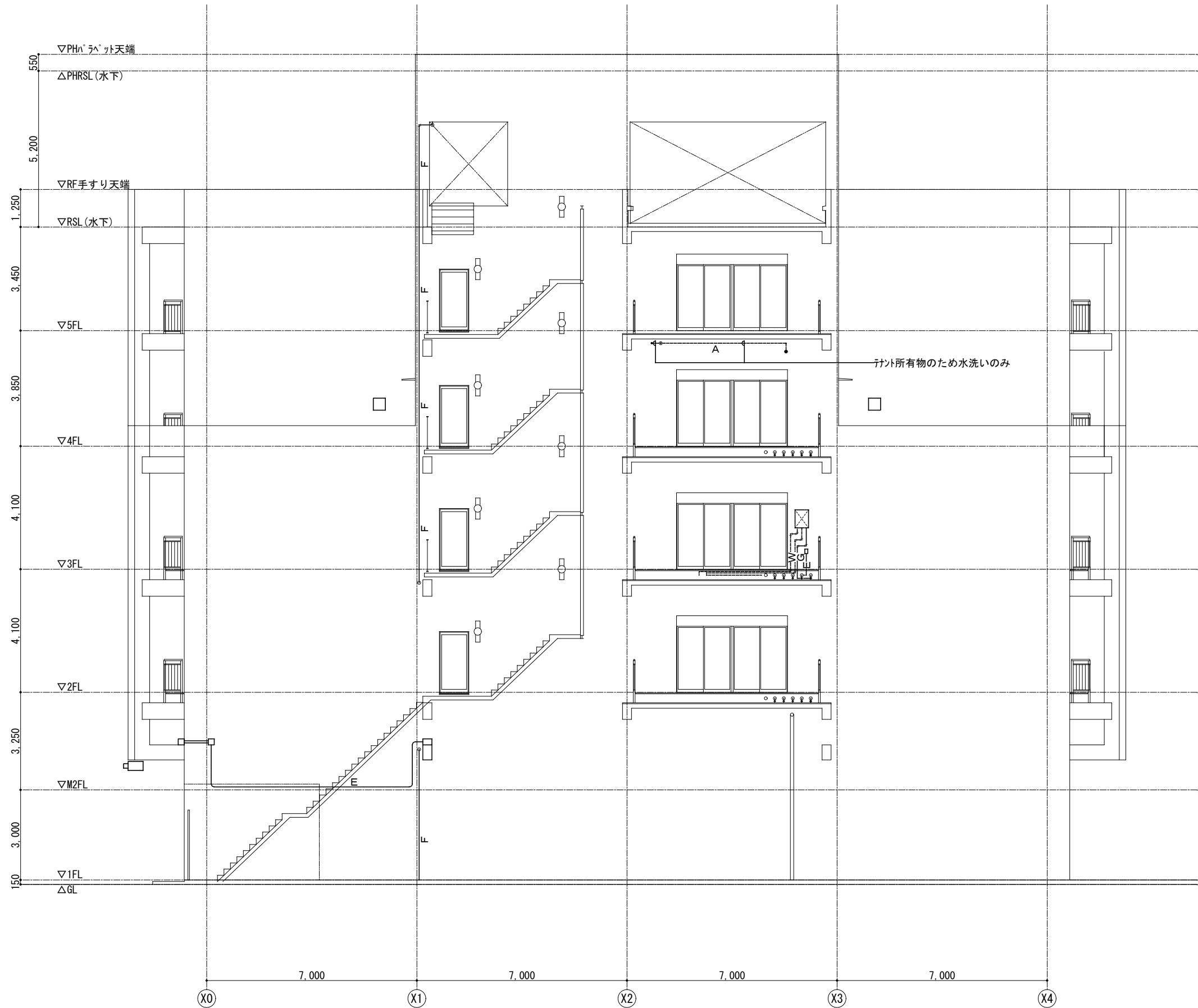
配管類改修立面図 1号館東側：③断面 1/100

凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
	排水管	銅管	既存SOPをDPに塗替え		壁付き照明器具		水洗い
	ガス管	樹脂被覆銅管	DP塗装		床置き照明器具		水洗い
	給水・給湯管ラッキング	ステンレス	水洗い		防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
	消火管	銅管	既存SOPをDPに塗替え		空調室外機		水洗い
	換気パイプラケット	ステンレス	水洗い		給湯器		水洗い
	ドレン管	樹脂管	DP塗装		縦樋	ガラ-VP100 φ	撤去・新設(呼び樋共)
	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
	電気配管、ブロッックス	垂鉛メッキ、樹脂	DP塗装				



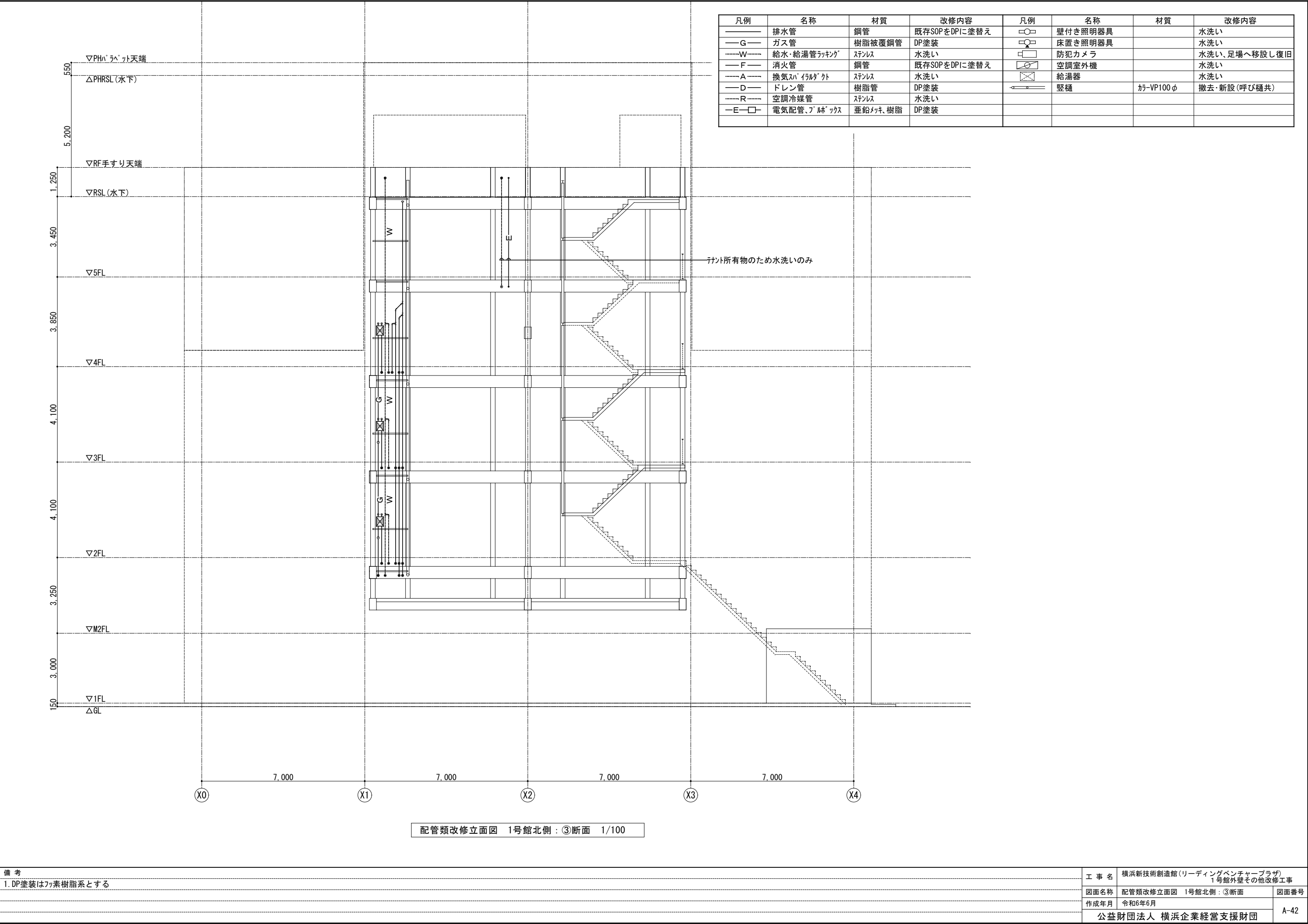
配管類改修平面図 1号館東側：X3通り 1/100

備 考 1. DP塗装はフッ素樹脂系とする 2. 1号館のバルコニー床面の配管は建物付属物のため、水洗いのうえ、特記なき限り凡例に倣って塗装等を行うこと	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事		
	図面名称	配管類改修平面図 1号館東側：X3通り	図面番号	
	作成年月	令和6年6月	A-4	
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

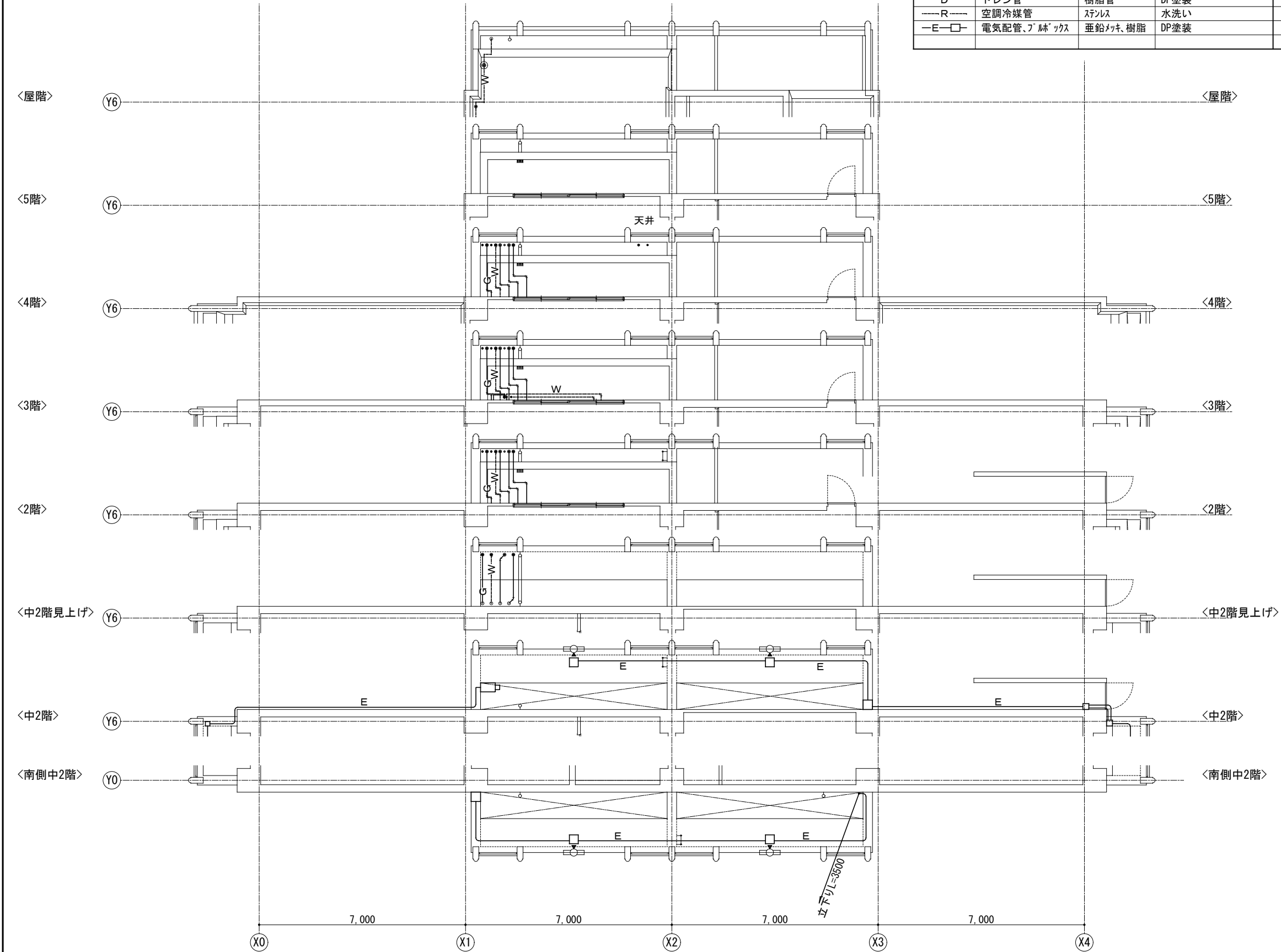


配管類改修立面図 1号館北側：①断面 1/100

備考 1. DP塗装はフッ素樹脂系とする	工事名 横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	配管類改修立面図 1号館北側：①断面
	図面番号	A-41
	作成年月	令和6年6月
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

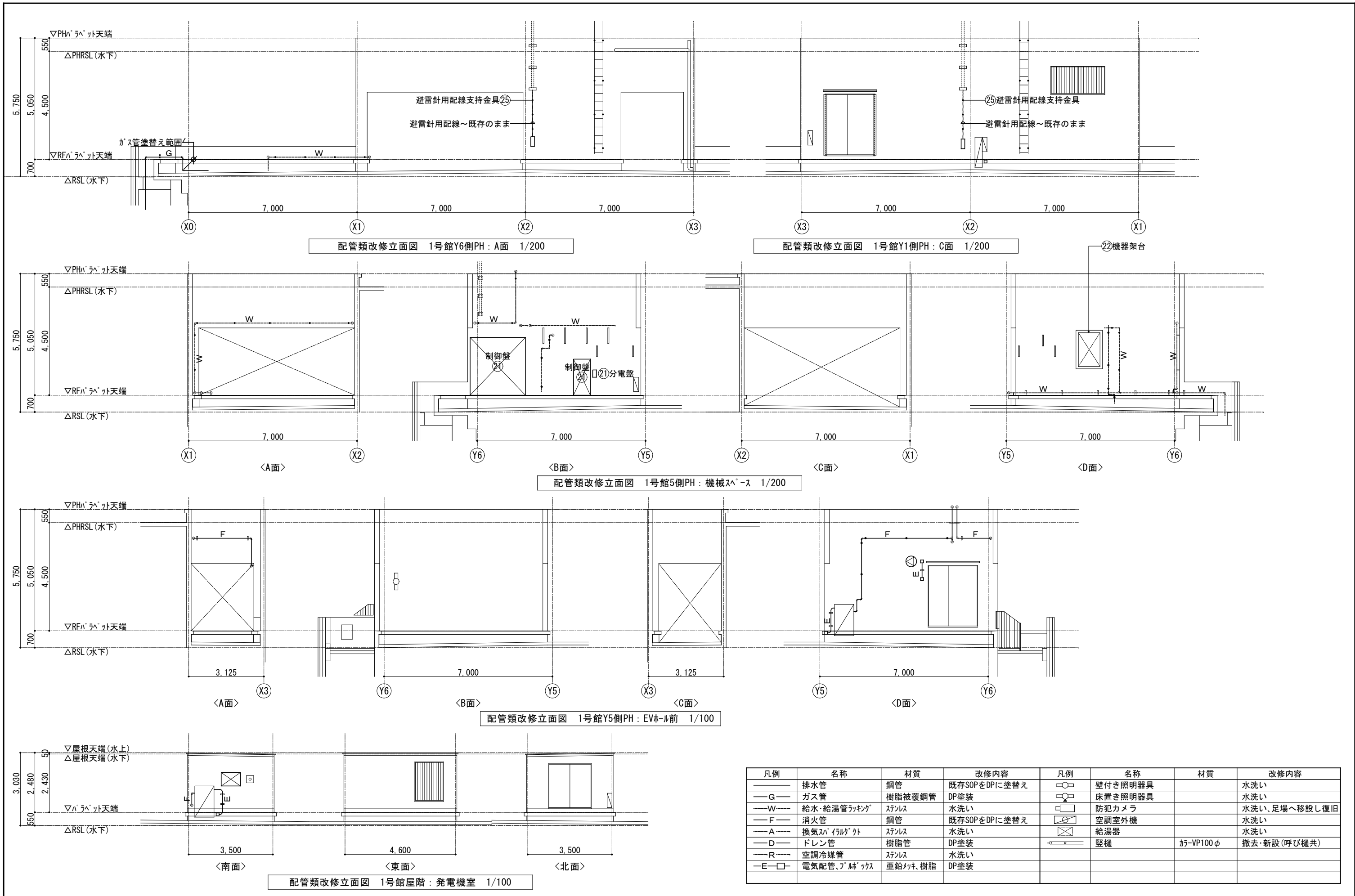


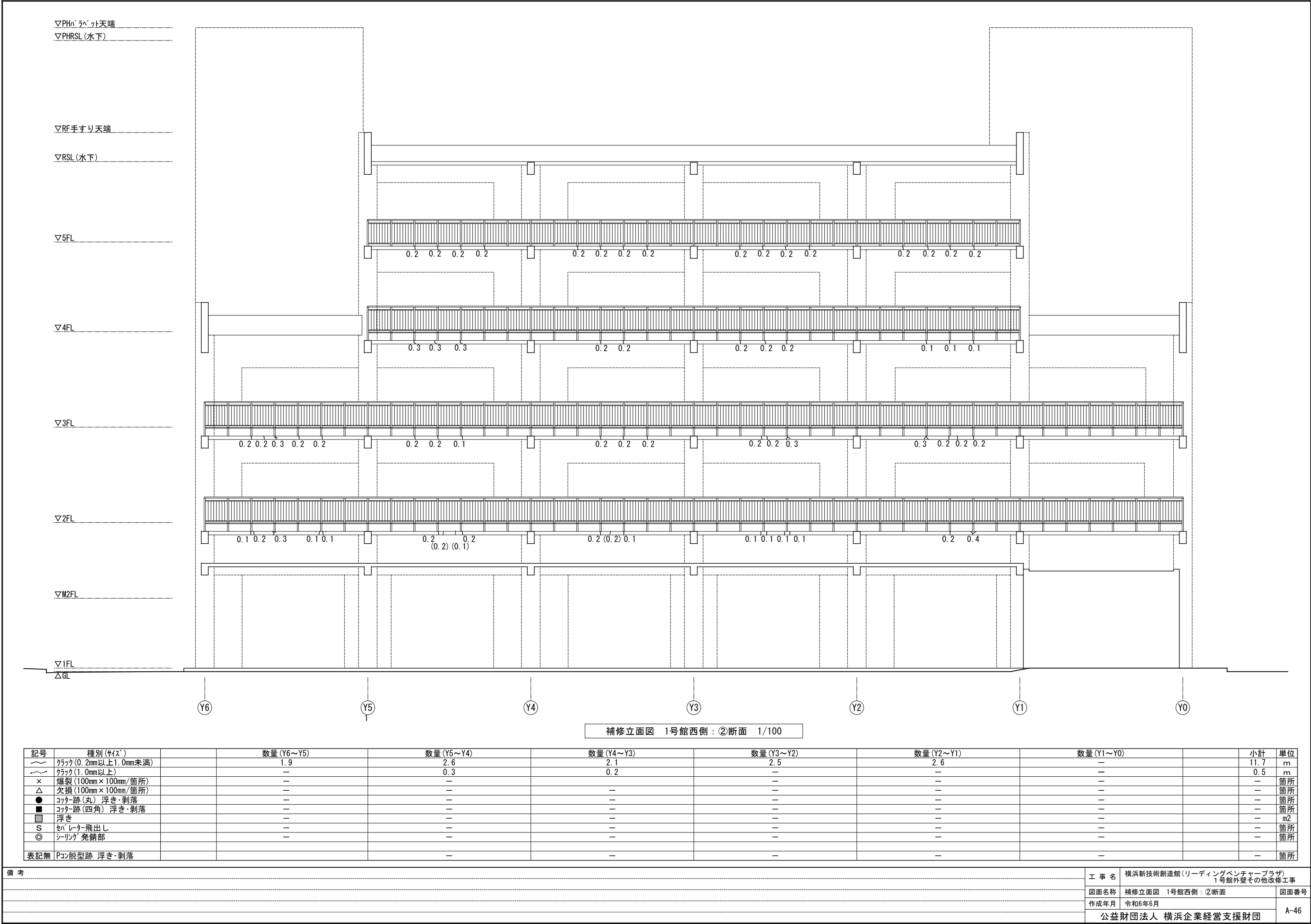
凡例	名称	材質	改修内容	凡例	名称	材質	改修内容
	排水管	銅管	既存SOPをDPに塗替え		壁付き照明器具		水洗い
	ガス管	樹脂被覆銅管	DP塗装		床置き照明器具		水洗い
	給水・給湯管ラッキング	ステンレス	水洗い		防犯カメラ		水洗い、足場へ移設し復旧
	消火管	銅管	既存SOPをDPに塗替え		空調室外機		水洗い
	換気パイプダクト	ステンレス	水洗い		給湯器		水洗い
	ドレン管	樹脂管	DP塗装		縦樋	カラーVP100φ	撤去・新設(呼び樋共)
	空調冷媒管	ステンレス	水洗い				
	電気配管、ブルボックス	亜鉛メッキ、樹脂	DP塗装				



配管類改修平面図 1号館南側:Y0通り、北側:Y6通り 1/100

備 考 1. DP塗装は7素樹脂系とする 2. 1号館のバルコニー床面の配管は建物付属物のため、水洗いのうえ、特記なき限り凡例に倣って塗装等を行うこと	工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事		
	図面名称	配管類改修平面図 1号館北側:Y6通り他		図面番号
	作成年月	令和6年6月		A-4
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



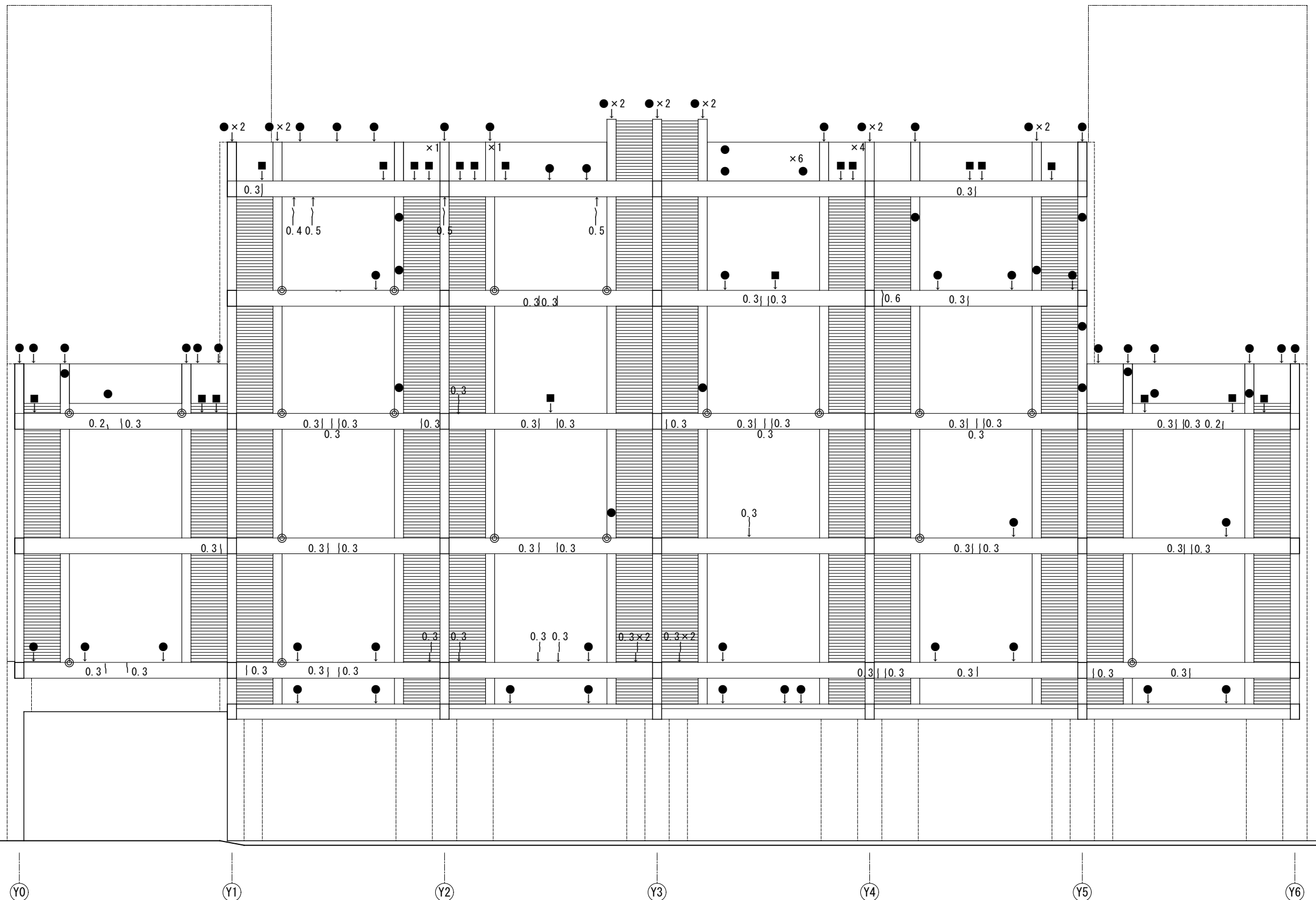


▽PHRSL (水下)

▽RF手すり天端

▽RSL (水下)▽5FL▽4FL▽3FL $\nabla^2 \text{FL}$

▽M2FL

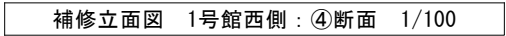
▽1FL $\overline{\Delta GL}$ 

補修立面図 1号館西側：③断面 1/100

[illegible]

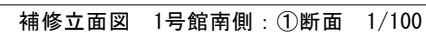
備考

工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
図面名称	補修立面図 1号館西側：③断面	図面番号
作成年月	令和6年6月	A-47
公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称	補修立面図 1号館西側：④断面	図面番号
	作成年月	令和6年6月	A-48
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		

▽PHRSL (水下)

▽RSL (水下) $\overline{\Delta GL}$ 

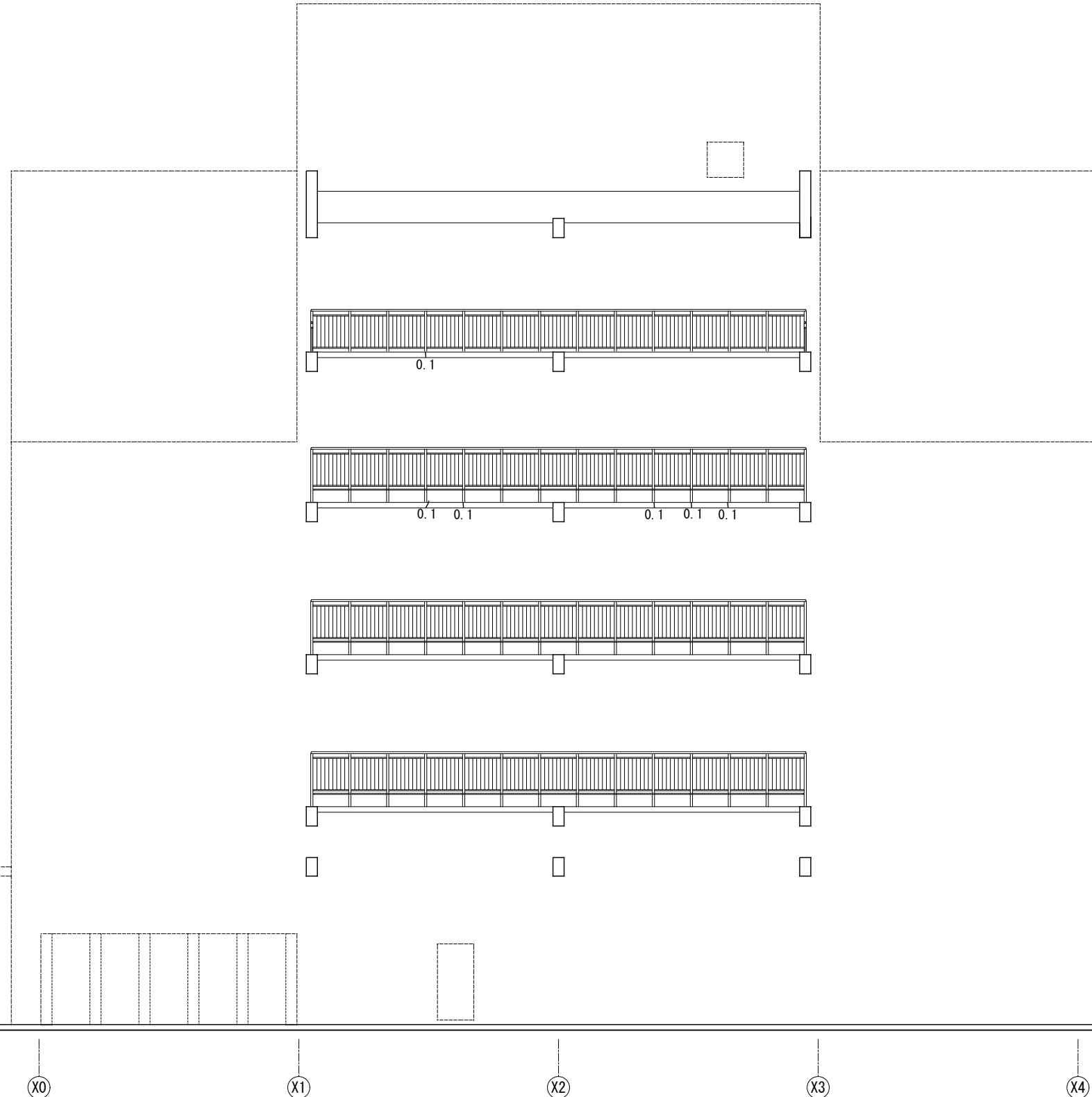
記号	種別(サイズ)	数量(～X0)	数量(X0～X1)	数量(X1～X2)	数量(X2～X3)	数量(X3～X4)	数量(X4～)	小計	単位
〰	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	1.3	21.0	3.7	22.8	12.0	0.4	61.2	m
〰	クラック(1.0mm以上)	—	1.8	0.4	1.9	15.6	—	19.7	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	12	—	—	—	12	箇所
●	コッター跡(丸)浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡(四角)浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
▨	浮き	0.04	—	—	—	—	—	0.04	m ²
S	セパレーター飛出し	—	—	3	—	—	—	3	箇所
◎	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	コン脱型跡 浮き・剥落	—	35	—	—	81	—	116	箇所

工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事		
図面名称	補修立面図 1号館南側：①断面	図面番号	A-49
作成年月	令和6年6月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

▽PHRSL (水下)

▽RSL (水下)

▽4FL

 $\nabla^2 \text{FL}$ ▽1FL ΔGL 

補修立面図 1号館南側：②断面 1/100

記号	種別(サイズ)			数量(X1~X2)	数量(X2~X3)			小計	単位
ㄣ	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)			0.3	0.3			0.6	m
ㄣ	クラック(1.0mm以上)			—	—			—	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)			—	—			—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)			—	—			—	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落			—	—			—	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落			—	—			—	箇所
▨	浮き			—	—			—	m ²
S	セパレータ飛出し			—	—			—	箇所
◎	シーリング発錆部			—	—			—	箇所
表記無	コン脱型跡 浮き・剥落			—	—			—	箇所

備考

工 事 名		横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
図面名称	補修立面図 1号館南側：②断面	図面番号	A-50
作成年月	令和6年6月		
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

▽PHH' 5h' 7t天端
▽PHRSL (水下)

▽RF手すり天端

▽RSL (水下)

▽5FL

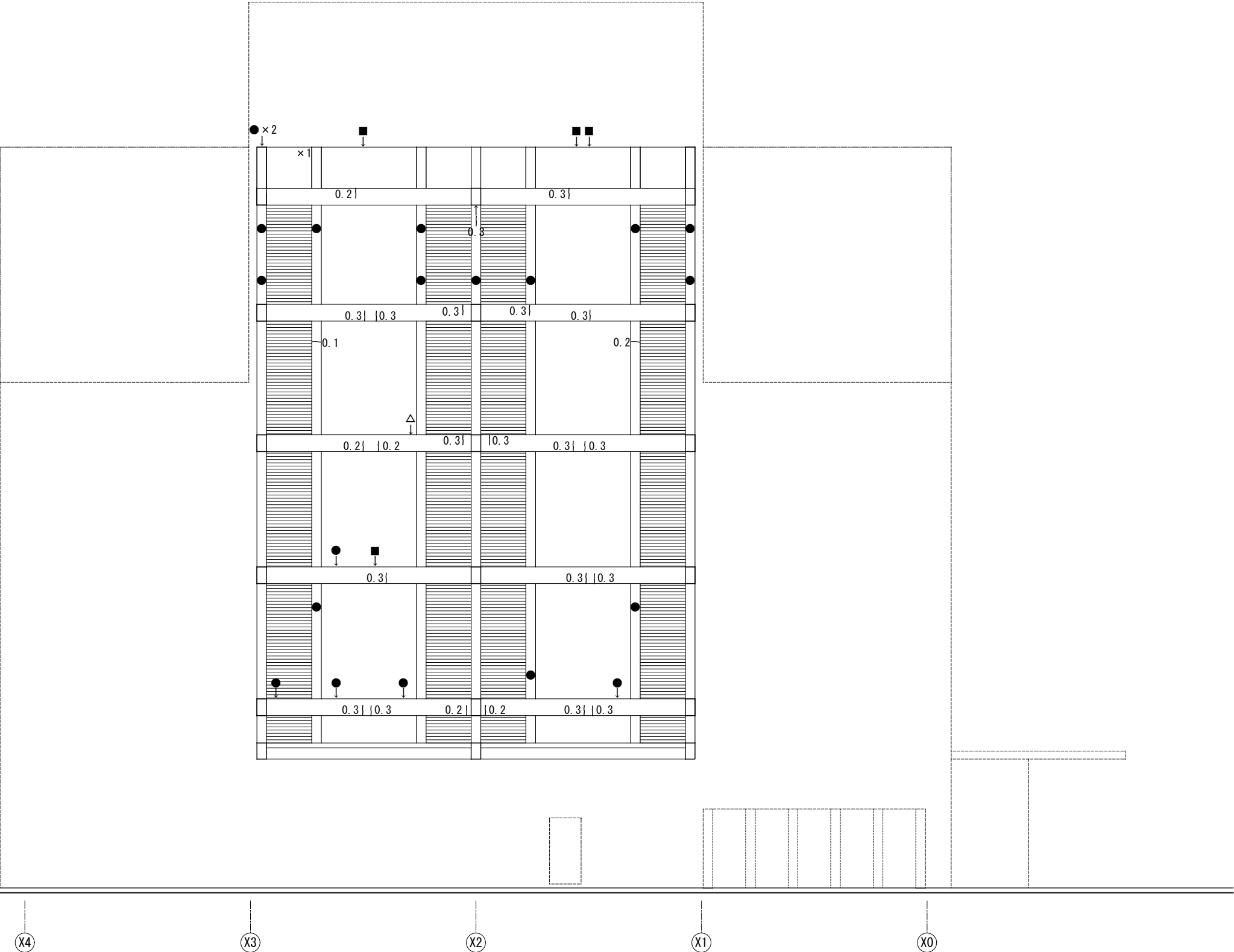
▽4FL

▽3FL

▽2FL

▽M2FL

▽1FL
△GL



補修立面図 1号館南側：③断面 1/100

記号	種別 (サイズ)			数量 (X3～X2)	数量 (X2～X1)		小計	単位
〰	クラック (0.2mm以上1.0mm未満)			3.0	3.7		6.7	m
〰	クラック (1.0mm以上)			—	—		—	m
×	爆裂 (100mm×100mm/箇所)			1	—		1	箇所
△	欠損 (100mm×100mm/箇所)			1	—		1	箇所
●	コッター跡 (丸) 浮き・剥落			12	8		20	箇所
■	コッター跡 (四角) 浮き・剥落			2	2		4	箇所
▨	浮き			—	—		—	m2
S	セパレーター飛出し			—	—		—	箇所
◎	シーリング発錆部			—	—		—	箇所
表記無	PC剥脱型跡 浮き・剥落			—	—		—	箇所

備 考	工 事 名		横浜新技術創造館 (リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事	
	図面名称		補修立面図 1号館南側：③断面	図面番号
	作成年月		令和6年6月	A-51
			公益財団法人 横浜企業経営支援財団	

▽PHA' 5A' ット天端
▽PHRSL (水下)

▽RF手すり天端
▽RSL (水下)

▽5FL

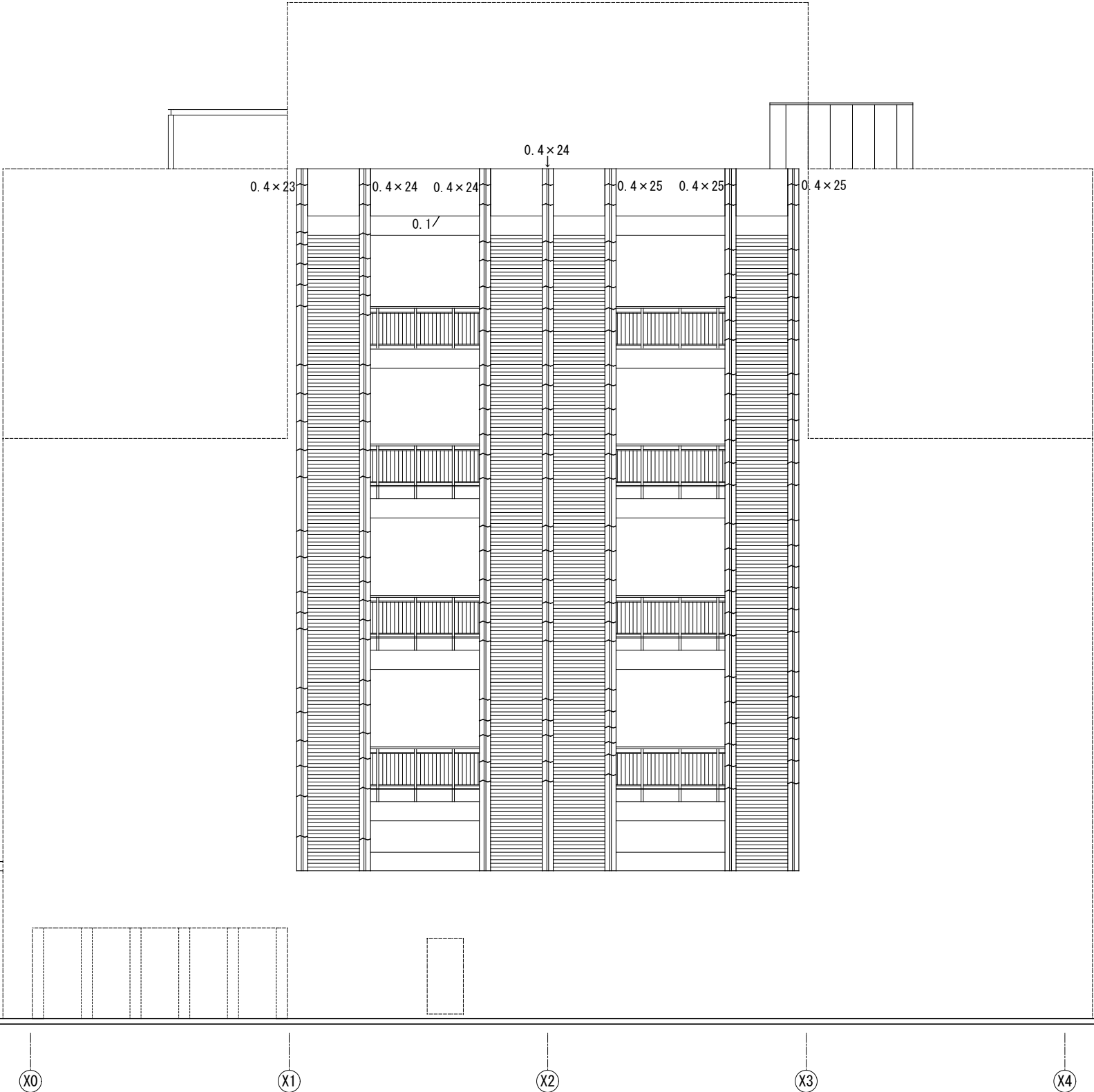
▽4FL

▽3FL

▽2FL

▽M2FL

▽1FL
△GL



補修立面図 1号館南側：④断面 1/100

記号	種別 (サイズ)			数量 (X1～X2)	数量 (X2～X3)		小計	単位
〰	クラック (0.2mm以上1.0mm未満)			28.5	39.6		68.1	m
〰〰	クラック (1.0mm以上)			—	—		—	m
×	爆裂 (100mm×100mm/箇所)			—	—		—	箇所
△	欠損 (100mm×100mm/箇所)			—	—		—	箇所
●	コッター跡 (丸) 浮き・剥落			—	—		—	箇所
■	コッター跡 (四角) 浮き・剥落			—	—		—	箇所
▨	浮き			—	—		—	m2
S	セパレーター飛出し			—	—		—	箇所
◎	シーリング発錆部			—	—		—	箇所
表記無	Pコ脱型跡 浮き・剥落			—	—		—	箇所

備考

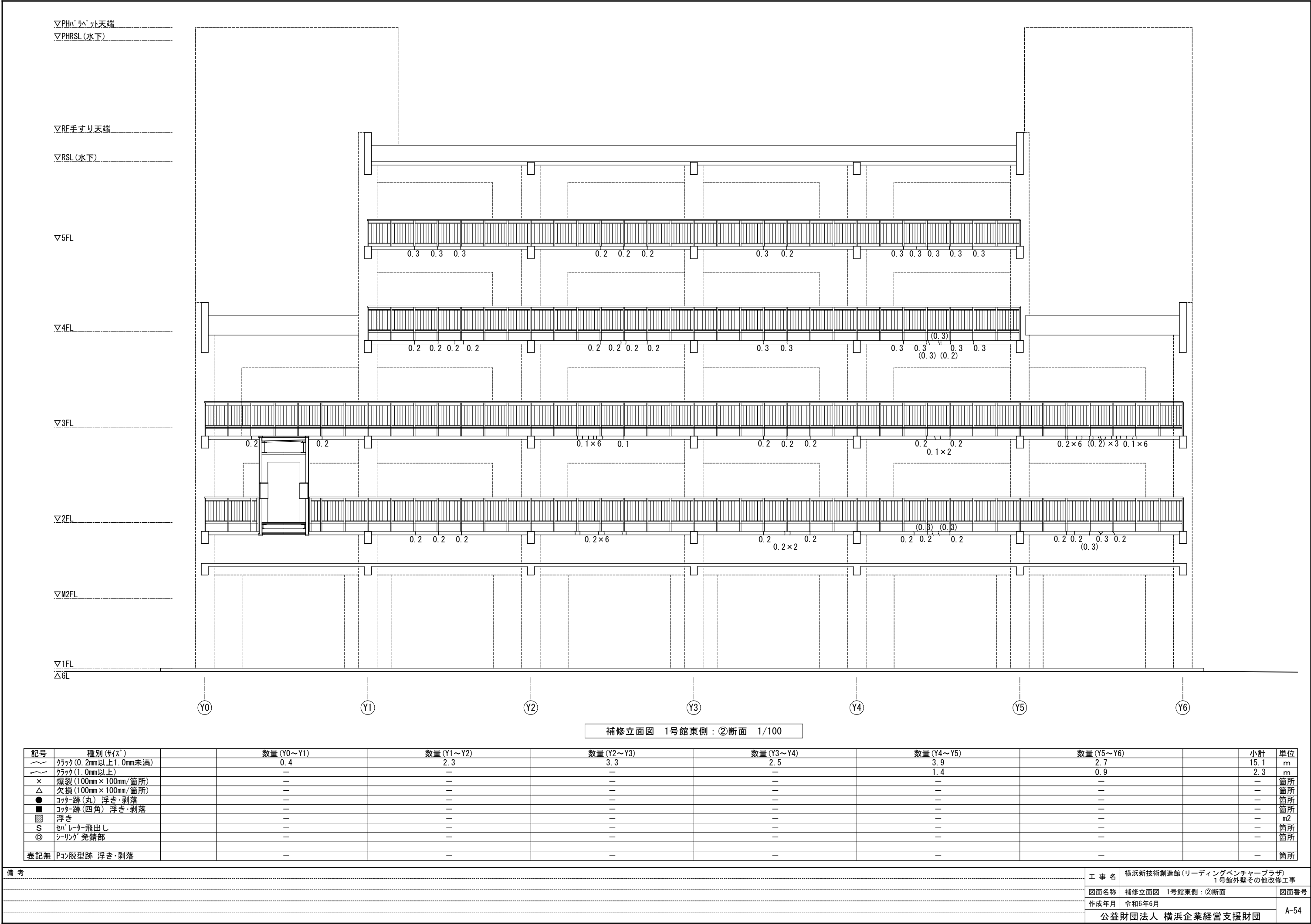
工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事		
図面名称	補修立面図 1号館南側：④断面		図面番号
作成年月	令和6年6月		A-52
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

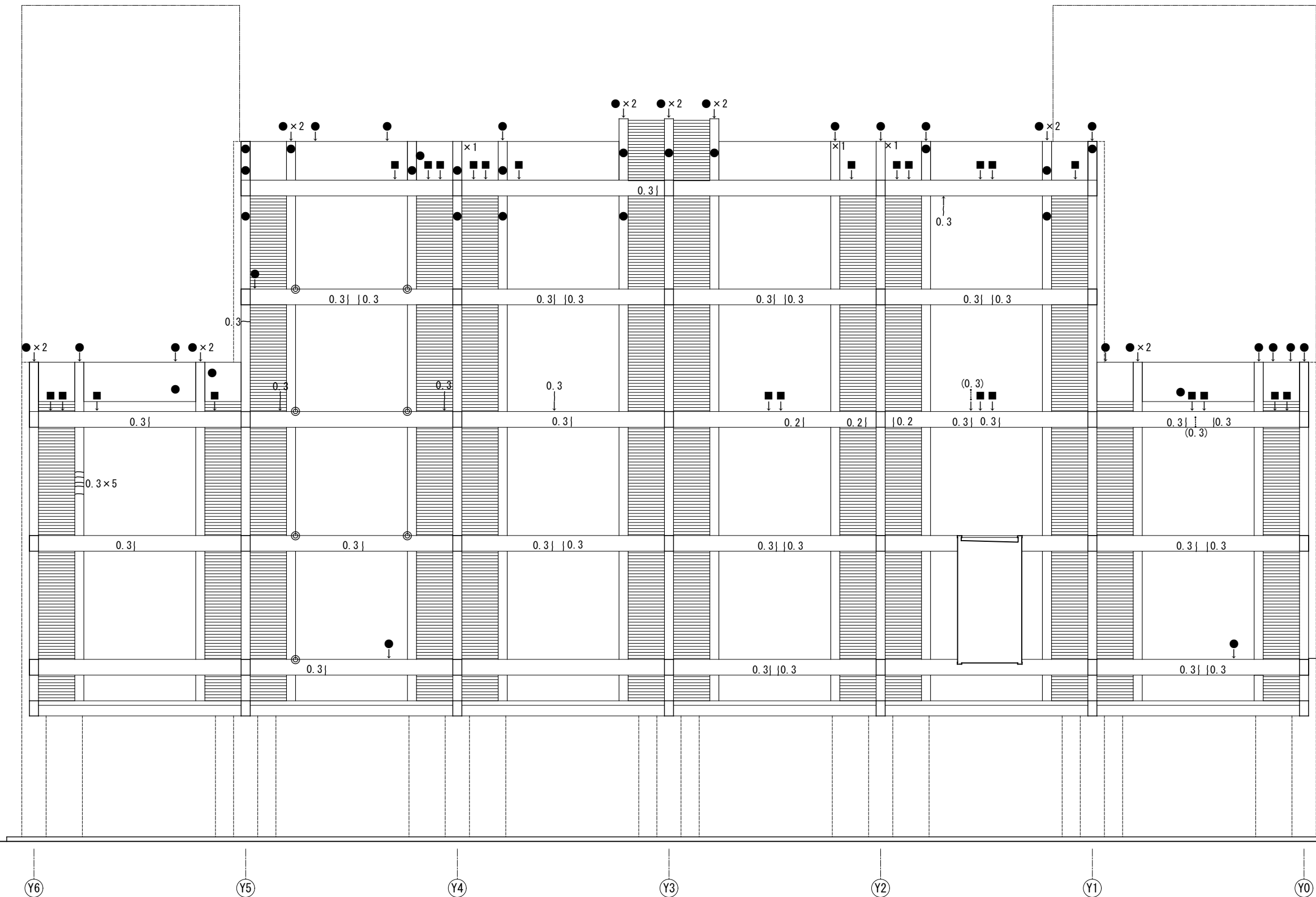


補修立面図 1号館東側 : ①断面 1/100

記号	種別(サイズ)	数量(～Y0)	数量(Y0～Y1)	数量(Y1～Y2)	数量(Y2～Y3)	数量(Y3～Y4)	数量(Y4～Y5)	数量(Y5～Y6)	数量(Y6～)	小計	単位
〰	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	3.0	21.7	0.6	0.5	0.2	1.2	24.3	3.5	55.0	m
〰	クラック(1.0mm以上)	—	3.4	—	—	—	—	5.5	2.2	11.1	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	1	1	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
▨	浮き	—	—	—	—	—	—	—	—	—	m2
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
◎	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	PC剥離型跡 浮き・剥落	—	54	—	—	—	—	38	—	92	箇所

備 考	工 事 名			横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事
	図面名称			補修立面図 1号館東側 : ①断面
	図面番号			
	作成年月			令和6年6月
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			A-5



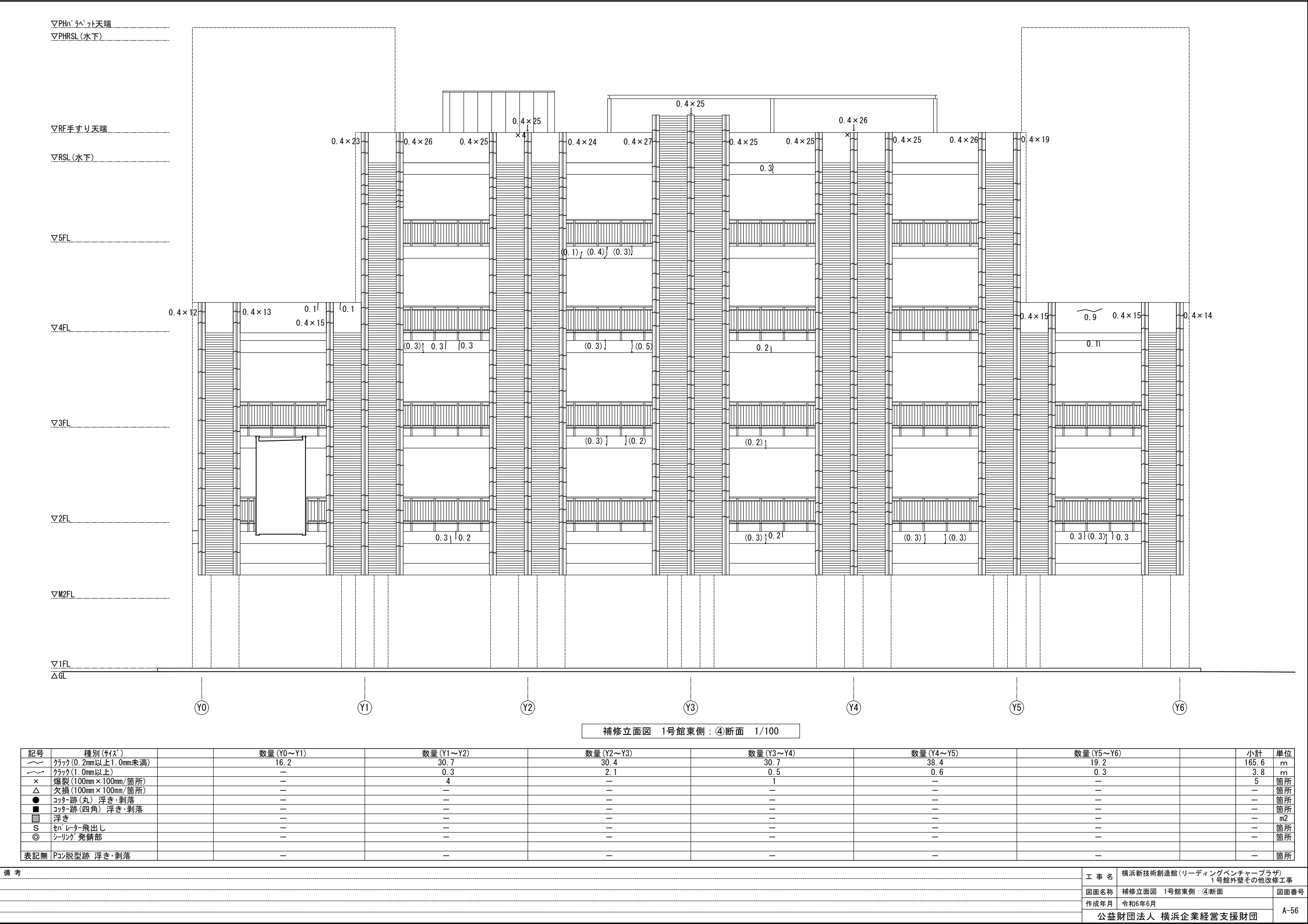


補修立面図 1号館東側：③断面 1/100

[illegible]

備考

工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事		
図面名称	補修立面図 1号館東側：③断面	図面番号	
作成年月	令和6年6月	A-55	
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



▽PH外壁天端
▽PHRSL(水下)

▽RF手すり天端
▽RSL(水下)

▽5FL

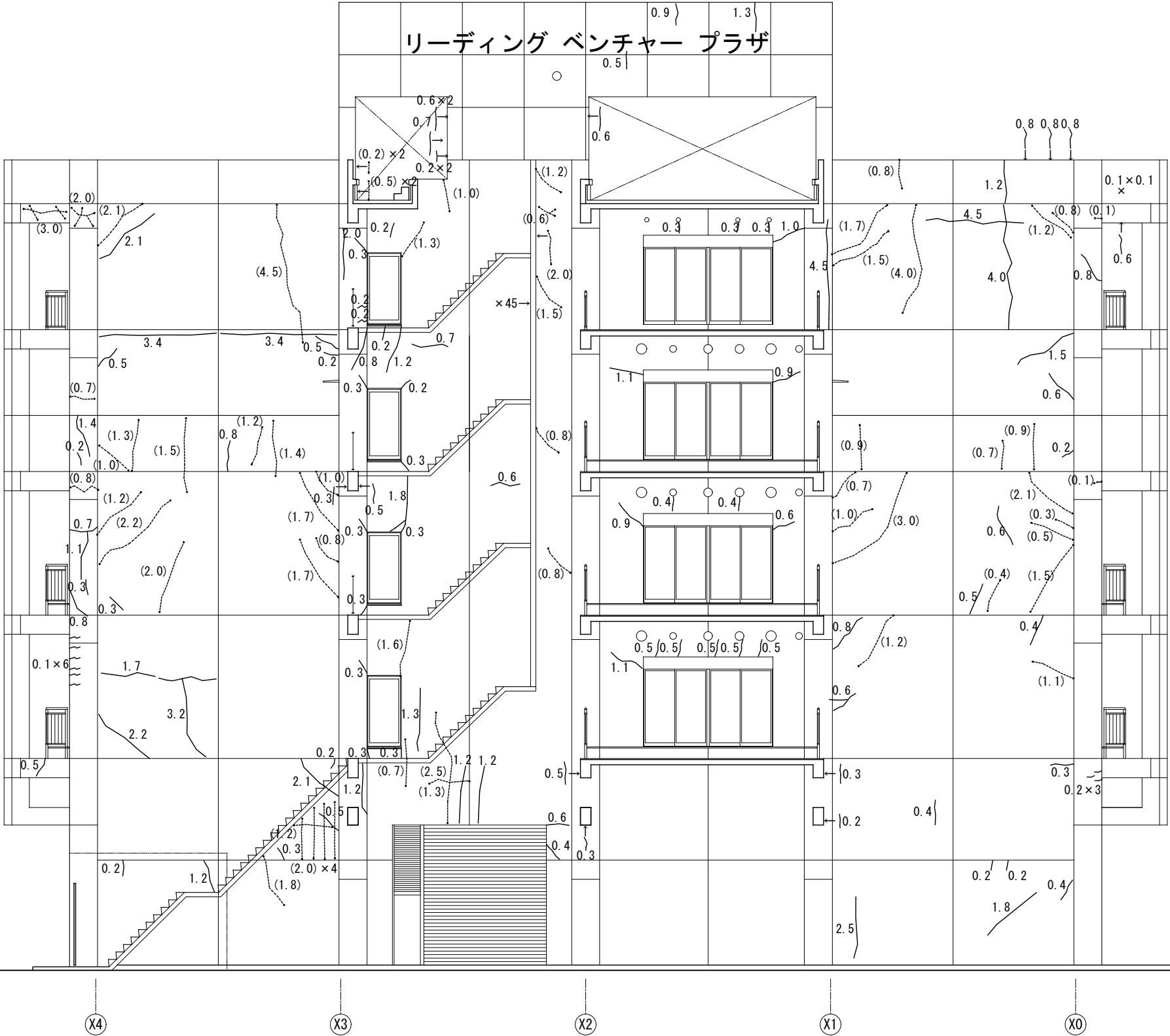
▽4FL

▽3FL

▽2FL

▽M2FL

▽1FL
△GL



補修立面図 1号館北側：①断面 1/100

記号	種別(サイズ)	数量(～X4)	数量(X4～X3)	数量(X3～X2)	数量(X2～X1)	数量(X1～X0)	数量(X0～)	小計	単位
〰	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	5.6	23.1	20.6	18.1	23.1	2.0	92.5	m
〰	クラック(1.0mm以上)	6.5	34.6	16.7	—	24.3	0.2	82.3	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	45	—	—	1	46	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	—	—	—	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	—	—	—	箇所
▨	浮き	—	—	—	—	—	—	—	m2
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	—	—	—	箇所
◎	シーリング発錆部	—	—	—	—	—	—	—	箇所
表記無	PC剥脱型跡 浮き・剥落	—	45	3	—	59	—	107	箇所

備考

工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事		
図面名称	補修立面図 1号館北側：①断面		図面番号
作成年月	令和6年6月		A-57
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

▽PH^ハ 5^ハ ヲ 天端
▽PHRSL (水下)

▽RF 手すり 天端

▽RSL (水下)

▽5FL

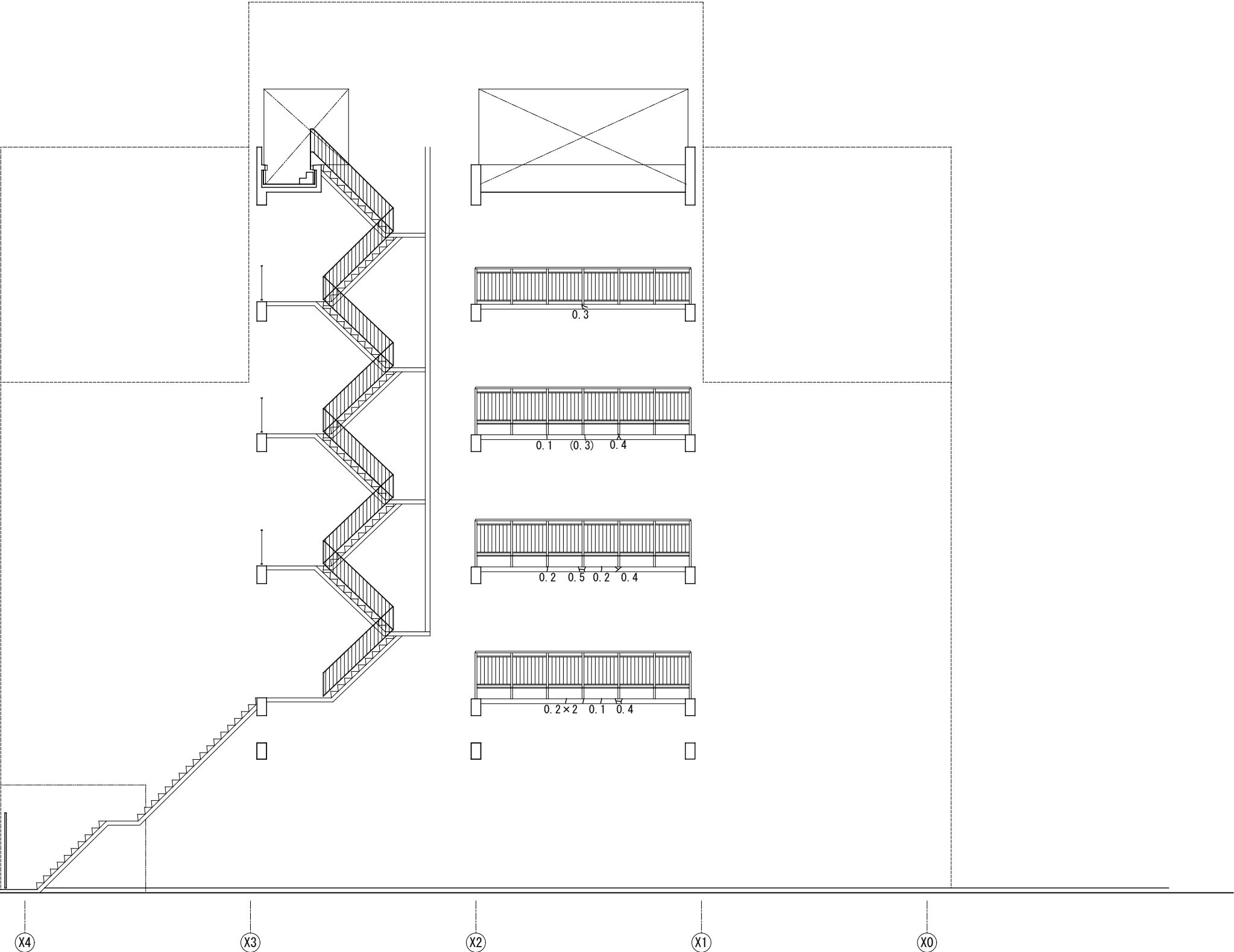
▽4FL

▽3FL

▽2FL

▽M2FL

▽1FL
△GL



補修立面図 1号館北側：②断面 1/100

記号	種別 (サイズ)			数量 (X3～X2)	数量 (X2～X1)		小計	単位
〰	クラック (0.2mm以上1.0mm未満)			—	3.0		3.0	m
〰〰	クラック (1.0mm以上)			—	0.3		0.3	m
×	爆裂 (100mm×100mm/箇所)			—	—		—	箇所
△	欠損 (100mm×100mm/箇所)			—	—		—	箇所
●	コッター跡 (丸) 浮き・剥落			—	—		—	箇所
■	コッター跡 (四角) 浮き・剥落			—	—		—	箇所
▨	浮き			—	—		—	m2
S	セパレーター飛出し			—	—		—	箇所
◎	シーリング発錆部			—	—		—	箇所
表記無	Pコ脱型跡 浮き・剥落			—	—		—	箇所

備考

工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事		
図面名称	補修立面図 1号館北側：②断面		図面番号
作成年月	令和6年6月		A-58
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

▽PH^ハ 5^ハ ット天端
▽PHRSL (水下)

▽RF手すり天端
▽RSL (水下)

▽5FL

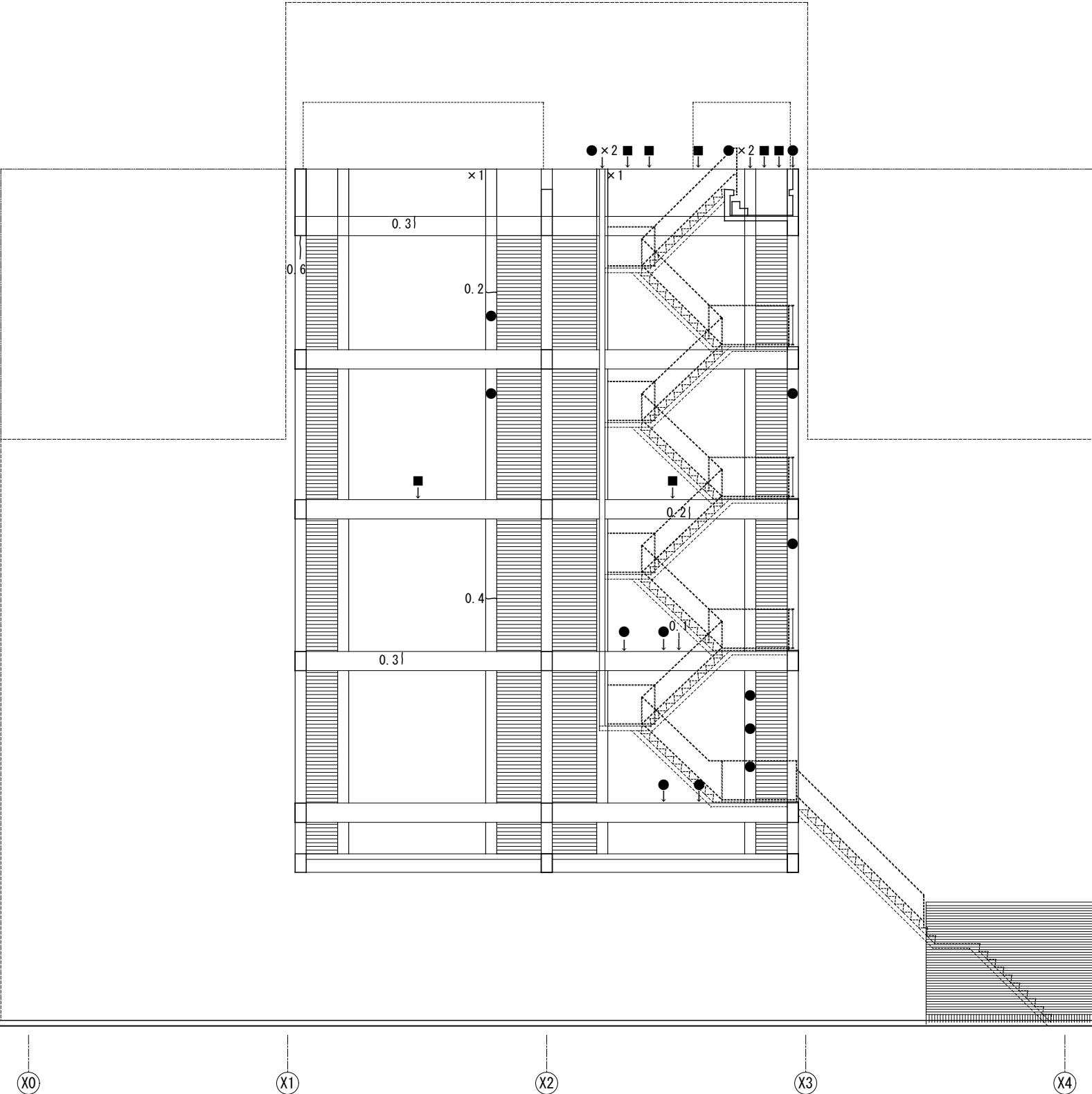
▽4FL

▽3FL

▽2FL

▽M2FL

▽1FL
△GL



記号	種別 (サイズ)			数量 (X1～X2)	数量 (X2～X3)			小計	単位
〰	クラック (0.2mm以上1.0mm未満)			1.8	0.3			2.1	m
〰〰	クラック (1.0mm以上)			—	—			—	m
×	爆裂 (100mm×100mm/箇所)			1	1			2	箇所
△	欠損 (100mm×100mm/箇所)			—	—			—	箇所
●	コッター跡 (丸) 浮き・剥落			2	14			16	箇所
■	コッター跡 (四角) 浮き・剥落			1	6			7	箇所
▨	浮き			—	—			—	m2
S	セパレーター飛出し			—	—			—	箇所
◎	シーリング発錆部			—	—			—	箇所
表記無	PC剥脱型跡 浮き・剥落			—	—			—	箇所

備 考

工 事 名	横浜新技術創造館 (リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事		
図面名称	補修立面図	1号館北側：③断面	図面番号
作成年月	令和6年6月		A-59
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

▽PHA' 3A' 71天端
▽PHRSL (水下)

▽RF手すり天端

▽RSL (水下)

▽5FL

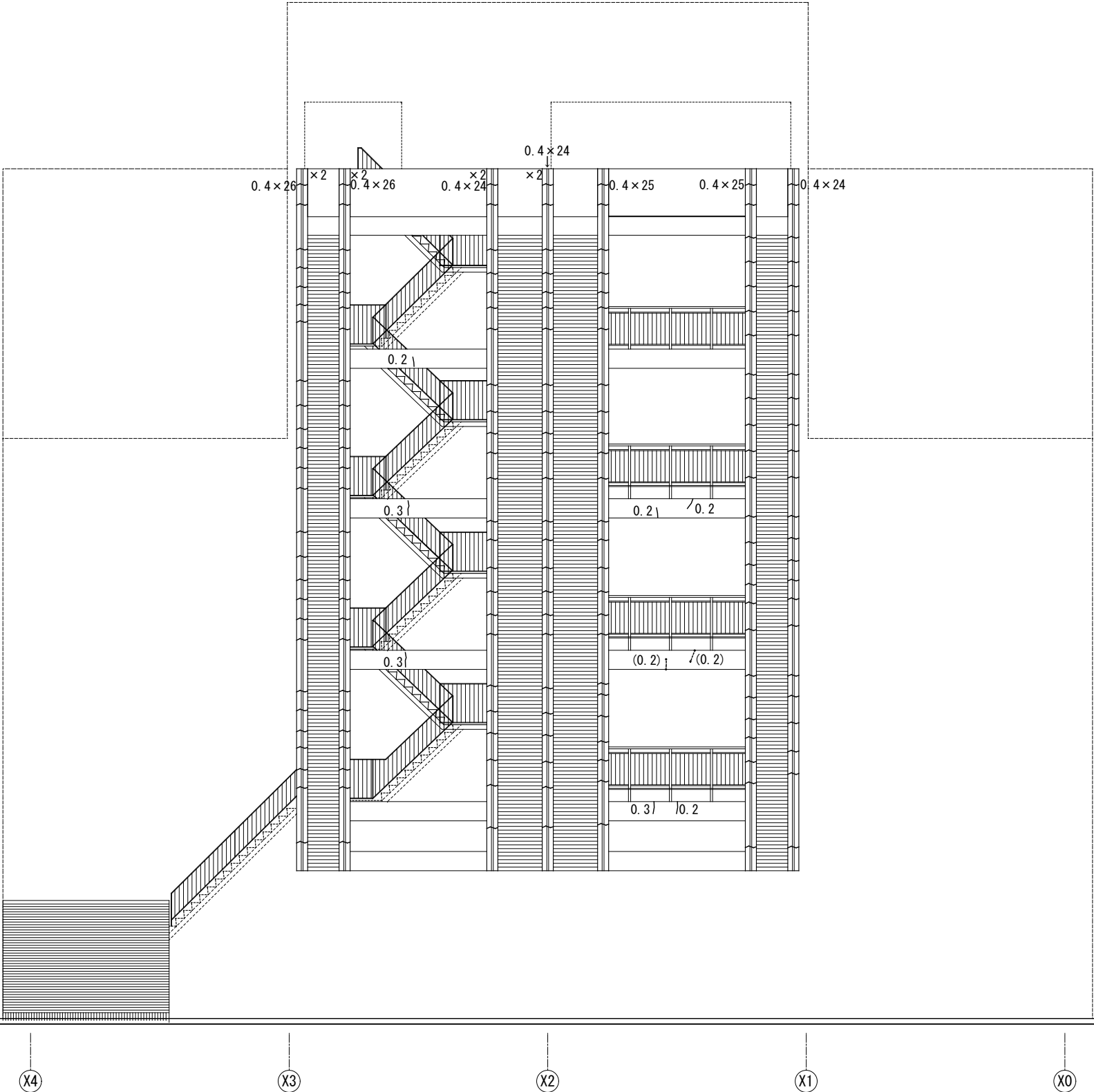
▽4FL

▽3FL

▽2FL

▽M2FL

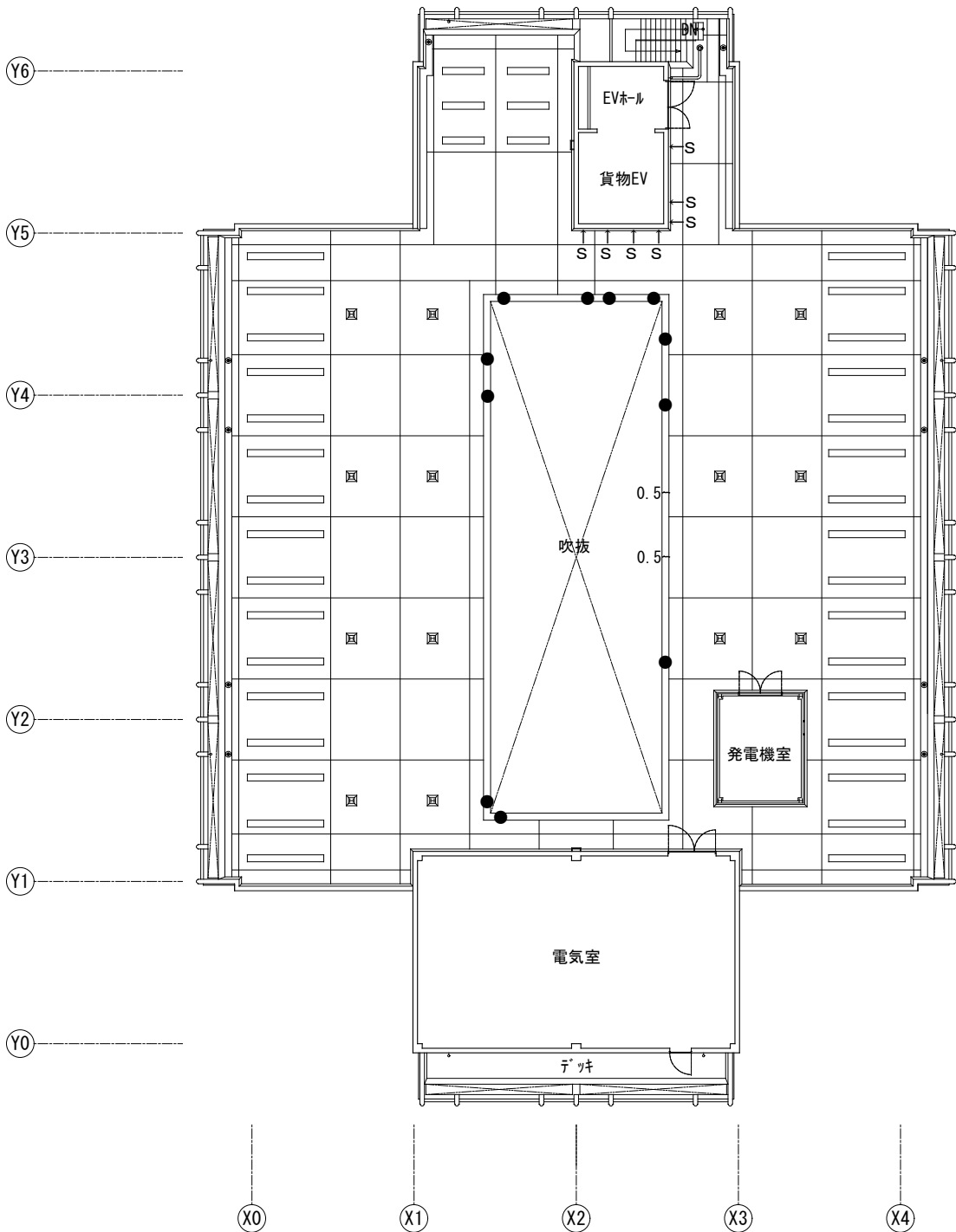
▽1FL
△GL



補修立面図 1号館北側：④断面 1/100

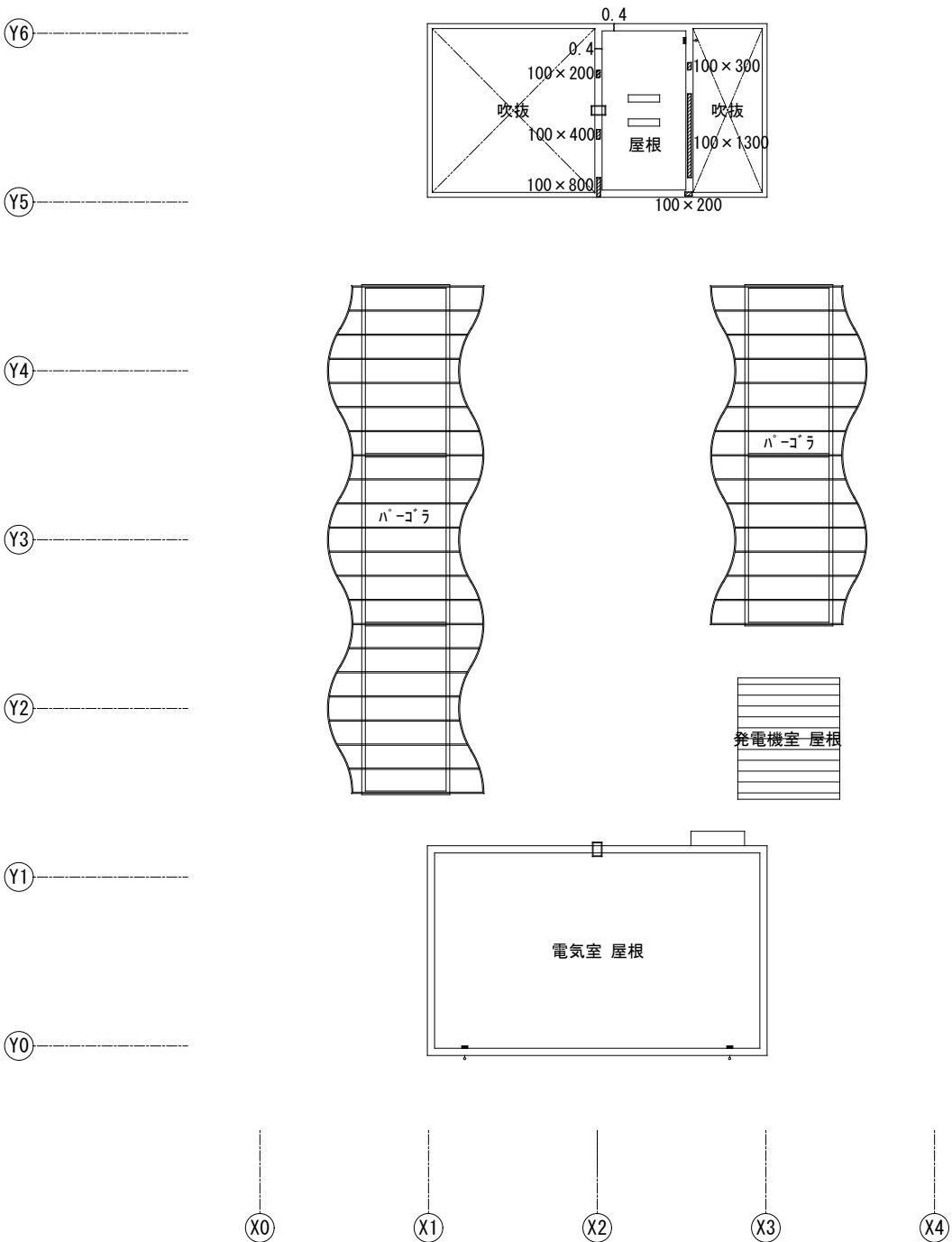
記号	種別 (サイズ)	数量 (X4～X3)	数量 (X3～X2)	数量 (X2～X1)	小計	単位
〰	クラック (0.2mm以上1.0mm未満)	—	31.2	40.1	71.3	m
〰〰	クラック (1.0mm以上)	—	—	0.4	0.4	m
×	爆裂 (100mm×100mm/箇所)	—	8	—	8	箇所
△	欠損 (100mm×100mm/箇所)	—	—	—	—	箇所
●	コッター跡 (丸) 浮き・剥落	—	—	—	—	箇所
■	コッター跡 (四角) 浮き・剥落	—	—	—	—	箇所
▨	浮き	—	—	—	—	m2
S	セパレーター飛出し	—	—	—	—	箇所
◎	シーリング発錆部	—	—	—	—	箇所
表記無	PC剥脱型跡 浮き・剥落	—	—	—	—	箇所

備 考	工 事 名	横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事		
	図面名称	補修立面図 1号館北側：④断面		図面番号
	作成年月	令和6年6月		A-60
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団			



＜ 1号館屋階 ＞

補修平面図 1号館：屋階・PH階 1/200



＜ 1号館PH階 ＞

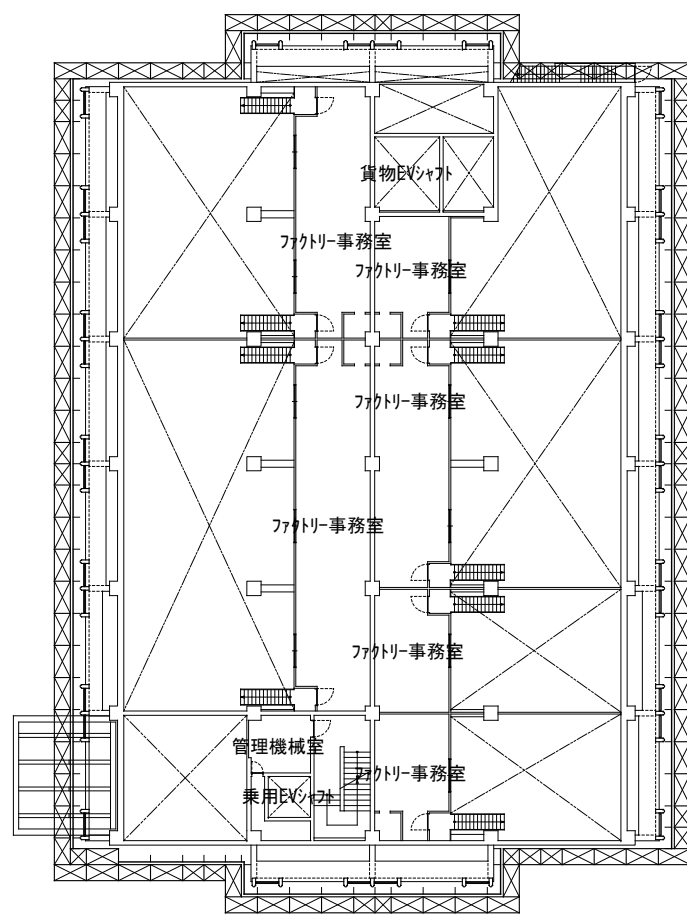
記号	種別(サイズ)	数量(屋階)	数量(PH階)	小計	単位
〰	クラック(0.2mm以上1.0mm未満)	1.0	0.8	1.8	m
〰	クラック(1.0mm以上)	—	—	—	m
×	爆裂(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	箇所
△	欠損(100mm×100mm/箇所)	—	—	—	箇所
●	コッター跡(丸) 浮き・剥落	11	—	11	箇所
■	コッター跡(四角) 浮き・剥落	—	—	—	箇所
▨	浮き(狭幅部)	—	3.2	3.2	m
S	セパレーター飛出し	7	—	7	箇所
◎	シーリング 発錆部	—	—	—	箇所
表記無	Pコン脱型跡 浮き・剥落	—	—	—	箇所

備考

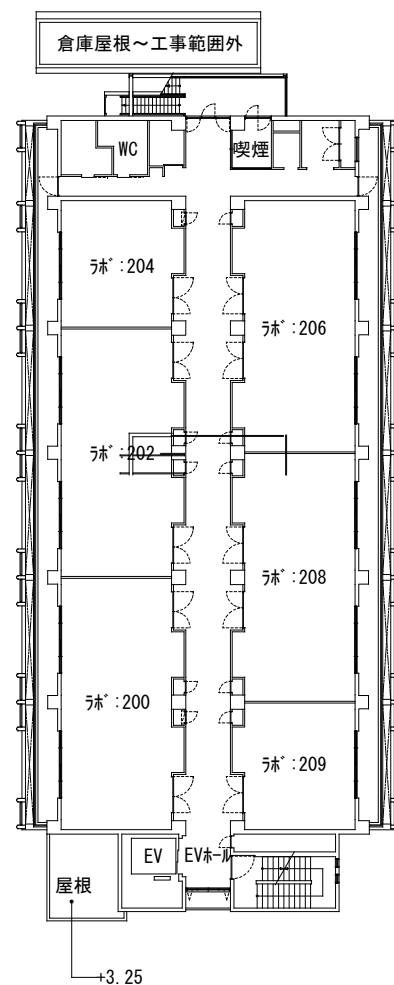
- 設備基礎週りに「Pコン脱型跡 浮き・剥落」が330箇所あるが、今回は工事範囲外とする
- 中庭廻り(バルコニーを含む)は工事範囲外ではあるが、建物保全の観点から補修は本工事に含むものとする

工 事 名	横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事		
図面名称	補修平面図 1号館：屋階・PH階		図面番号
作成年月	令和6年6月		A-61
公益財団法人 横浜企業経営支援財団			

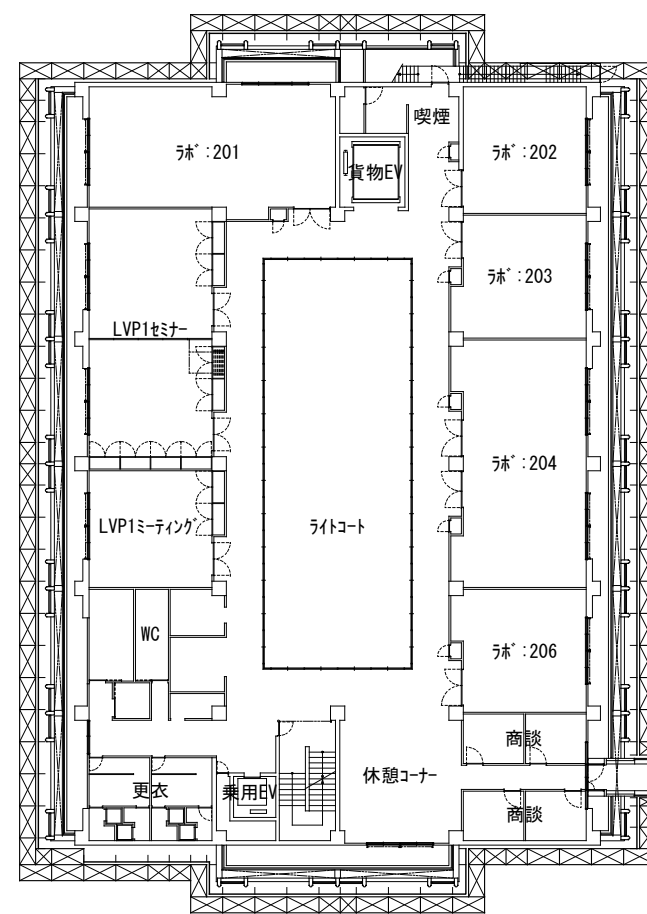
Uカットシール材充填工法		充填工法(軽量E ₂ ・杉樹脂E ₂ W)		充填工法(軽量E ₂ ・杉樹脂E ₂ W) ※ 危険性「大」の場合	
打放し(A工法)	打放し(B工法)	E ₂ W塗り(A工法)	E ₂ W塗り(B工法)	打放し	E ₂ W塗り
※挙動あり：ひび割れ幅＞1.0mm	※挙動あり：0.2mm≦ひび割れ幅≦1.0mm ※挙動なし：ひび割れ幅＞1.0mm	※挙動あり：ひび割れ幅＞1.0mm	※挙動あり：0.2mm≦ひび割れ幅≦1.0mm ※挙動なし：ひび割れ幅＞1.0mm	補修範囲の確認 下地処理・ケレン プライマー塗布 E ₂ ・杉樹脂E ₂ Wの計量・混練 E ₂ ・杉樹脂E ₂ Wの充填 表面仕上げ 養生 清掃 自主検査	補修範囲の確認 下地処理 ケレン清掃 プライマー塗布 軽量E ₂ ・杉樹脂E ₂ Wの計量・混練 軽量E ₂ ・杉樹脂E ₂ Wの充填 表面仕上げ 養生 清掃 自主検査
Uカット		樹脂注入工法		※注記：詳細の仕様はメーカー仕様による	
充填工法(※リマセメント樹脂E ₂ W) ※ 危険性「小」の場合		樹脂注入工法		充填工法(軽量E ₂ ・杉樹脂E ₂ W) ※ 危険性「大」の場合	
打放し	E ₂ W塗り	打放し	打放し	E ₂ W塗り	E ₂ W塗り
補修範囲の確認 下地処理 ケレン清掃 プライマー塗布 ※リマセメント樹脂E ₂ Wの計量・混練 ※リマセメント樹脂E ₂ Wの充填	表面仕上げ 養生 清掃 自主検査	補修範囲の確認 ひび割れ部の清掃 注入孔位置決め 台座の貼り付け 仮止めのシール	補修範囲の確認 ひび割れ部の清掃 注入孔位置決め 台座の貼り付け 仮止めのシール	補修範囲の確認 下地処理 ケレン清掃 プライマー塗布 軽量E ₂ ・杉樹脂E ₂ Wの計量・混練 軽量E ₂ ・杉樹脂E ₂ Wの充填 表面仕上げ 養生 清掃 自主検査	補修範囲の確認 下地処理 ケレン清掃 プライマー塗布 軽量E ₂ ・杉樹脂E ₂ Wの計量・混練 軽量E ₂ ・杉樹脂E ₂ Wの充填 表面仕上げ 養生 清掃 自主検査
アンカーベッティング部分E ₂ ・杉樹脂注入工法 ※〔石綿含有仕上げ塗材等の場合：集じん装置付きデイスラグラインガーケレン工法〕		アンカーベッティング全面E ₂ ・杉樹脂注入工法 ※〔石綿含有仕上げ塗材等の場合：集じん装置付きデイスラグラインガーケレン工法〕		ポン脱型部・コッター跡充填工法(※リマセメント樹脂E ₂ W)	
E ₂ W塗り		E ₂ W塗り		打放し	
※ 1ヶ所の浮き面積が0.25m2未満の場合		※ 1ヶ所の浮き面積が0.25m2以上の場合		※ 1ヶ所の浮き面積が0.25m2以上の場合	
補修範囲の確認 アンカーベッティングの本数と配置の決定 せん孔 孔内の清掃 アンカーベッティング固定用E ₂ ・杉樹脂の計量・混練 アンカーベッティング固定用E ₂ ・杉樹脂の注入		補修範囲の確認 アンカーベッティングの本数と配置の決定 せん孔 孔内の清掃 アンカーベッティング固定用E ₂ ・杉樹脂の計量・混練 アンカーベッティング固定用E ₂ ・杉樹脂の注入		補修範囲の確認 アンカーベッティングの本数と配置の決定 せん孔 孔内の清掃 アンカーベッティング固定用E ₂ ・杉樹脂の計量・混練 アンカーベッティング固定用E ₂ ・杉樹脂の注入	
アンカーベッティングのせん孔位置を右上表にてチェックでマキнгする。 注入孔位置に15～30mm深さにせん孔する。 ※石綿含有仕上げ塗材等のせん孔には〔集じん装置付き電動ドリル〕を使用する。 アンカーベッティング用のせん孔深さは、躯体コンクリートに30mm以上とする。 せん孔径は使用するアンカーベッティングの直径より2mm程度大きい直径とする。 孔内の切粉等をブローや圧縮空気等で除去する。 主剤と硬化剤を規定量正確に計量し、充分に混練する。 グリッドを用いて、せん孔部の最深部から徐々にE ₂ ・杉樹脂を注入する。充填量は指定がある場合を除き1ヶ所当り25ccとする。 規定のアンカーベッティングを孔最深部まで埋め込む。 適切な長さのアンカーベッティングのねじ切り部分にアンカーベッティング固定用E ₂ ・杉樹脂を塗布してから、気泡の巻込みに注意して孔内最深部まで確実に挿入する。		アンカーベッティングのせん孔位置を右上表にてチェックでマキングする。 注入孔位置に15～30mm深さにせん孔する。 ※石綿含有仕上げ塗材等のせん孔には〔集じん装置付き電動ドリル〕を使用する。 アンカーベッティング用のせん孔深さは、躯体コンクリートに30mm以上とする。 せん孔径は使用するアンカーベッティングの直径より2mm程度大きい直径とする。 孔内の切粉等をブローや圧縮空気等で除去する。 主剤と硬化剤を規定量正確に計量し、充分に混練する。 グリッドを用いて、せん孔部の最深部から徐々にE ₂ ・杉樹脂を注入する。充填量は指定がある場合を除き1ヶ所当り25ccとする。 規定のアンカーベッティングを孔最深部まで埋め込む。 適切な長さのアンカーベッティングのねじ切り部分にアンカーベッティング固定用E ₂ ・杉樹脂を塗布してから、気泡の巻込みに注意して孔内最深部まで確実に挿入する。		アンカーベッティングのせん孔位置を右上表にてチェックでマキングする。 注入孔位置に15～30mm深さにせん孔する。 ※石綿含有仕上げ塗材等のせん孔には〔集じん装置付き電動ドリル〕を使用する。 アンカーベッティング用のせん孔深さは、躯体コンクリートに30mm以上とする。 せん孔径は使用するアンカーベッティングの直径より2mm程度大きい直径とする。 孔内の切粉等をブローや圧縮空気等で除去する。 主剤と硬化剤を規定量正確に計量し、充分に混練する。 グリッドを用いて、せん孔部の最深部から徐々にE ₂ ・杉樹脂を注入する。充填量は指定がある場合を除き1ヶ所当り25ccとする。 規定のアンカーベッティングを孔最深部まで埋め込む。 適切な長さのアンカーベッティングのねじ切り部分にアンカーベッティング固定用E ₂ ・杉樹脂を塗布してから、気泡の巻込みに注意して孔内最深部まで確実に挿入する。	
備考 1. 石綿含有仕上げ塗材の塗膜が劣化していることにより、塗膜除去が必要な場合は、剥離剤併用手工具ケレン工法により、適切に塗膜除去処理を行うこと。		工事名 図面名称 作成年月 公益財団法人 横浜企業経営支援財団		横浜新技術創造館(リーディングベンチャープラザ) 1号館外壁その他改修工事 図面番号 令和6年6月 A-62	



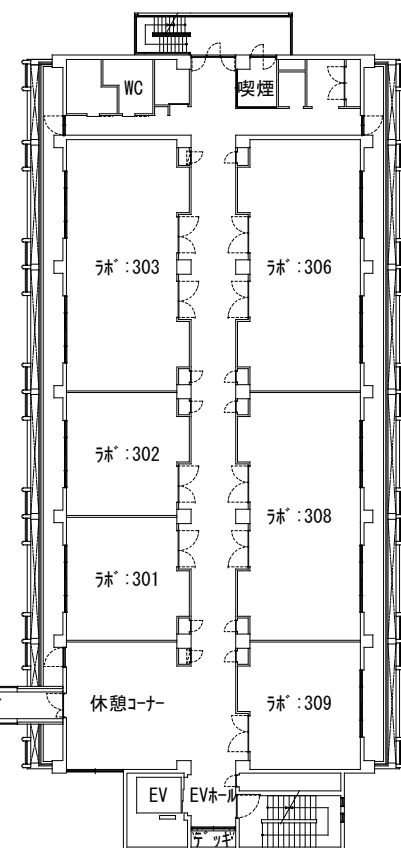
＜ 1号館中2階 ＞



＜ 2号館2階 ＞



＜ 1号館2階 ＞

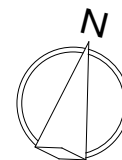


＜ 2号館3階 ＞

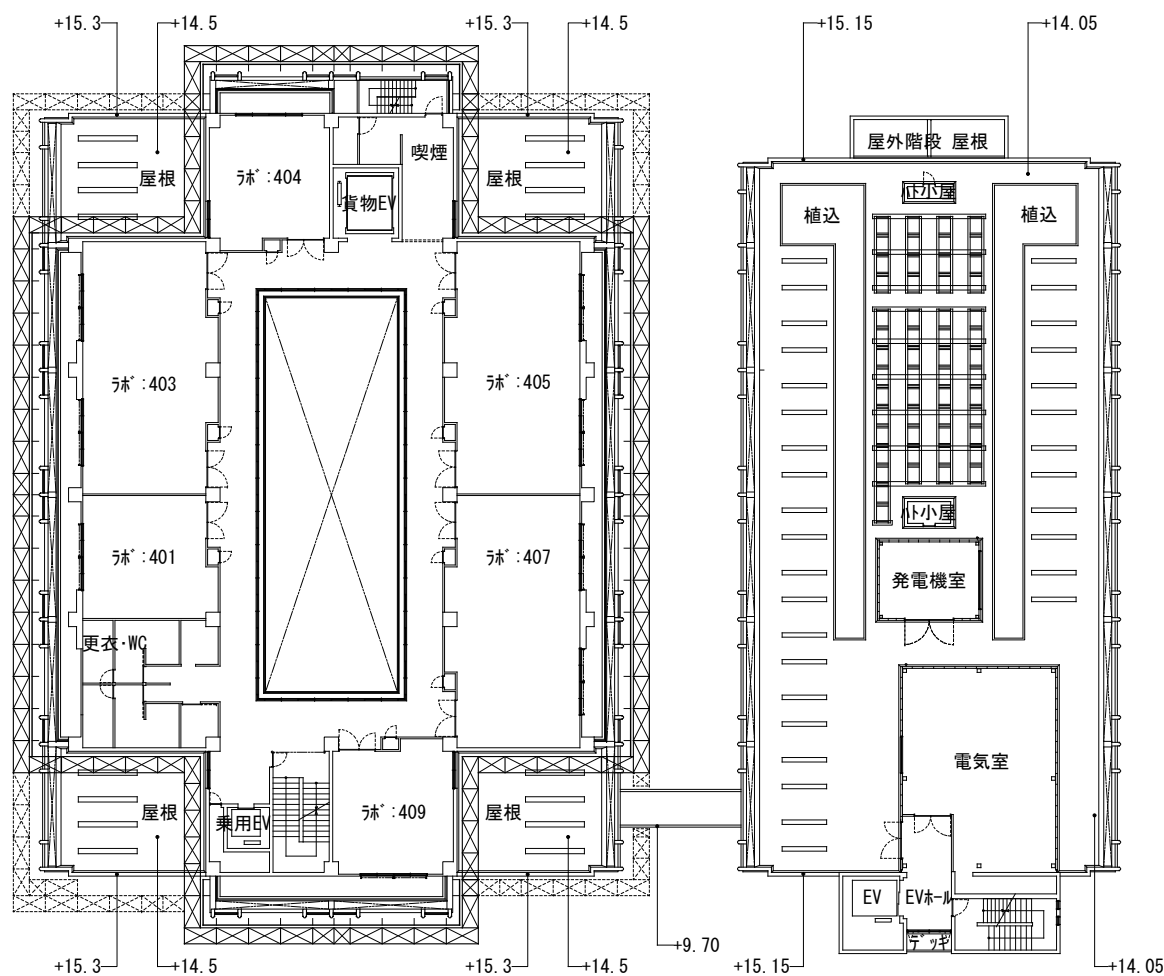
1号館中1階・2号館2階 仮設計画図 1/300

1号館2～3階・2号館3～4階 仮設計画図 1/300

【参考図】



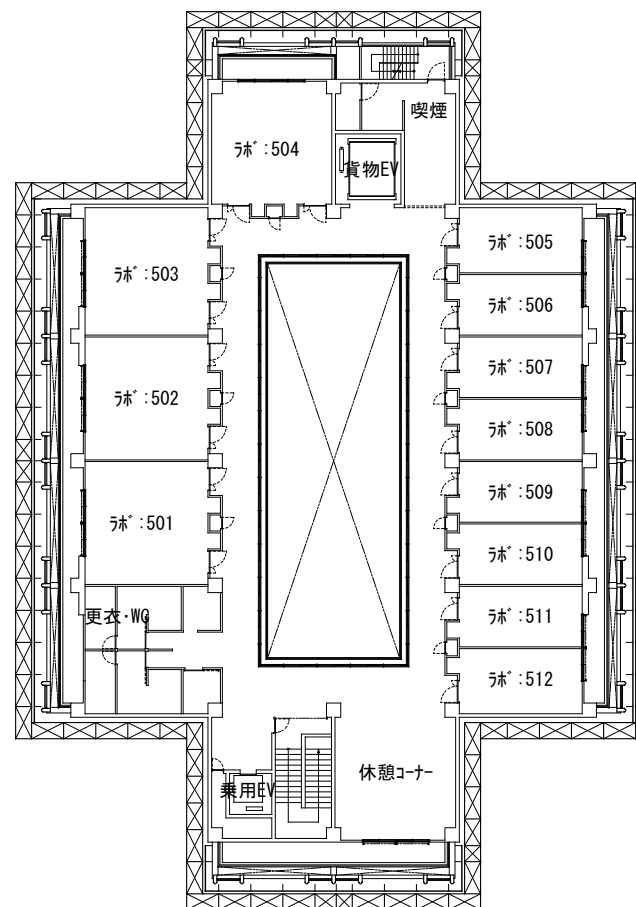
備 考	工 事 名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事
	図面名称		仮設計画図その2（参考図）
	作成年月		令和6年6月
	図面番号		A-64
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		



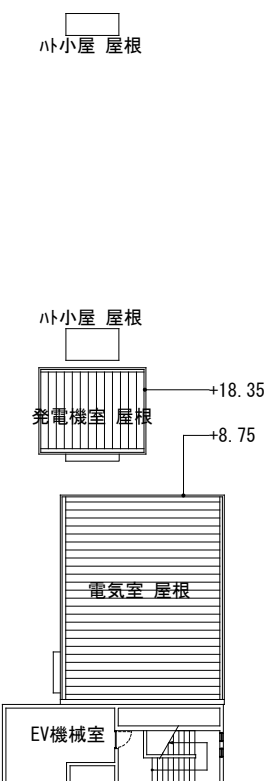
＜ 1号館4階 ＞

＜ 2号館屋階 ＞

1号館4階・2号館屋階 仮設計画図 1/300



＜ 1号館5階 ＞



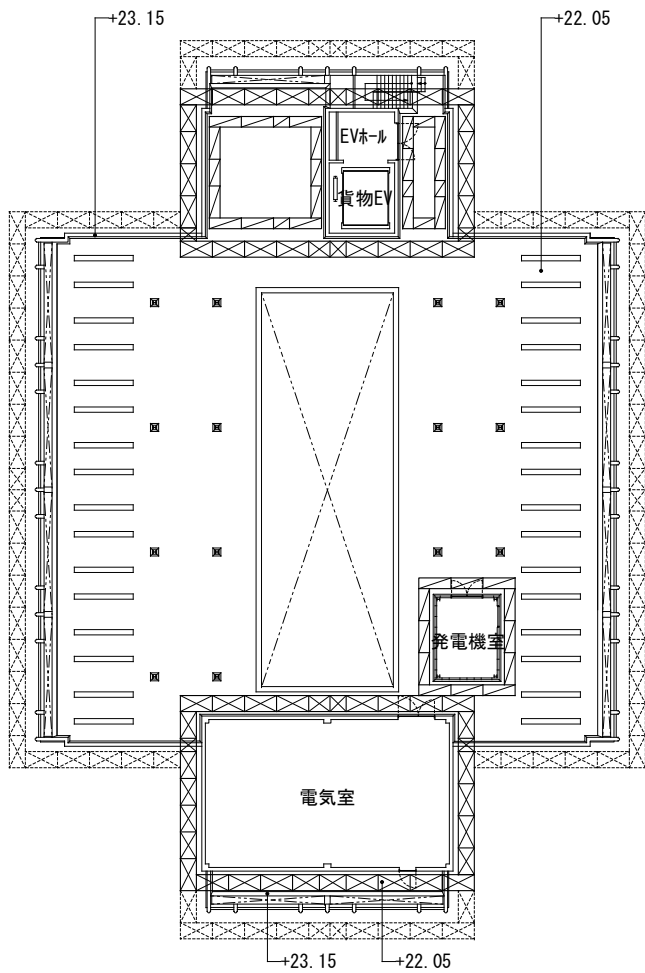
＜ 2号館PH階 ＞

1号館5階・2号館PH階 仮設計画図 1/300

【参考図】



備 考	工 事 名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事
	図面名称		仮設計画図その3(参考図)
	作成年月		令和6年6月
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		図面番号 A-65

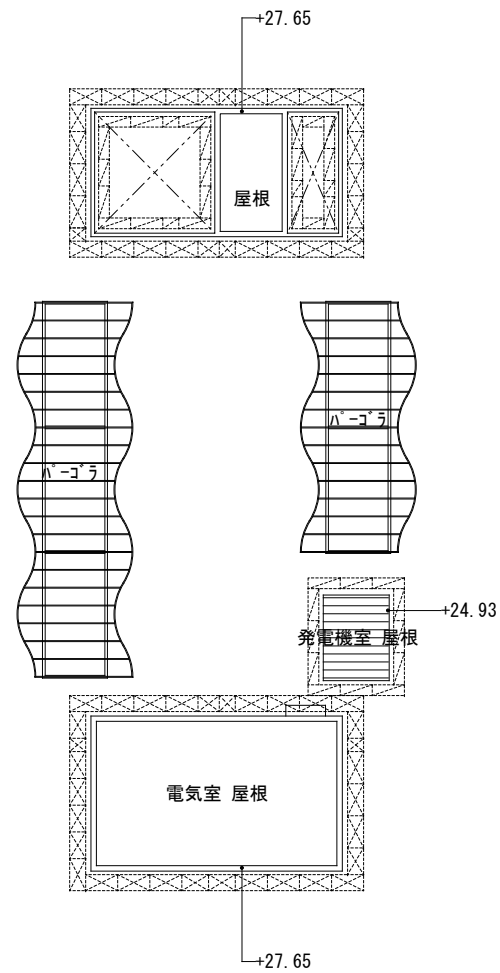


＜ 1号館PH階 ＞

1号館PH階・2号館PH屋階 仮設計画図 1/300

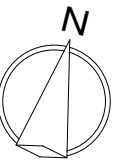


＜ 2号館PH屋階 ＞



1号館PH屋階 仮設計画図 1/300

【参考図】



備 考	工 事 名		横浜新技術創造館（リーディングベンチャープラザ） 1号館外壁その他改修工事
	図面名称		仮設計画平面図その4(参考図)
	作成年月		令和6年6月
	公益財団法人 横浜企業経営支援財団		図面番号 A-66